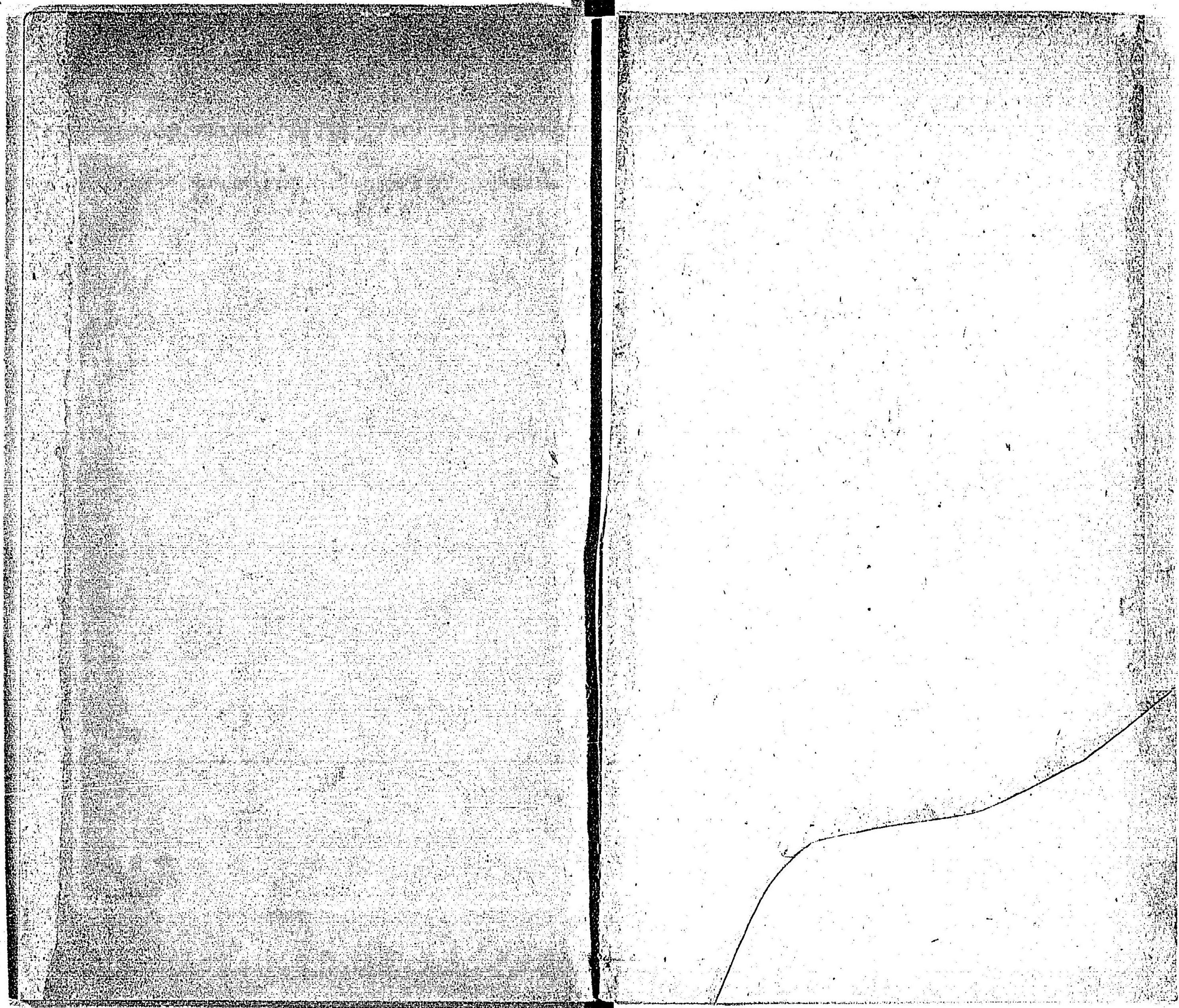


110  
670

福岡縣全誌

下篇



# 木場緋編卸商

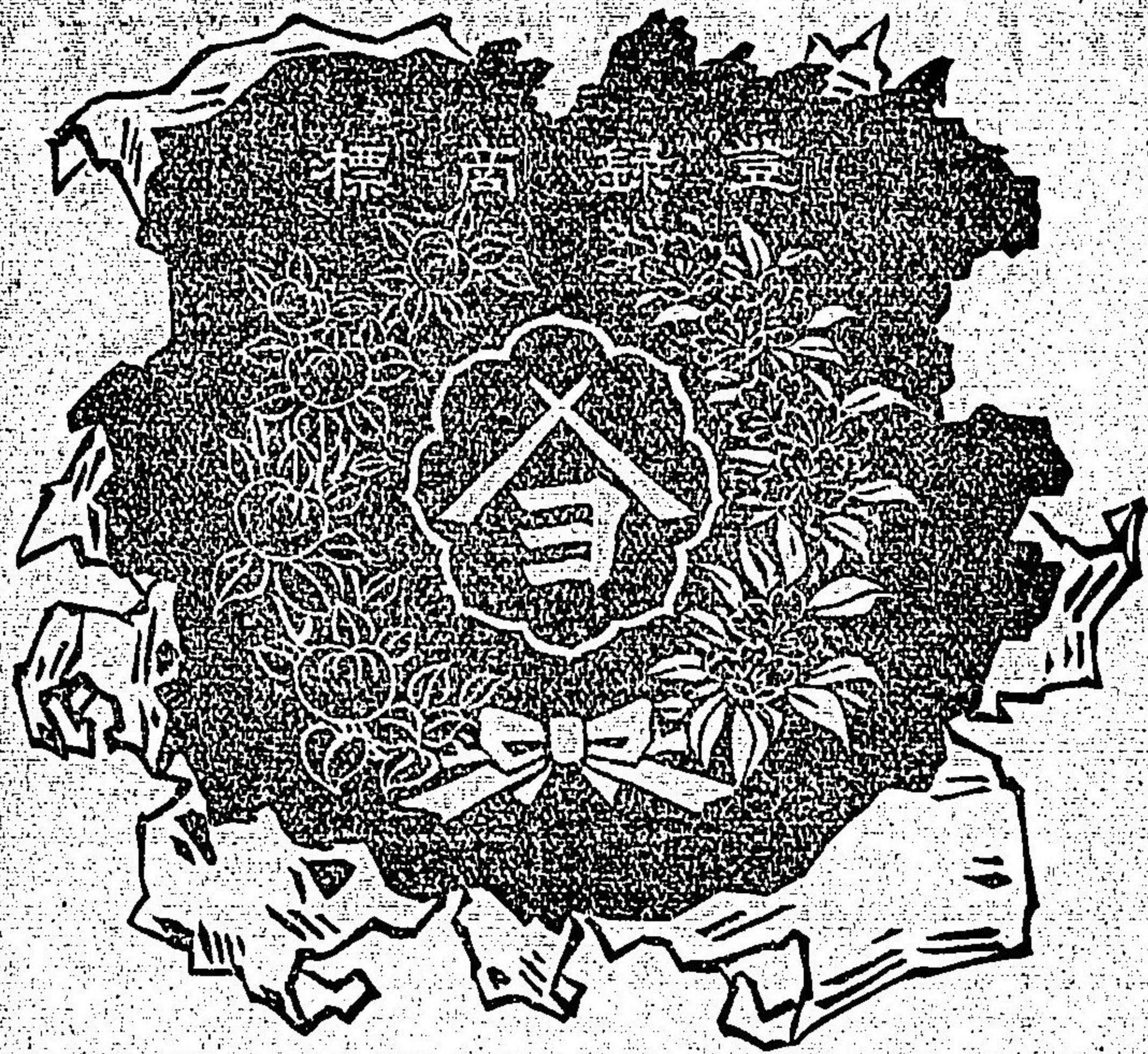


第十回全  
回五國  
九回意  
州內匠  
沖繩工  
繩國匠  
八國工  
縣勸業  
聯業博  
合博覽  
共覽會  
進覽會  
會會

領受賞等一



久留米市  
赤松市  
同本  
村  
市  
山  
資  
合  
村  
本  
緋  
松  
赤  
村  
本  
緋  
松  
赤  
村  
本  
緋  
松  
赤



## 吳服商

福岡市博多行ノ町

紙與支店

特電二百二十拾二番

受渡の確實迅速なるは當所の特色とす  
 受渡地は博多若津港の両所なり

株式博多若津港銀行

金融は各銀行と特に聯絡の便利あり  
 仲買は確實にして華主の遺憾なきを証す

福岡縣全誌下編目次

重なる都市……………一  
 舊藩主御三家の略傳……………四一  
 (黒田家、有馬家、立花家)……………四一  
 本縣管轄地の沿革……………六七  
 本縣維新以來知事、元書記官、元警部長、各郡長、各警察署長の歴任……………六九  
 本縣選出貴衆兩院議員第一議會以來の沿革……………一〇七  
 本縣々會開設以來選出議員の沿革……………一二二  
 福岡久留米門司小倉四市長及助役の歴任並に現時各都市會議員各町村長の氏名……………一五五  
 本縣各中學校師範學校各農工商學校各高等女學校の職員名卒業生徒數現在生徒數並に其經費……………一八八  
 福岡醫科大學に關する職員名及び學科目……………二〇八  
 九州鐵道會社重役(元豐州鐵道)の沿革……………二二二  
 博多灣鐵道會社の創立發起人並に現時重役の氏名……………二二五  
 各銀行重役人名……………二二七

明治  
 39 6 29  
 内交

40-650

本縣内現在辯護士の住所氏名……………二二二

本縣下三等郵便局長の氏名……………二二六

本縣内各炭鑛金屬鑛の所在地名稱鑛區坑主の氏名……………二四〇

本縣内各種工場の所在地名稱持主創業年月……………二九四

元寇當時の梗概並に元寇紀念碑の事……………三一一

本縣内郡市別所得稅拾五圓以上納むる者の氏名及び其稅額……………三三八

改長日本酒



釀造元

守永合名會社

小倉市京町三丁目

(電話長距離二五番)

並ニ各國銘酒ビール特約大販賣

40-650

本縣内現在辯護士の住所氏名……………二二二

本縣下三等郵便局長の氏名……………二二六

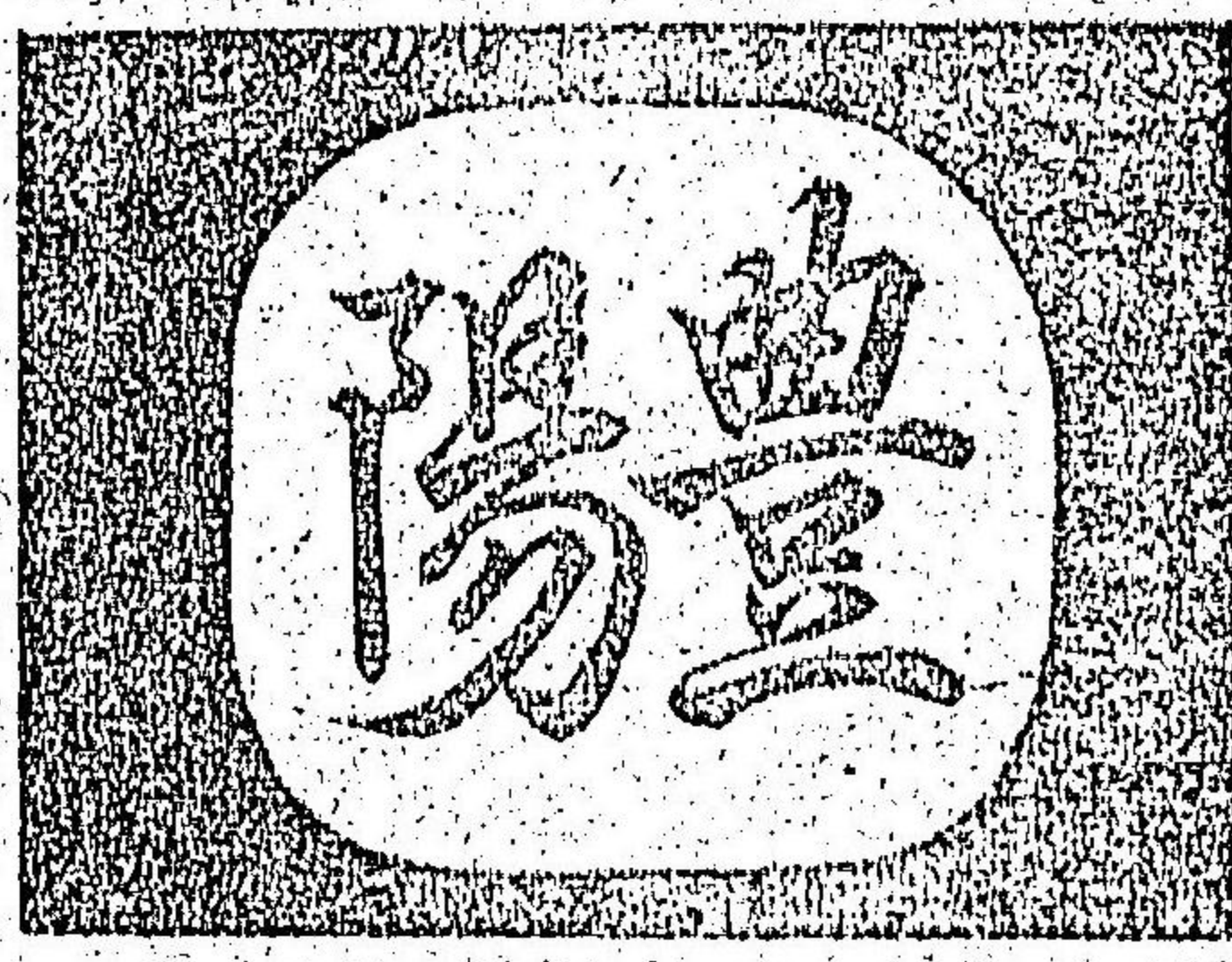
本縣内各炭鑛金屬鑛の所在地名稱鑛區坑主の氏名……………二四〇

本縣内各種工場の所在地名稱持主創業年月……………二九四

元寇當時の梗概並に元寇紀念碑の事……………三一一

本縣内郡市別所得稅拾五圓以上納むる者の氏名及び其稅額……………三三八

改長日本酒



釀造元

守永合名會社

小倉市京町三丁目

(電話長距離二五番)

並ニ各國銘酒ビール特約大販賣

人造肥料元祖

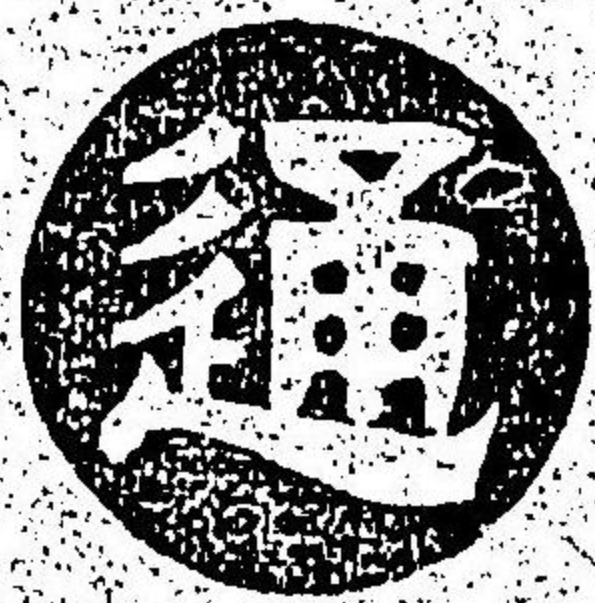
陛下の思召に依り侍從御差遣の榮を賜ふ  
第五回内國勸業博覽會名譽銀牌受領



特約販賣

福岡市博多官内町 門司 商店  
浮羽郡江南村 岩佐 商店  
（電話三五二番）  
商會

第五回内國勸業博覽會名譽銀牌受領  
明治五年六月創立



資本金壹百廿五萬圓  
諸積立金約四拾余萬圓  
支店所七十九店  
出張所千余店  
取引店千余店  
内國通運株式會社

營業  
通常貨物運送  
危險担保付運送  
旅客運送（所有船）  
次品代金前貸運送

博多驛（電話特七一六番）博多支店  
同驛前（電話特〇三番）馬場新町派出所  
福岡（電話特三六番）名島町集荷所



福岡縣全誌 下

第十六章 重もなる都市

第一 福岡市

筑前國の北部に位し、地勢概ね平坦にして荒津山の一小丘を有し、東は筑紫那珂郡那珂村、千代村及び豊平村に界し、西は樋井川を隔て、早良郡西新町、烏飼村及び筑紫郡警固村、住吉村に接し、北は一帶福岡灣に臨み、海陸運輸の便を有し、古來筑前五十二万石の城下として商工業殷盛を極め、九州の大版を以て目せらるゝのみならず、福岡縣廳其他縣下の政治機關皆此處に集り縣の首都たる可き地位にあり。

明治五年九月、筑前全國を十六大區とし、福岡を一大區、博多を二大區とし、每區に區長一名戸長三名を置けり。全九年五月、筑前全國を九大區に改正し、一、二大區(福岡博多)を合せて一大區とし、大區中を七小區に區別し、全十一年



KINOSHITA COMPANY.

高島洋服商

本國産物販賣

木下商會

福岡市博多中間町

福岡縣全誌 下

第十六章 重もなる都市

福岡市

筑前國の北部に位し、地勢概ね平坦にして荒津山の一小丘を有し、東は筑紫郡堅粕村、千代村及び豊平村に界し、西は樋井川を隔て、早良郡西新町、島飼村及び筑紫郡警固村、住吉村に接し、北は一帶福岡灣に臨み、海陸運輸の便を有し、古來筑前五十二万石の城下として商工業殷盛を極め、九州の大坂を以て目せらるゝのみならず、福岡縣廳其他縣下の政治機關皆此處に集り縣の首都たる可き地位にあり。

明治五年九月、筑前全國を十六大區とし、福岡を一大區、博多を二大區とし、每區に區長一名戸長三名を置けり。全九年五月、筑前全國を九大區に改正し、一二大區(福岡博多を合せて一大區とし、大區中を七小區に區別し、全十一年

十一月、第一大區を福岡區と改め、區に區長一名(判任)を置き、區内を二十五部に分ち、一部に戸長一名を設置せしが、全二十三年三月に至りて區制を廢し市制を施行することゝはなれり。然るに初め未だ市の組織成らざりしを以て、縣知事の訓令に據り、市長上任迄元區長の名義を以て従前の通り取扱ひをなし、全年四月二十四日、市會議員選舉會を開き、全月三十日初めて市會を開設し、全年六月三日市長上任し助役收入役其筋の認可を得て就職し、全年六月二十日、其他の吏員を置き、茲に全く自治の行政を施すに至れり。現今の町數を擧ぐれば百五十八ヶ町なり。

今其沿革の概要を記せんに、博多は元那珂郡(現今の筑紫郡)に屬せり、此市街の起原詳かならずと雖、往古太宰府を置かれし時既に人煙稠密の土地なりしや明かなり、續日本紀に孝謙天皇天平寶字三年三月庚寅太宰府言府官所見方有不安者四據警固式於博多大津及壹岐對馬等要害之處置船一百艘以上以備不虞而今無船可用交關機要不安一也云々とあり。是博多と云へる名の國史に見へたる初めなりとす。然して此地は航海の便よく、唐宋の頃より既に外國船舶の出入頻繁を極め、我國に於る海外貿易上最も古き市場として盛況を呈し、

且つ外防上重要な地点たるを以て東は箱崎西は今津に至るの海濱に、石疊を築き兵備を整へ防禦の要地とせり。彼の文永、弘安の役乃至蒙古襲來の時も此要地に依り専ら防戦せしこと人の知る所なり。然るに天文永祿の頃に至りて數回の戦争あり、民家盡く兵燹に罹り殆んど荒蕪の地と變じたるが、天正十五年春豊臣秀吉此地に來りて、西海第一の都會が、斯くの如く荒廢したるを惜しみ、即ち博多市街を十町四方に定め、壓横の小路を削り無税地として民屋を築造せしめたる結果、再び昔日の繁榮を見るに至れり。其後慶長五年黒田長政此國を領せしより、明治維新に至る迄三百年間殷富を保ち現今に及べるなり。

福岡は往古那珂郡警固村の境内福崎と云ひし海邊に、點々茅屋の存在せしに過ぎざりしもの、黒田長政筑前國を領するに及びて其治域を此所に拂へ、慶長六年全く市防城郭共に竣工して福岡と命名せしより今日の市街を形成するに至れり。初め福岡の東端には柵形と稱する郭門ありて、北は橋口南は天神丁に通じ、且つ該郭門の左右那珂川に沿ひ數間の石堤を築き、全く博多と區域を異にせしが、明治八年福岡縣廳新築の際、柵形門より南數馬門迄の石疊

を毀ちて建築の用材となり、堤防跡地は縣廳及び警察署郵便局の敷地となり、又楨形より北の石壘は明治三十一年那珂川埠頭延長の際之を撤去し、該石材を以て埠頭築造の用に供し、此堤防跡地を新道となせしを以て、爰に福博両市の郭壁を除去するを得たりしなり。

四

### 第一 久留米市

筑後第一の都市にして、筑前、肥後、豊後、肥前の中央に介在し、道路は縦横に開鑿し、鐵道は門司八代間に貫通し、筑後川は豊後川を經て市の西北部を繞り若津港を經て有明海に注ぎ、以て百貨の集散に便せり。明治廿二年市制を施行し現戸數五千四十三戸、人口三万二千七百七十七人を數ふ。市接續の地に第二十四旅團司令部、第四十八聯隊、商業學校、工業學校、市内に裁判所、監獄支署、中學校、高等女學校、紡績會社等ありて繁榮を極め、殊に久留米紵、久留米綿并に傘等の特有産物は年々巨額の生産額に達し、木蠟、古着類の如き九州第一の集散地たり。又四隣沃野相連り農産物豊饒にして其集散額亦侮る可からざるものあり。戸々皆富み中産以上の商賈は貸金の業を

營むもの甚なからず。

全市の沿革は永正年間土豪某初めて今の久留米市篠山町に城廓を築き篠山城と稱す。大永年間豊公大夫の部將豊饒鎮連之に據り、天文中御井の土豪某再築し、天正中高良山の坐主丹波良寛其弟麟圭を以て城主となせり。天正十五年豊臣秀吉之を毛利秀包に賜ひ、斯くて慶長五年毛利氏の其封を失ふや黒田圖書和田備中城代たり。全年田中吉政本國に封せられ、三男主膳正某を以て常城を守らしむ。田中氏亡びて松倉豊後守竹中采女正等城監たりしに、元和七年有馬豊氏筑後國八郡に封せられ以て明治維新に及びたるが、廢藩置縣と共に明治四年久留米縣となり、全年更に三潯縣を置き後福岡縣に合併せり。

### 第三 門司市

門司市の區域は、門司、楠原、小森江、田野浦の四ヶ村を包含し、元文字ヶ關村と稱へ企救郡に屬し寥寥たる一小寒村にして漁農相混し、僅に門司ヶ關の古跡として、又た隼人神祠の名勝として文人歌客に其名を知られしに過ぎず。而かも其北下關と拱して海峡をなし、壘の浦と對するところ海上僅か

五

六 六  
に六町、東周防灘の口を扼し、硯の海を抱きて遙に玄海洋に臨む、其の天然の形勝は内海の咽喉を占むるにも拘らざり、古來本土九州間の往還は大里より直航して下關に接続し、旅客の門司を過ぐるものあらざりして漁歌松嶺と和し、會て世の堆移を知らざるものゝ如くなりき。然るに明治三十二年十一月此地を以て特別輸出港に指定され石炭の輸出噸に盛況を極め、又た全廿四年十一月、九鐵の門司、高瀬間開通と共に九州及中國の接続地点となり、貨客の集散往來織るが如くにして著しき進歩發達を遂げたり。是れより先き港灣改良の必要を認め有志相謀り資本金貳拾五萬圓を以て築港會社を組織し、埠堤を築き海面を埋めて街地を開闢し、船溜及運河を開鑿して漕運に便し、道路を拓き橋梁を架し溝渠を設けて下水を排渫する等畫策殆んど漏すところなく、明治三十年に至りて全部功を竣へ、門司市街の要部をなすに至れり。開港當時に於ける全市の戶數は六百六十一戶、人口三千百三十二人にして、物産は僅に一ヶ年一萬石餘の食鹽を産するに過ぎざりしが、爾來十數年間年々著しく戶口増殖し、三十七年現在に依れば戶數一萬餘、人口三萬八千四百餘の多きに達し、獨り關西有數の大市たるに至りしのみならず、最近一個年

海外輸出入額約三千万圓、出入の船舶貳千五百七十七萬四千餘噸の多きに昇り、全國開港場中横濱、神戸、大阪に亞ぎ、遙に久しき年所に富める新潟、函館、長崎等の諸港を凌駕するに至る。東洋航行の大船巨舶にして關門海峡を過さざるものなく、關門海峡を過ぐるものにして門司港に繫留せざるはなきなり。燃料の石炭は埠頭に堆く、船舶の需用品一として商輔に備はらざるなく、貿易の商品は此地に於て集散し、海濶く水深くして日々碇繋の巨船數十隻、小舸艇舟は樓指能く數ふべきにあらず、帆船埠頭に充ち、市街又般賑東洋商港中新進多望の一大良港を以て目せられ、將來の發達更に幾十倍を加ふ可きを豫期せらる。

七  
而して市街繁華の中樞は、港町棧橋通り西本町東本町海岸通、内本町、榮町、新町等にして、第一第二船溜は百貨の湊る所、之を聯絡する運河は幅六間長さ三百七拾余間にして、無數の荷船出入絶へざり、河上架するところ之を鎮西橋と云ひ、橋畔日本銀行西部支店あり。三井、三菱、住友、帝國、商業、日本商業、貳拾三等の各銀行は、市内に點在して商業に便し、日本郵船、大阪商船等の諸會社は海岸通にありて漕運に利し、淺野セメント工場は白木崎に

ありて生産巨額に達し、田野浦、舊門司等は漁業盛にして採藻捕漁の利亦甚しとせず。  
港の北端境の浦に面し、蔚蔚たる青松碧波に映し、怪巖奇石自から風趣に富み、廟舎宏壯ならざるも亦崇高にして森嚴なり、之を名勝和布神社(平入神社とも云ふ)とす。四時参賽風月を賞するもの絶へず。

#### 第四 小倉市

昔ては小倉城下として、今は第十二師團所在地として豊前第一の都市たり。此地菊地武光始めて小倉城を築き、三男武親をして之に居らしむ。又天文二十年冷泉隆豊も姑く居城せりと云ふ。降て天正中に至り毛利勝信、金救、山川の二部を領し此城に移り名を勝山城と改む。其後黒田孝高の有となり、慶長五年甲子甲斐守長政に至り筑前に移りしを以て、細川忠興代り領す。寛永九年小笠原忠真、播磨國明石より移り之に居り、爾來世襲二百余年、慶應三年田川郡香春に移りしより毛利氏預り保つ所となる。明治三年日田縣管轄となり、全四年十月小倉縣管轄、全九年福岡縣に屬し企救郡の一部たり、全三十

三年に至りて初めて市制を施行し以て今日に至れり。全市には久留米市の如くに織物其他の生産品を有せき。又門司市の如くに内外貿易品の集散地たる能はき。隨て市街の繁榮は近接せる門司及若松等の發達するに伴れて、却て衰退しつゝあるやの觀あり。唯第十二師團所在地なるの故を以て僅に其命脈を保てり。而して三十六年末現在に依れば現住戸數四千三百六十七戸、人口三万二千九百六十四人なり。然れども洞海湾の周圍及小倉一帯の地は將來工業地として矚目さる。勝山城下各種工業の勃興して烟突林をなすに至らば、小倉市の繁榮必らきしも望み難きにあらざる也。

#### 第五 蘆屋町 (遠賀郡)

蘆屋町は郷洋に沿ひ遠賀川に枕し風景絶佳なり。古へ崗水門と稱し、古事記、日本書記、風土記に記載せられたる如く、神武天皇東征の時一年間滞在あらせられ、其後仲哀天皇神功皇后も御舟を寄せ玉ひ、源平の頃安徳天皇九州に蒙塵し玉ひし時も、此港に行幸ありて山鹿村に移り山鹿兵藤治が城を行

在所として姑く風駕を駐め給ひし事は、世人の遍く知る所なり、されば古來より九州の要津と稱し、遠賀川沿岸の各郡より産出する石炭其他、各種の産物は多く此港に集り、此より馬關、廣島、大阪又は長崎などに輸出せしを以て、商業繁榮民庶蕃富にして、戸數一千余を有せり。殊に舊藩時代には石炭會所、生蠶會所、洲口番所等此地に設けあり殷盛を極めたるが、維新後等は悉て廢止せられ、爲めに一時衰頹に傾きしも、更に郡役所、警察署、稅務署、登記所、中學校、病院等の設置ありたり、然るに中學校は明治十八年七月限り廢止となり、更に郡立涵泳學校を設置せしも、是れ亦十九年三月限り廢止となり其跡に高等小學校を設置せり。郡役所は明治三十一年の頃折尾村に移轉し、其後引續き稅務署も同村に移轉し、登記所病院高等小學校のみ現存せり。商業は明治二十年の頃より若松港日を逐て繁榮するに隨ひ全町に輸送する石炭減少し、之に關係する商店は一時困難せしも、普通の商家は格別の影響を蒙らば、相應の營業をなし各戸相當の生計を立て、町稅の如きは不納者なく、却て他町村の模範となれり。近來築港の計畫をなすものあり、之が成功の曉には多少其面目を一新せんか。産物は蘆屋釜、三里松原の松露、蘆

江の鱈魚等あり。然るに蘆屋釜は二百四五十年以前迄は製造せしも現今は既に廢滅に歸せり。又全町は明治三十八年、山鹿村と合併し蘆屋町の名稱となせり。

### 第六 若松町 (遠賀郡)

若松町は、東は戸畑に接し、南は洞海を挟み遙に八幡黒崎の兩町に相對し、西は石峯村に界ひし、北は玄海洋に沿ひたる筑前北部の位置に在る一大新市街なり。抑も本町は元修多羅村の枝邑なりしが、黒田長政入國の後ち(元和年間)分離せしと云ふ、初め長政封を筑前に享るや、地理上此地の運輸に便なるを視察し、將來黒田家の經綸として此地を開き港市となし、遠賀川沿岸及筑豊地方の物産を此に運致し更に之を大阪へ輸販し、以て封内を富さんことを謀り之を一大商港となさんとして、彼の有名なる大工事たりし堀川の開鑿をなし、種々漕運の便を講したるも、遂に其目的を達せざりしは時勢の然らしむる所なるも是れ實に遺憾の極なりしと云ふべし。爾來此地は只た貢米を上方へ輸出するに留まりて寂々たる僻陬瀕海の一小部落に過ぎざりし。

降て廢藩置縣後即ち明治六年四月初めて地方區劃の制行はるゝに方り、復た修多羅村と聯合して五大區十九小區と稱せり、同年二月小石、小竹、藤木の三村を加へて五ヶ聯合村なりしが、同年十二月四大區六小區と改正するに至り、戸畑、中原、枝光、大藏、尾倉を併せ都合十ヶ村の大聯合村となりぬ。其後明治十一年十二月大小區の制を廢し、新に地方行政の區域を定め一村一戸長の制となり、此に初めて自治体を孕成するに至り、爾來年一年人戸次第に増殖せしかば、明治二十四年三月二日を以て若松町と改稱することゝなれり。

明治十六七年の頃より遠賀川の流域五郡の野に炭山の開くるあり、後ち數年なら走して大規模の炭坑大に増加し、萬億の石炭は其出口を門司若松に求め、而る後ち神戸、大阪、上海、新嘉坡及其他の市場へ搬輸するに至り、前きの寥寥たりし僻陬の一小部落は忽ちにして億兆石炭の集中心となり、茲に今日の殷闐繁榮たる一大海港とは變したるなり。

明治二十四年八月筑豊線の若松直方間へ開通せしも運炭の諸設備未だ完成せざ、坑主は尙ほ舊慣を脱するを得ずして運炭は依然遠賀川の船に依るの傾

きありしかば、該鐵道會社は運賃を半減し務めて貨主の誘致を謀りたるも、満足なる結果を收むる事能はざりしが、其後若松驛に於ける炭積場の設置稍々整備せしと炭車の増加に伴れ運搬力の増進を來たし、又荷卸に利便を感ずる事愈々大なりしより、京坂地方の有力者争ふて筑豊の炭田へ投資するに至り、爾來逐年大に出炭を増加し、水陸兩道よりの着炭は例令幾百の運炭船埠頭へ簇集すと雖、忽ち之か搬出に欠乏を來たし、一時若松港をして貯炭場の狹隘を告ぐるに至らしめ、此に大汽船の入港に資すべき港灣改良の設備益其急なるを促がすに至れり。

先是地方有志者此に見るあり、本港が筑豊五郡に舟路を通して貨物出入の樞要地に當り、尙ほ各港に連通するを以て將來貨物の輻輳すべきは既に期せし所なるも、如何せん港口の泥沙填塞せる爲め舟路迂回し船舶の出入頗る自由を欠き、巨大の船舶に至りては港外に下碇して貨物を搭載するの不便と徒費を要すること實に夥しく、且つ時々暴風の爲め船舶破損の害を蒙るもの年々少なからず、若し之を天然に放棄せんか、將に興起せんとする實業を沮喪せしむるのみならず本港從來の商業だも維持すること難かるべきを憂ひ、先づ第

一に港内の浚渫を爲さんことを謀り、明治廿二年若松浚渫會社の創立を見るに至りたり。其後大に事業の擴張を企畫し全廿三年若松築港會社となり、是れ本港今日の盛況を呈せし起源なり。爾來同社は數次資本の増額をなし、港内の浚渫と共に防波堤を築き以て大船巨舶の安全を謀り、又一方には蛭子神社に沿へる海面を悉く埋築し以て傍ら新市街を經營し、工程着々歩を進め今や將に成功を告げんとす。

此時に當り、九鐵筑豊線は大に其線路を延長せしより、沿道の炭山之依りて本港に其大部分を搬出し、築港事業の設備と共に海陸の機關殆んど完成し、交通運輸の便大に開けたるを以て、諸種の事業家は争ふて工場を當港に設置するに至れり。而して今や街頭には諸官衙郵便局電信電話、神社、寺院、學校、病院、鐵道、築港兩會社及び石炭取引所、倉庫會社、電燈會社、三菱三井兩出張店、鑛業俱樂部、各銀行、諸會社等の諸機關皆設置され、各種工場の烟筒は所々に屹立し、商店櫓を並べて相競ひ、九州鐵道筑豊線と、戸畑線は東西に縱横して一奇觀を呈し、灣内は大小の船舶出入頻繁にして欸乃の聲は舟子の喧囂に混じ、築港の防波堤は長蛇の横たはるが如く、海岸の埋築地

は頗に一寰宇を現出せり。而して年一年戸口の増殖著しく、明治十年に於ては戸數僅かに三百に充たざりしもの、全二十八年には一千三百余戸となり、全三十八年末には一躍して三千六百余戸、人口二方に達せり。又九頃來石峯村との合併談愈々成熟し其筋に申請中なれば、遠かき事實となりて現はる可く、其曉には戸數五千の多きに上る可し。思ふに明治卅七年同港を以て開港場に指定さるゝあり、向後益々發達を遂ぐ可く、必ら老や近き將來に於て市制を布くに至らんは疑ひを容れざる所なり。

第七 八幡町 (遠賀郡)

八幡町は枝光、尾倉、大藏の三字を合せて戸數三百七十八、小倉市街と黒崎町との中間に介在する小農村なりしが、明治二十九年中製鐵所の位置を本町に定められしより、漸次人烟増加して、現今戸數三千五百を越へ、縣内に於て有數の大町たるに至れり、然れども創始日尙淺く町事務として經營施設すべき事業未だ悉く其緒に就かず、又其住民も製鐵所吏員職工及勞役者多く、唯商人としては製鐵所の事業に要する諸材料品を納付或ひは買入する少數者



並に日用品の小賣商あるに過ぎず。本町は若松灣に濱し、同灣の浚渫埋築工事進捗と共に、沿岸地は既に四千噸以内の巨船を隨所に横付し得るに至り、鐵道も亦上下貳線を通し其停車場は町内に三ヶ所(大藏、八幡、枝光)ありて交通運輸の便他に比なく、且つ東洋唯一の規模を備へ、尙ほ益々擴張しつつある製鐵所を町内に控へ筑豊炭の搬出線に當れるを以て、各種の工業は今後愈々此地に起る可く、將來最も有望の地点と稱せらる、隨て町内平坦の部分には既に工場豫備地として識者の注目を惹きつゝあり。

### 第八 黒崎町 (遠賀郡)

黒崎町にある古福岡田神社の由來に、神武天皇東征の際一年半余駐驛祈願あらせられし古祠なりとあるより見れば、既に其當時一部落の形成されしを想見するを得可し。全町は遠賀郡の東部に在て元と鳴水、熊手、藤田、前田の四ヶ村なりしも、明治二十二年町村制實施に際し合併して二村となり、後明治三十一年四月黒崎町と改めたるなり。町の東南は帆桂花尾皿倉等の諸山相

連りて一帶の山脈をなし、北方は洞海に濱み、東南は丘陵起伏し、西北は平坦なりとす。

舊藩時代は九州諸侯の幕府へ參勤者陸續として宿泊し、此地より海路の旅装を整へ出發せしかば頗る殷賑なりしも、廢藩後は此事止み稍や寂寞の狀況を呈し、更に明治二十四年九州鐵道開通以來旅客の數を減し一時市況の不振を來したるも、明治二十七八年日清戰役以來諸般事業の勃興に連れ、洞海灣沿岸一帶の地は海陸交通の便宜なるより各種の工場續々興り、中にも中央セメント會社黒崎工場は數百の職工を使役し事業益盛大に趣き、又明治三十年政府は八幡町に製鐵所を設置し、以來々往者多數となり特に三十七年よりは九鐵支線黒崎驛より分岐し八幡戸畑を経て小倉に至り、交通機關漸く完備して頗る便利の地となりしのみならず、近時全町大字前田には製鐵所々々屬職工官舎貳百數十戸を建設せしかば、人口戸數共に從來に倍發し、卅八年末には戸數貳千戸、人口壹万人に達するに至れり。製鐵事業擴張に隨つて他府縣より轉住するもの年一年に増加し、日々家屋の建築を見るに至り今や藩政時代の殷賑を凌ぎて益繁盛を極めつゝあり。

全町岡田神社(大字熊手)は備前神武天皇東征の際一年半以上駐蹕祈願せられし祠に於て賢所八所神及同天皇を祭れり。春日神社(大字藤田)合殿に黒田神社あり筑前藩主黒田家祖先を祭る又大字前田には八幡神社あり。

第九 直方町 (鞍手郡)

直方町の舊名を東蓮寺と稱せしは、元倉久村真言宗内山寺の末寺にて今の切實と呼ぶ所に、境内方八町に亘りし同名の寺院ありしより名付け、元正新入村に屬したる荒原なりしが、聖武天皇の天平十二年、時の太宰少貳藤原廣嗣反し、營を遠珂郡(遠賀郡)より豊前板櫃村に築き勢猖獗なりしかば、大野東人勅を奉じて討討に向へる時此地に本陣を置き、領主香月の嚮導にて廣嗣を討てり。爾後星霜を経る事數百、延元三年南朝の二皇子御西下の砌此地に築城あり、勤王の兵を募り玉ふに、畑山城主香月先づ參じ一族宗族悉く集り、此軍を皇方と稱せり。宗像小貳等の兵襲來し屢々激戦ありしより、此地を皇方と呼ぶに至りしが後世訛りて直方と云へるなり。又直方の名に就ては黒田長寛此地を領せし時、其名の付寺に類するを忌み、延寶三年易押の六に、直方

にして大なり不習して元不利と云へるより探りて直方と名付けたりと云へり(蓋し直方の名存せしを此時に至りて由)元和元年筑前國主黒田長政、遠賀、鞍手、嘉麻三郡の内四十三ヶ村四万石の地を、四男高政に分譲し居第を鷹取古城附近に卜せしめ、又た寛永二年老臣井上周防、吉田登岐等此地を相して分城の地となせしかば、諸士以下續々居を定め、商工の民來集して初めて市街を形成するに至れり。

然るに後分城廢絶と共に諸士以下多くは福岡に歸り、商畧亦た漸く散去せしかば、衰勢頗る歴然たるものあり。年寄庄野仁右衛門之れを慨し上に請願して元赤池村の渡場より下境村を経て木屋瀬に通じたりし往還を變じ、現時の如く直方を通過する事となじ、且つ毎月兩度宛市を開き頽勢の挽回に勉めたり。明和七年郡奉行島井市太夫、直方町民に養蠶を奨励し奥州より種紙を取寄せ下附し機具を供給したるより、直方は盛大なる機業地となり縮緬白絹横麻細等を産出するに至れり。(直方八丈と稱せし織物)又た藩主の直方に對する保護は頗る懇厚なるものあり、新町及古町に對しては各租税を全免したるが如く、繁榮は當時の宿驛なる飯塚、木屋瀬等に奪はれて、明治の初年に於ける同町

の状態は甚だ寂寥の感ありき。維新後各種の刷新整理成り、此地に鞍手郡役所開設せられ警察署、税務署、小林區署、學校等漸次設置を見るに及び、秩序整然として面目改り鞍手郡の首都として名實共に完きを致せり。而して石炭が世人の注意を惹くに及び、舊來の各素封家競ふて炭坑事業に従事し、都鄙其の地を轉換すべき光景を呈するや、九州就中筑豊の地は他地方の人目を惹き、移住者踵を接し宛然移住地たる觀あり、此の著しき新現象は直方の繁榮を助長する事少なからき、嘉穂、田川及び直方以南に於ける鞍手郡各地の炭坑より、若松に運送する石炭は一に川船に依りしを以て、直方は其交通の衝路に當れることとて商工民の群集地となり、各種商店軒を並べ殊に鐵工場の多數なる殆んど附近に比類を見せ、斯の如き間に經驗資本の兩つながら乏しかりし素封家合同協力の事を爲さき、爲めに多くは蓋産の慘狀を呈し、炭坑地方の中心たる直方に於ける經濟状態は全く不安の中に陥り信用滅絶投機心物興等甚だ危険の現象を呈したり。然るに此紛亂せし間に處して直方町に炭界の二傑並出し其天賦の英才と經驗とを以て炭坑界に雄飛し、驚くべき速力を以て炭坑の併合淘汰をなし

直方を危険の中より救ひしもの、之を貝島太助堀三太郎兩氏となす、此時に當り麻生太吉氏亦其偉才を炭坑業に用ひ隆々鼎立の概ありしが、炭坑界の秩序漸く整ひ採炭量著しく増加するや、明治廿四年筑豊鐵道會社興り若松直方を鐵路に聯結したり。直方の發展は之に依りて愈々順境に向ひ其繁榮は長足の進歩を來し、一躍福岡縣下に於ける大都市として若松と相並び遂に福博の壘を壓せり。加之炭界の刷新淘汰は著々其歩を進め、京阪の大資本家續々其資を斯業に投じ、鐵道も金田飯塚方面に分岐延長し、同地方の石炭は總て直方を經由せざるなく一層發達を速ならしめたり。炭坑と直方町とは其關係密接にして離るべからざる事前述の如し。而かも此間に於て商業界に嶄然頭角を現せしもの亦尠からき、商工の發達は經濟界の好調に伴ひ頗る眞熱にして健實なるものあり、然るに明治二十七年日清釐端を開くに當り炭價異常の昂騰を來したるより、嘗て斯業の爲め倒産の不幸に陥りし素封家及び投機者等は、此機逸すべからきとなし、孰れも各地に小炭坑を起業し縦横亂掘一時の射利を是れ事とし、戦後の事業熱物興及び奢侈心増長と相待ちて健實に發達しつゝありし經濟界を攪亂し、基礎薄弱なる事業若くは種々の土木工事等

に熱中するに至れり。此時に方り鞍手銀行の創立あり又續て土木會社の設立ありしも、一般の經濟界は漸く變調を萌したるより全會社は遂に解散の不幸に陥りたり。幸に鞍手銀行は其經營宜しきを得て動亂せる經濟界の融和に務めたるも、如何せん炭價の暴落と共に小規模の炭坑は漸次廢坑して直方の不振時代は再び到來せり。此に於てか直方町民も町勢挽回策に就き大に覺悟する所なかる可からせ、即ち明治三十三年多年の計畫漸く成り直方倉庫を創立し以て九州〔筑豊鐵道會社は三十年九州鐵道會社と合同せり〕山陽兩鐵道會社と協定して、貨物運送上便益を計り、位置の良好なるを利用して四隣各郡に對し、中繼問屋の地に立ち炭坑不振より生ずる直方の衰微を補はんとし、又三十六年若松線の開通は直方停車場の貨物を増加し構内の狹隘を感ぜるに至りて今や擴張新築工事中にあり。然るに今回の日露開戦後不況なりし炭坑界は俄然一變して炭價未曾有の高騰を告ぐるや、全町忽ち活氣充溢して商工業は隆々日に發達し、特設電話も開通されて交通の機關備はり市街の面目亦日に革まり、福岡縣否九州の富源と稱せらるゝ遠賀川に沿ひし狹長の市街は、擴張の地を四方に求め東は下境村、西は新入村南は勝野村、北東は將に架せられんとする外町の橋〔今は

船渡を隔て、順野村に續き、全戸數實に三十八年末に於て二千六百余戸に及べり。

第十 飯塚町 (嘉穂郡)

神功皇后三韓より御凱陣の後、本郡大分村に於て大に軍功を賞し賜ひ、縣主村長軍士等の倍從せし者を其郷國に歸らしめて都に登り玉ふ時、軍人等猶蹤〔何〕又天顔を拜し奉らんと深く歎き慕ひしより全地を名付てイツカの里と云ふと傳〔今〕は飯塚と書す而して軍人の懇請に依り、暫く此地に御駐紮被在、齋壇を築て天祖を祭り玉ひし丘地を壇の上糞祖の森と云ひ、後人御社を建立し御宏徳を欽仰して産土神社と奉祀す、往古より國主武門の崇敬不淺、建久年中太宰府在廳の官人武藤右衛門御社殿を造營し、其後延文四年乙亥晚春武藤次郎藤原統宗、神殿、拜殿、樓門、回廊、神饌殿、神鏡樓等宏麗なる建物を造營せしも、該社殿中過半は中葉兵亂の時兵燹に罹り燒失せしなるが、秋月大藏種實周防國山口發向の時參拜して殿宇の頽破したるを歎き修補の命を卿者に下したりと云ふ。今は唯寛延二年再建せし惣門一字を存す。

全町は、古來飯塚驛と稱して筑前六宿通りの一に數へられ、旅人の往來頻繁を極めし所なり。近時に至りて近傍町村の製鐵所出張所又は鑛業盛大の爲め、一居住者増加して可なりの繁榮を保ち、現時の戸數八百六十八戸、人口四千五百六十四人を算す。

### 第十一 甘木町 (朝倉郡)

甘木町は、往古神功皇后の羽白熊鷲を討伐せられし頃より、既に部落を形成せしもの如く、此里を甘木と号せしは、往昔甘木遠江守安長と云ふ者、和州矢田の地藏〔万米上人の秘作〕を勸請して、此地八日町に甘木山安長寺と云へる禪寺を建立せしより里名をも甘木の二字を取り斯く名付けたるものなりと傳ふ。天正以前町數十六、戸數七百餘ありしが、大永弘治天正の頃度々兵火に罹り一時大に衰頽せしも、延寶年中に至り再び繁昌を極むるに至れり。當時酒造家の如き四十八戸を有し毎月九度の市を開き、兩豊兩筑兩肥等の諸商人集合し、博多甘木間の如きは人馬の往來織るが如くなりき。然るに此事次第に衰へ、正徳享保の初めに至り以前の繁昌を見るべからざりしも、尙ほ地方商業

の中心たるを失はざりし。現今産物としては甘木絞、甘木紵、蒲團、染地類及び蠟等を主なるものとし、三十七年四月の調査に依れば左の如し。

種目	産出額	全價格	販路
甘木絞	九〇,〇〇〇 <small>元</small>	一五,〇〇〇 <small>元</small>	東京、大阪及九州
甘木紵	四八,〇〇〇 <small>元</small>	一〇,〇〇〇 <small>元</small>	東京、大阪及筑後地方
蒲團	三六,〇〇〇 <small>枚</small>	八四,〇〇〇 <small>元</small>	九州一般
染地類	二五,〇〇〇 <small>元</small>	一五,〇〇〇 <small>元</small>	九州一般
生蠟	三〇〇,〇〇〇 <small>斤</small>	五,〇〇〇 <small>元</small>	東京大阪及縣内

明治二十二年町村制實施の際、菩提寺村を合併し甘木町と稱せり。現在十九區に分ち戸數千余、人口七千余にして、郡内の官衙多くは此地に設けらる。町の南に龍泉池あり、方十間余深さ三四尺の池にして類まれなる寒泉なり。池の周圍に榎の大木數本ありて池上一面を覆ふを以て、盛夏の候と雖も、此地に至れば忽ち肌に粟を生き、避暑に尤も適せり、町の東に金比羅山あり、山頂に金比羅神社を祭る、明治三十七年六月堂宇祝融の災禍に罹りしを以て、更に數千金を投し之を再建せり、山頂は四時の眺望絶佳なり、殊に満山櫻樹

なるを以て開花の候遊覽者常に絶へき、龍泉池と并ひ稱して甘木町両公園と云ふ

第十二 西新町 (早良郡)

福岡市の西方に連り殆んど同一區畫を爲す。寛文六年八月國主黒田忠之紅葉八幡を橋本村より遷座ありて貞享二年其子光之鳥居を建立し金字の額を奉納せるが、屢々盜賊の窺ふを憂ひ額番屋敷三戸を社前に建て晝夜警護せしめしもの人家の始めなりとす。當時此地は移住者次第に多かりしを以て、村司の上願により何地の人も來住を得せしめ荒江、鳥飼、原等の地籍にして耕す者なき悪田を取り、毎戸に課して耕作せしめたり。其後人口次第に増殖すると共に市街は東西に擴張せられ明治二十二年町村制實施の際魚原村を合併し本町の名義を存せり。此の地は有名なる鷹取燒の産地にして今は昔に及ばざるも尙は相應の産出あり。明治三十七年末に於ける戸數五百一戸人口三千二百二十二人たり。

紅葉八幡宮は神功皇后應神天皇玉依姬の三柱を祭る、筑前國主黒田光之の建設

に係り社殿頗る宏壯なり〔鐵機、能舞古器建立ありたれども今はなし又〕當社は文明拾四年五月〔福岡の土原は土を煮して焼きたるものと傳ふ〕紫田内藏助重信始めて橋本村に勸請して我家の鎮守としたりしを。寛文六年八月此地に遷座ありたり。國主産神の故を以て特に敬せらる。寄附の物品夥しく社領一百石凡三万二千余坪ありしが維新の際返上せりと云ふ。陰曆九月十一日大祭を舉行す。

第十三 大川町 (三潞郡)

大川町は素と向島村(若津を含む板津町、小保町、酒見村の四區なりしを明治二十二年町村制實施の際、合併して大川町と稱するに至り。全町は三潞郡の西南隅筑後川に瀕したる一大市街にして一帯帶水を隔て、佐賀縣に相對し、廣袤東西凡そ貳拾五町、南北約拾三町、人口一万千有余にして、諸官署、銀行會社等此地に集り郡内の首都を以て目せらる。町の西端に若津港あり。該港は肥筑の咽喉に當る要港にして常に船舶輻輳し、殊に産物に富む筑後の平地を流れたる筑後河口を扼せるを以て、物資は該河川によりて若津港に集り商業取引旺盛を極む。而して其集散貨物の重なるものは米穀、肥料、食糧、

清酒等なり。尚ほ全町大字板津の、箆筒、長持、建具類、農具其他の細工物は、價格の低廉品質の堅牢なる点に於て他に類を見ざる所にして、壹ヶ年産額五拾萬圓を降らざり、地方産物として重きを爲せり。

第十四 柳川町 (山門郡)

足利義光執政の頃、蒲地久憲、柳川城に居りし頃より漸く市街をなし、天正の頃龍造寺の領する處となり、徳川に至りては田中吉政之を領し元和元年以來立花家の所領たり。

此地は有明海に瀕し矢部川の分流市内を縦横貫通し、舟楫の便あり。近年商工の業進歩し明治三十七年末戸數千二百七十二戸人口七千四百四十八人を有し、久留米に亞くの舊市街にして花菫、鑑詰、線香等は此地の名産とす。東高畑に三柱神社あり立花家の靈を祭る境内泉池ありて風景に富めり之を柳川の公園とす。

第十五 瀬高町 (山門郡)

瀬高町は瀬高庄にして、高倉院の御宇、嘉應年間より其名已に普ねく、後ち徳大寺の采邑にして建設至て古し。武家の世に及んで中ごろ田中吉政の領地となり、元和元年舊柳川藩主立花宗茂復封以來、廢藩置縣に至るまで其所領たり、此地は熊本、博多の中部に當れる一市街にして、矢部川町内を貫流し運漕に便なり。國道、縣道縱横相通し九州鐵道開通以來交通の便益々顯著となれり、古來矢部川の運漕により塩の集散地なりしを以て、久留米以南南關地方に至るまで、此地を經由せざるはなかりしに、鐵道の貫通により、直接に他方に運ばれ今は其盛況を見せど雖も、時勢の進運に伴ひ一般商工業は發達を見るに至れり。

明治三十四年一月一日上庄、下庄の兩町を合併して瀬高町の名稱を附せり。戸數千二百八十九戸、人口六千四百四十五人、物産は麥及び雜穀にして、殊に酒造業者は三十戸に及び其他瓦製造業等最も盛なり。

第十六 福島町 (八女郡)

福島町は明治貳拾貳年町村制實施の際、元と福島町、福島村、稻富村を合し

て現今の自治團體を組成したるものにして、傳ふる所に依れば、筑紫廣門當地に城塞を築きしは今より三百年前の事にして、當時町家は南方花宗川に沿ふて存在せりと云ふ。降て慶長六年田中義政筑後に封せらるゝや、居城を柳川に築き三男康政をして福島に居らしめ城堡を修築し塹濠を深ふし要害を固めしが、元和六年田中斷絶し福島城亦た亡びたり。然るに翌元和七年今の有馬氏久留米に封せられ本町亦其領城となりしが、後ち城南の町家は凡て舊城廓内に移轉し漸次増殖今日の市街を爲せり。然るに寛政年間に大火ありし以來再三火災に罹り、幾多の資産を烏有に歸せしめ爲に本町の發達を阻害したるは、今に古老の口碑に傳ふる所にして、其間幾多の有志出て之れが回復の策を講し漸く今日の形勢を維持せるものなりと云ふ。殊に藩政の當時九才の市と稱し、毎月二六九の日に各町順番に市場を開き郡内に産する所の諸物品を集めて之を賣鬻せしを以て、遠近より需用者來集して一般の商況繁榮を極めたりしが、維新以來は慣行の開市日に衰退して今や僅に褐衣市〔舊七月十二日〕魚市〔舊十二月二十九日〕の兩市のみ持續せり。然れども本町は八女郡平担部の中央に位ひし山門郡役所の所在地たるのみならず、若津港より榎津を経て羽犬塚に至り九

州鐵道線を越へ、更に黒木町より矢部、星野の各地に達する縣道を掘し、此間羽犬塚より川崎村迄は、去明治卅六年馬車鐵道の布設ありて全町には二ヶ所の停車場を設け以て貨物の積卸を便にし、又た柳川、瀬高より黒木、矢部、星野に通する郡道は町の中央を貫通し、四通八達の通路に當るを以て郡内の製紙、製茶、竹皮、楮皮、木材、蘆蕩玉等の特産品は大抵此地に於て集散し、尙ほ町の物産として米麥、清酒、木蠟、提灯、佛檀、櫨實、久留米緋、麥粉等を有し、可なりの繁榮を持續せり。此地の金融機關には、永福銀行、久留米六十一銀行福島支店あり、工場としては磚茶を製造する福岡製茶合資會社、檜垣商會の壓搾茶製造場等あり。現戸數九百戸、人口五千二百四十余人なり

### 第十七 大牟田町 (三池郡)

三池石炭の盛大に起くと共に近年俄かに發達したる新市街の一にして、大牟田築港完成の後は全港の開港場に指定されんは勿論なる可く、縣下に於て將來市制を施行するに至る可き市街を以て目せらるゝものの一なり。全町は三池郡の西部にして筑紫海に瀕し、東は縣道に據りて肥後國南關町に通し、南



方縣道に據りて肥後國長洲町に通じ、北方は郡道山門郡有明村に通達して柳川町との交通絶へど西部は筑紫海に流下する大牟田川ありて河口は即ち石炭運送の要地たる大牟田港なり。而して九州鐵道は本町の東北部より貫通し同停車場は本町の中央にあり。

明治廿二年町村制實施以前にありては大牟田村、下里村、稻荷村、横須村、と稱する寒村にして大牟田、横須の如きは漁業の傍ら農業を營み、下里、稻荷は農業の外別に物産なく、唯藩政の頃僅かに石炭採掘の業開け稻荷より横須に通ずる方面は漸次戸數を増し、下里の一部は官業として採掘さるゝに至りて稍々面目を改めしも尙ほ町村制實施の際迄は四ヶ村を合して戸數千五六百戸に過ぎざりしなり。

然るに明治廿一年末三池鑛山を三井鑛山會社に於て引受け、廿二年より三井に於て經營するに至りしより、石炭採掘の事業面目を改め、三池石炭の搬出地として頗る繁榮を來し、現今は戸數殆んど五千二百に上りて將來に有望なる新市街地を形成するに至れり。

二三井炭鑛は元官業にして大藏省の直轄事業なりしに廿一年末十五ヶ年賦を

以て落れし廿二年一月一日の現在を以て引受けたるものなり官業時代は大牟田、三井、立坑の如きは工事着手の儘にて未だ石炭を採掘するに至らざりしが三井に關せし以て爾後益々事業増進し河口來騰立坑を完成し新に宮の浦宮の原及び萬田の三大坑を開き採炭額を數倍せり爾後益々事業増進し河口に於ける石炭積載所の如き再三擴張せしも、運炭船の數四百幾十艘の多數に達して港口狹隘を告げ、目下四ッ山築港に着手し工事着々進捗しつゝあれば本工事完成の上は一層全町の繁榮を來すに至るべし。

### 第十八 香春町 (田川郡)

香春町は、往時鷹羽郡清河原村と号す、後鹿原町と改め、元和の頃より俗訛して香春町と稱せり。此地は元鹿原郷にて舊下香春と一村たりしも後分れて町となり、又た明治三十年下香春村を合併し更に香春町と改稱せり。

抑も同町は郡内樞要の地に當り、昔より一の城市なりしを以て、街衢端正、道路直通し、現戸數六百六拾、人口四千三百を有す。河揖鐵路の便に乏しきも小倉、行橋、直方、添田等に通ずる鎖鑰にして郡役所、稅務署、警察署、其他の諸官衙あり。爲めに人馬の往來瀕繁なるのみならず、近來に至り石炭、石灰其他殖林等の事業益々發達し、戸口日を送うて増加しつゝあり。

第十九 行橋町 (京都郡)

三四

行橋は明治二十二年町村制實施の際、元京都郡行事村、元仲津郡宮市村を合併したるものにして、明治三十七年末現在戸數は壹千四百五十八戸、人口八千三百九十五人あり。京都郡役所、行事區裁判所、行事警察署、行橋稅務所、小林區署、土木管區事務所、百三十銀行行橋支店、草野銀行、中津貯金銀行支店、九鐵製作所等あり。現今九州鐵道田川線と中津線の分岐點に當り、集散の物貨渺からせ、又海運に於ても大阪馬關等交通常に絶へず、近年他地方よりの移住者益々増加し、豊前地方にては小倉市に亞く一市街たり。

第二十 箱崎町 (粕屋郡)

本町は往時白濱にして其當時海濱に僅々たる漁人住居し、漸次増加するに従ひ沼或は古田を耕作地に開墾せしなり。元と那珂郡の一部にして十里松原の中間に存在し、昔は此浦を葦津浦と云ひしに、應神天皇の御袍衣を埋しより箱崎と稱ふるに至りしと傳ふ。舊藩時代には郡役所を此地に置き郡中諸般の政務を執り居たるが、廢藩置縣と共に第二大區調所を設け、續いて郡役所所在地たり。全町の地位たる西北は海岸に接し、東南は粕屋郡多々良村大川村筑紫郡堅粕村馬出に堺し、青松白砂の間にありて福岡市東公園に連り衛生上生活に適當なれば、福岡市の紅塵を避けて來往するもの多し。又た有名なる箱崎神社の所在にして遠近の參詣者常に絶えざるは人の知る所なり。

兩替店

各公債

諸株券

古金銀

確實買賣

右買賣共常ニ好直合ヲ有シ居尙又精々勉強可仕殊ニ國庫債券ハ大阪直段ニ買受可申候間多少不拘御注文奉希上候

博多橋口町十六番地

豐田商店

電話 七三七番  
七五三番

博多 紅勘儀館

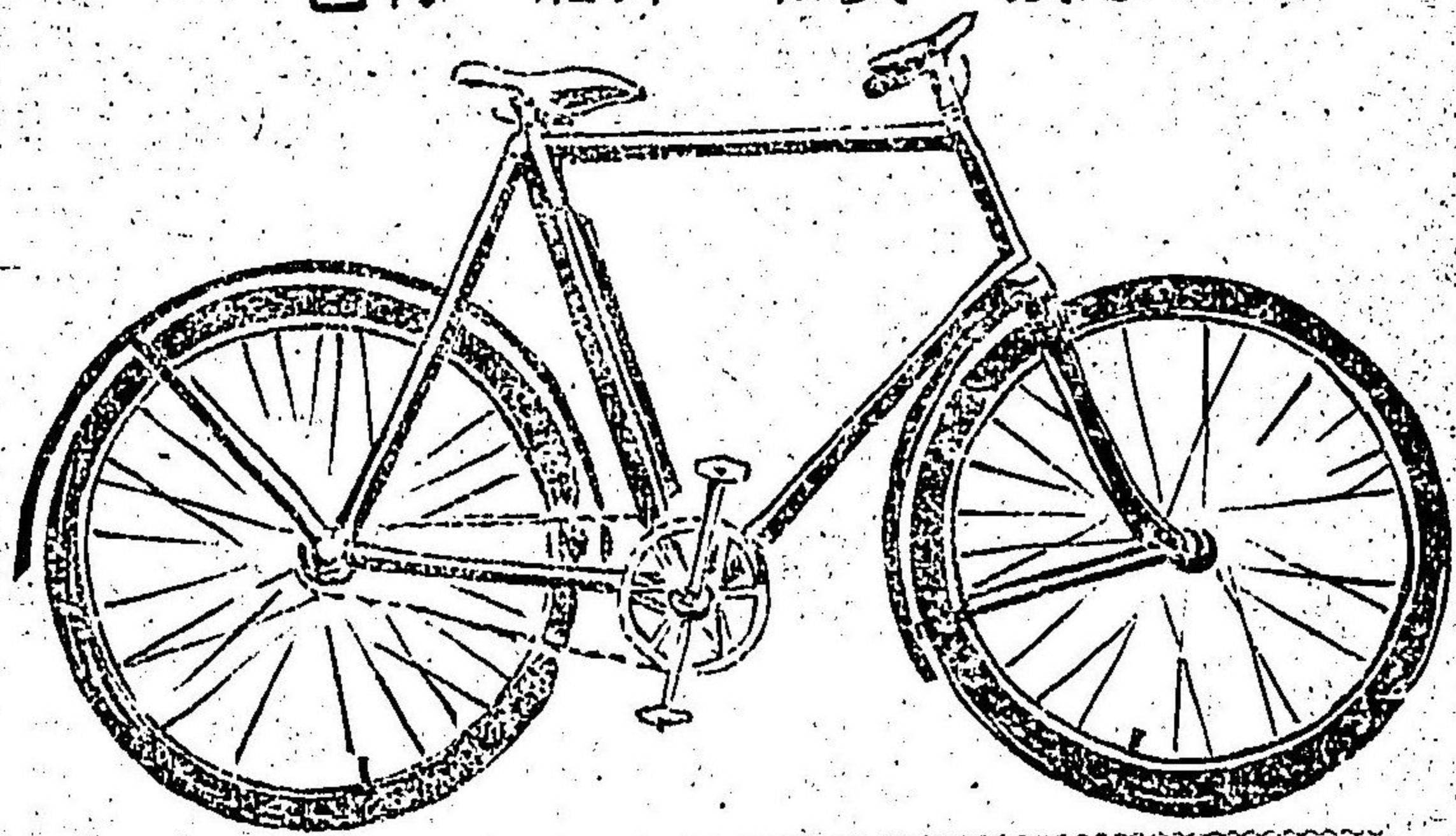
御顧客諸彦の

御機嫌御伺ひ申上候

博多川端町 館主 大森勘助

特電話百四十六番

勉強ト責任ハ弊店ノ特色



歐米各種最新式自轉車  
並ニ附屬品壹式販賣

御弊店販賣ノ自轉車ハ確實勉強ヲ以テ賣出ス者ニ有  
注之候ハ御購入後自然ノ損傷等ハ無料ニテ修繕ノ  
意責任ヲ有シ候ニ付安全ニ御購入相成テ可然候

博多川端町三番地

中村自轉車商會博多支店

電話六百二十五番  
電信略助 ナカシ

出張所

- 嘉穂郡 飯塚町
- 糸嶋郡 前原町
- 肥前 濱崎

壹岐對馬沿岸行  
韓國釜山行  
關門神戶大坂行

荷客元取扱所

外日本上海運送火災保險株式會社博多支店

瀛船元扱店  
八尋回漕店

博多下須崎町五番地

電話三〇七番

辯護士長野周郎法律事務所

は正直を主とし丁寧を旨とし最も迅速に事務を處理し緩慢の弊に陥らざることを期し左の事項を取扱ふ

民事。商事。刑事。訴願其他行政事件

右に關する左の各種の行爲

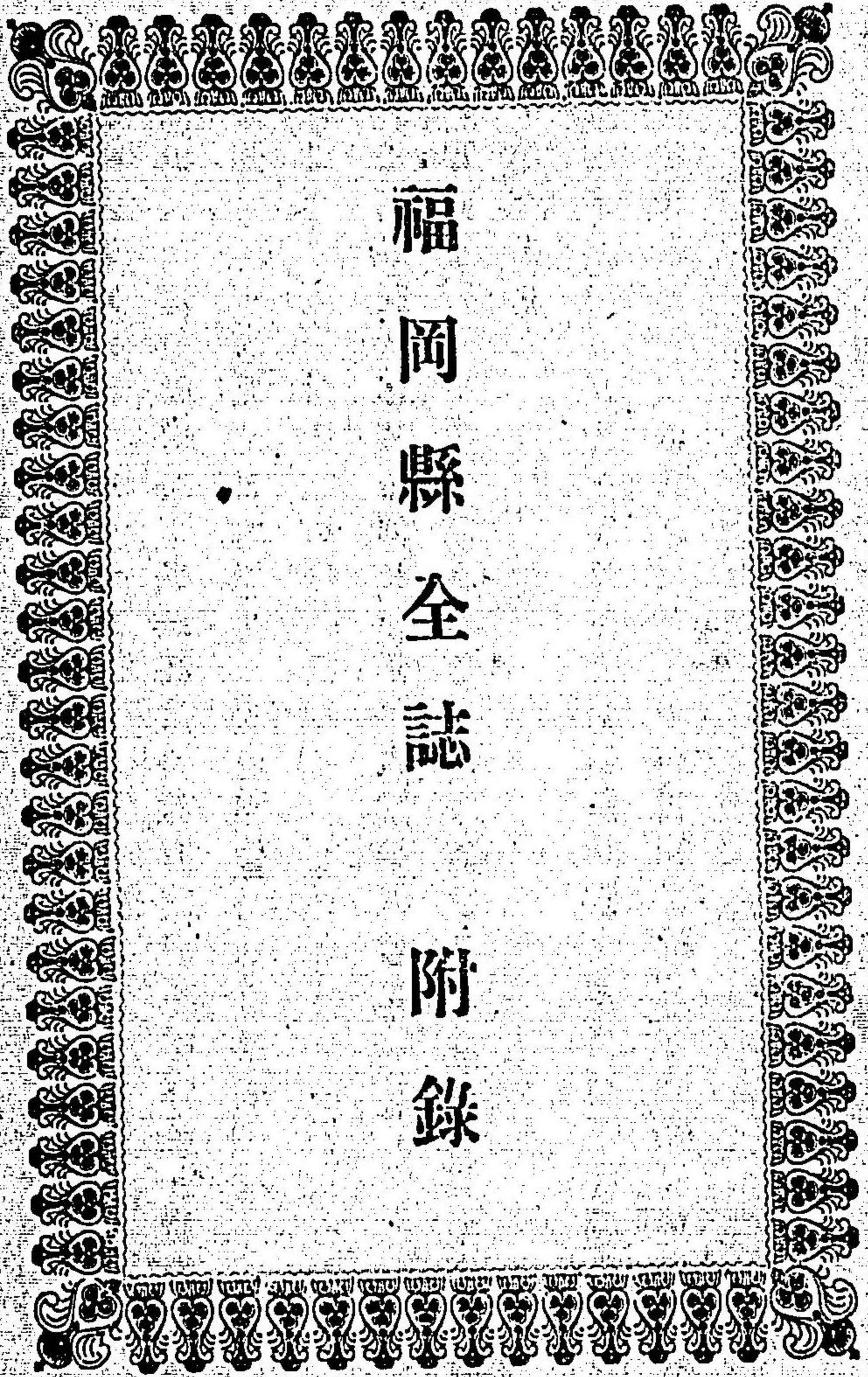
一 鑑定。代理。辯護。仲裁

一 鑛業。漁業。及林業に關し行政官廳の交渉

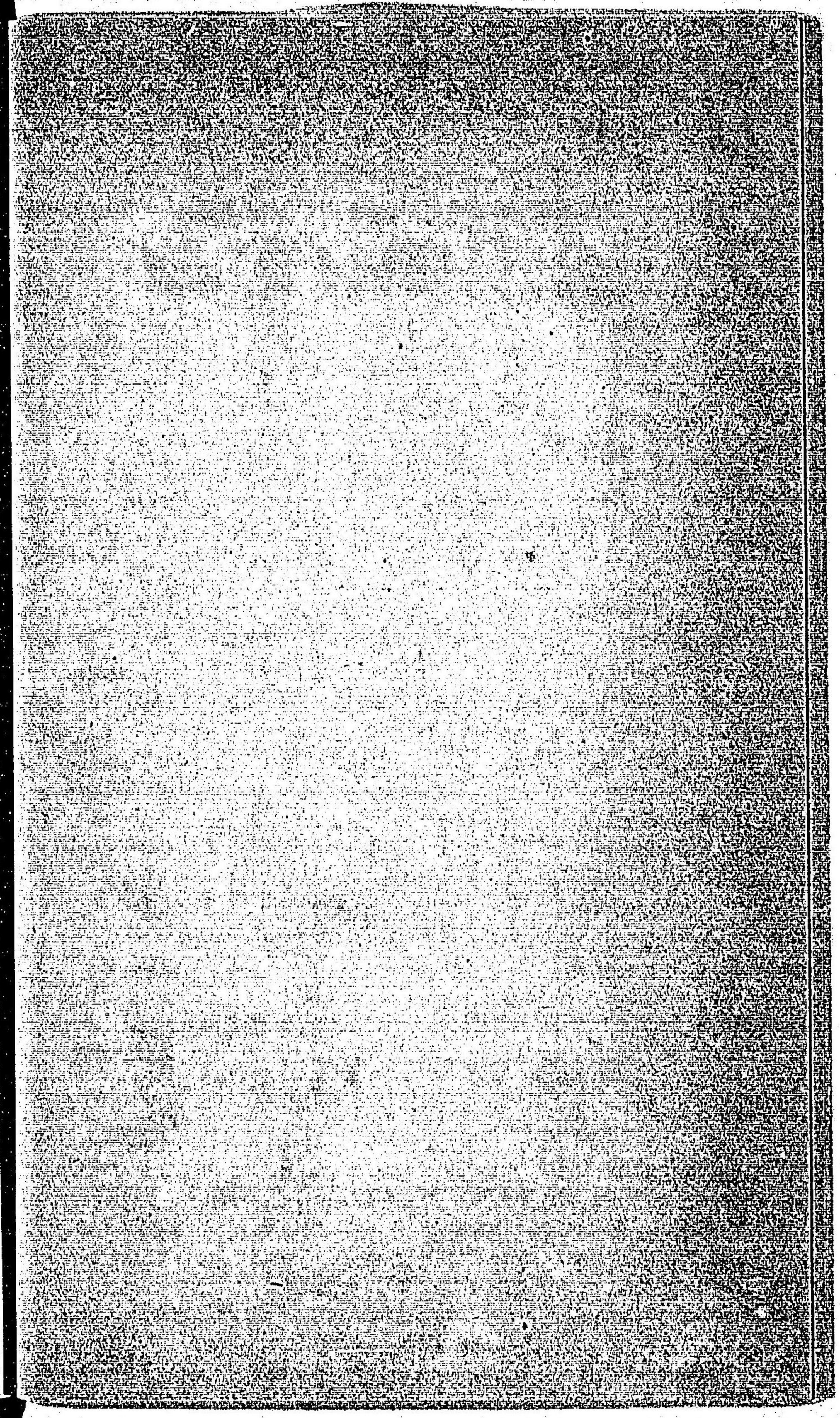
一 會社。銀行は又一家の法律顧問は若く整理

辯護士 (法學士) 長野周郎

小倉市鍛冶町



福  
岡  
縣  
全  
誌  
附  
錄



福岡縣全誌

附錄

黑田家

宇多天皇光孝天皇第二皇子諱定省仁和三年御即位為人皇九十九世  
 寬平九丁巳年禪位太子稱淳子院後落飾号寬平法皇承平元年薨歲七月十九日崩  
 室算六十九  
 敦實親王宇多帝第八皇子一品式部卿号仁和寺宮母贈大后藤原胤子內  
 大臣高藤公女延喜帝同母也承平六年賜源姓  
 雅信正二位左大臣号一條正曆二年薨歲七十四贈正一位  
 扶義中宮太夫右大辨正三位參議寬仁四年許牛車  
 成賴叙任從四位下兵庫頭始住近江國佐木木卿海軍海道六州兵士歸附  
 之帶兵器為武將是佐木氏之始祖也  
 章經叙任從四位下兵部太輔改義經号國光寺  
 經方叙從五位下任左衛門尉号源太夫稱續光寺

秀定 叙任從五位式部太輔号長光寺一名為俊

秀義 号佐々木源三郎十三歲時六條判官為義請之為養子重代太刀及鎧分而傳之源平爭雄之時每顯其勇名平治之戰稱十六騎者秀義其最頼朝兵起於東園秀義父子之戰功逾乎他士叙從五位上任延尉元久二丙寅年四月九日卒号長命寺京極系圖日壽永三年伊賀國平賊之平田城攻矢中七月十九日陣中卒歲七十三

定綱 号佐々木太郎任左衛門尉叙五位下從頼朝卿而山水判官誅自後石橋山及其他處々戰往々勇功多江州守護成京極系圖日元久元年四月十六日檢非遣使同二年四月七日卒

信綱 号四郎信綱率鎌倉之命而處々戰場屢有功任檢非遣使左衛門尉至近江守叙從五位上定綱四男也

泰綱 信綱三男至從五位上檢非遣使左衛門尉兼近江守平泰時之外孫ニシテ且有武威一家之為棟梁

氏信 信綱四男叙從五位下任近江守永仁三乙未年五月三日卒弘安七年刺髮号道善

滿信 氏信三男号佐々木三郎任佐渡守

宗氏 從五位下左衛門尉号佐渡判官法名賢觀

宗清 号黑田四郎叙任從五位下左衛門尉正安三年八月廿五日祝髮号道

法延文二丁酉年七十九歲卒黑田氏之祖也

高滿 黑田判官代備前守叙從五位下左衛門尉又右近大夫改

宗信 高滿二男叙從五位下任出羽守

高教 黑田四郎一名高教叙從五位下任備前守又兵庫助

高宗 高教四男黑田備前守嫡子代々家繼

✓高政 高宗二男号黑田右近大夫受領父祖之采地屬江州佐々木太膳大夫高頼

永正八辛未歲八月廿四日山州船岡山之戰役犯軍令而大將足利義植公有郤於是

江州去備前國邑久郡福岡里住備州ニ加地飽浦等之同姓一族有故也是去本

岡遷他邦始也

✓重隆 高政二男号黑田下野守初稱兵庫助永正五戊辰年生于江州宇喜多氏侵掠



國中時避其難遷於播州飾東郡姬路附屬赤松氏永祿七甲子年二月六日播州姬路卒享年五十七同所葬于心光寺筑前大長寺位牌安置

職隆

号黑田美濃守初名源五郎改稱藤右衛門後又兵庫助大永四年生于備前福岡邑四歲時從于重隆移於播州姬路城後屬于同州御着城主小寺藤兵衛尉政職幕下而稱小寺氏天正十三乙酉年八月廿二日六十二歲同所卒去葬于心光寺當國大長寺位牌納御葬播州多賀郡委麻村田ノ中丘之中ニ有

孝高

号小寺官兵衛天文十五年十一月廿九日辰刻播州揖西郡猪口里路城誕生母明石宗和女一諱政成幼名萬吉天正七年小寺改復黑田姓同八月辰年九月朔日從秀吉公於播州揖東郡初祿加賜同十四丙辰年五月叙從五位下任勘解由次官同十五丁亥年七月轉於播州賜豐前六郡京都築中津上毛下毛宇佐中津川城居同十七巳丑年六月十七日致老御治國凡十一年天正八年ヨリ播州八ヶ年天正十五年ヨリ豐前中津川三ヶ年文祿二年巳年剃髮稱如水軒圓清慶長五庚子年於豐後國石垣原大友義統曆同九甲辰年三月廿日辰時御壽五十九歲福岡城三丸高屋敷逝去玉葬于横岳山万年崇福寺京都天德寺中龍光院

御墓有

長政

孝高嫡男永祿十一戊辰年十二月三日寅刻播州揖東郡姬路城誕生稚名松壽母櫛橋則手女稱吉兵衛天正五年十歲信長公ニ賀同六戊寅年於江州長濱初早着母里太兵衛司之同十年壬午三月始孝高俱備中國葉雲軍立同十二年蜂須賀彦右衛門正勝女娶女子誕生後故有離別同十七巳丑年六月十七日襲封叙從五位下任甲斐守慶長五庚子夏神君保科彈正忠正直女娘六月六日大阪西丸長柄館入與同年九月關ヶ原依勳功十月六日豐前改筑前國賜十二月十一日名嶋城入部同六年新福岡之城築同十二年功成慶長入癸卯年二月廿五日叙從四位下任侍從兼筑前守元和九癸亥年閏八月四日五十六歲京都於報恩寺逝去御遺骸筑前下向菅和泉村尾藏人等奉從供箱崎松原東火葬式行御棺前栗山大膳持之後忠之公御手添玉葬于崇福寺

忠之

慶長七壬寅年十一月九日寅刻福岡城東丸誕生母大涼院御童名萬德父吉兵衛慶長十七壬午年於福岡城鎧着十一歲吉田豐岐竹森石見司之同年於駿府任

右衛門佐同十八癸丑年正月十一日於江府松平姓忠御字賜松平右衛門佐忠長又忠之改同年二月朔日叙五位下同十九年大阪兵亂軍卒從至攝州十二月十九日兩御所拜謁翌年又夏陣之時一萬人卒至兵庫之時大阪落城後兩御所拜謁蒙懇切命元和九年封國受續寬永三丙寅年八月十五日叙從四位下任侍從寬永十四肥前島原之城賊攻同十八辛巳年二月八日始長崎藩鎮蒙台命歲四十正保四丁亥年三月廿八日任筑前守又改右衛門佐同年六月南變島船長崎來津行其事  
監承應三甲午年二月十二日五十三歲逝去葬于東長寺遺髮以志摩郡櫻井之社納島岡大明神崇

光之 寬永五戊辰年五月十六日辰刻早良郡橋本邑別業誕生母養照院雅名萬種又左京吉兵衛改初諱長之寬永八辛未年四歲江府至同十二年祖母大涼院同道登城家光公拜謁于時八歲同二十癸未年十二月廿八日任左京大夫正保四丁亥年三月廿八日轉任右衛門佐慶安元戊子年十二月廿八日松平姓御諱字賜叙四品稱松平右衛門佐光之承應三年四月廿二日襲封同五月廿三日長崎藩鎮如忠之例同十二月九日致仕御治國凡三十五年寶永四丁亥年五月廿日八十歲福岡隱宅

逝去玉、同月廿六日葬于東長寺

網政 万治二己亥年八月朔日戌刻麻生館生母綱之同雅名宮內寬文三癸卯年十月九日市正之勝家繼東進寺領主成同九年二月廿八日初家綱公拜謁同年三月十六日下國延室元年号諱長寬同二甲寅年五月十四日鎧着黒田三衛門一貫司之同四年十二月廿六日叙從五位下任宮内少輔同五丁巳年二月十三日本州爲適君同年閏十二月十一日前髮執之同月廿一日松平姓御諱字賜叙四品稱松平肥前守網政元祿元年十二月九日襲封同日長崎之藩鎮如舊例同廿八日任從寶永七庚寅年十二月十八日右衛門佐改正德元辛卯年六月十八日五十三歲福岡城逝去七月廿三日葬于崇福寺御治國凡二十四年

宣政 貞亨二乙丑年五月九日申刻江府櫻田館誕生母吉之同雅名稱守山辨之介定紋永樂錢用諱政則元祿十二己卯年正月廿六日初鎧着同十三年十二月十五日始常憲公謁同十四辛巳年十二月八日叙從五位下位和泉守同十五壬午年九月五日前髮執之寶永七庚寅年閏八月二日宗子成同五日守山改復黒田右餅紋改

同月廿一日松平姓御諱字賜叙四品稱松平佐渡守宣政同年十二月十八日肥前守改正德元<sup>辛卯</sup>年八月十一日襲封同日長崎藩鎮如舊例同十二月十八日任侍從同二千辰年下國四月廿一日入城同四甲午年三月四日御不例之故未家長清之嫡男菊千代<sup>ヲ</sup> 叛長清<sup>ヲ</sup> 以長崎代番<sup>トセラル</sup> 享保四巳亥年十一月廿二日致仕御治國凡九年延享元甲子年八月十日六十歲白余館逝去葬于天眞寺假墓位牌崇福寺納

○ 繼高

實同姓長清男元祿十六癸未年八月十一日江都鐵砲洲館生母小笠原長勝女幼名菊千代正德四甲午年四月廿三日本州宣政公嗣君<sup>ト</sup> 成同廿八日在許命今日官兵衛長好<sup>ト</sup> 改<sup>ラレ</sup> 同年十二月朔日松平姓御諱一字叙四品稱松平筑前守守繼高同六丙申年正月十三日御領直矢野安太夫幸致司之同年二月二日鎧着伊勢守長清候司之玉草保三戊戌年六月朔日御前發執之同四巳亥年十一月廿二日襲封同日長崎藩鎮如舊例同年十二月十八日任侍從寶曆元辛未年十二月十八日昇進任左近衛權少將明和五戊子年正月十三日虎皮鞍覆長刀免許長崎鎮五十年来勲功因之由蒙

上意御嫡治之公同兩飾共在免許明和六巳丑年十二月十日致老稱圖書頭御治國

五十一年安永三甲午年九月朔日參府同四年三月九日着城同六月十七日逝去七十三歲葬于崇福寺假墓龍光院置

○ 治之

實德川民卿宗尹卿五男寶曆五乙亥年十一月朔日一橋館誕生御母一條關白兼香公姬君實母善修院殿<sup>石川大</sup> 同十三癸未年十一月廿三日依台命娘子<sup>守女</sup> 成同十四年櫻田館御部屋入玉于時二月十六日改稱松平隼之助高滿明和三丙戌年二月十五日鎧着郡平馬司之同年三月十五日御領直同年七月十八日御諱字賜叙四位任侍從松平式部太輔治之同五戊子年正月十三日繼高公<sup>ト</sup> 同兩飾共蒙免許前髮執之毛利內記奉之同六年十二月十日襲封改稱筑前守字謂孔昭同五日江府發<sup>ヲ</sup> 本洲入部天明元辛丑年八月廿一日三十歲逝去御治凡十三年葬于崇福寺龍光院殿假墓設

○ 治高

實京極出羽守高慶男母黑田大和守直純女治之公兼而娘子<sup>ニ</sup> 設王天明元年十二月八日櫻田館移玉同二千寅年二月遺領松平姓御諱字賜任從四位侍從稱松平筑前守治高同日長崎藩鎮如舊例初稱又入叙高幸字爲恭表德叔壹同年

三月十五日御暇同廿三日江戸發、本洲入部同年八月廿一日福岡城ニ逝去葬于南岳山東長密寺治高公世子無方御孫延有廿四日御屆ニ城卒于時二十九

✓齋隆

實徳川民部卿治濟卿二男安永六丁酉年九月廿一日一橋館生御母桂芳院殿京極宮御姫君御實母於逸方稱号接賢院殿丸山次左衛門女初稱雅之助諱長爲治高公依願世嗣天明二壬寅年十二月十九日遣領同日長崎藩鎮如舊例松平姓直可用由依命稱松平雅之助長爲御諱字賜叙從四位任侍從稱松平筑前守齋隆賜大廊下下御部屋  
寛政七乙卯年六月廿三日戊申剋福岡城逝去十九歳八月廿四日御届有同廿九日崇福寺入奉九月八日御葬式

✓長順

齋隆長子寛政七年二月六日福岡城生寛政七年十月六日襲封天保五年十月六日致仕嘉永四年正月廿日卒年五十七葬江戸天真寺

✓長溥

島津重豪第九子寛政五年生初名齋溥後改長溥齊清養爲嗣天保五年十一月六日襲封明治二年二月五致仕同二十年三月七日卒年七十七葬東京青山

✓長知

藤堂高猷第三子天保九年十二月十九日生初名慶發後改長知長溥養爲嗣明治二年二月五日襲封明治四年七月二日免藩知事列華族明治三十五年一月九日卒年六十五葬東京青山

長成 長知長子慶應三年五月五日生初名桃次郎幸千代後改長成

長禮 長成長子明治二十二年十一月廿四日生

### 秋月支藩

長興 長政三男慶長十五庚戌年三月十六日福岡城本丸生母忠之同幼名犬萬改稱勘解由孝政元和九癸亥年本州之封内五万石分領秋月居寛永三丙寅年八月叙從五位下仕甲斐守寛文五乙巳年三月廿日五十六歳江戸卒去治國凡四十三年葬于

祥雲寺假墓位牌秋月古心寺納

長重 長興第二子万治二亥年三月五日生母前同雅名千之助寛文五乙巳年六月十二日受嗣延寶元年十二月廿八日叙任從五位下甲斐守寶永七寅年十月廿九日卒去五十二歲葬于古心寺

長軌 長重長子貞享三寅年六月廿八日生母前同幼名千之助長矩寶永七寅年十二月廿六日受嗣叙任從五位下隱岐守改長軌正德五未年十一月四日卒去三十歲葬于祥雲寺治國凡六年

長貞 元祿七戌年十二月十四日福岡城内生實野村太郎兵衛祐春二男母知光院黒田一貫女名幼辰三郎亦稱加藤市太夫長軌依遺言家督成改稱修理長治正德五年參府同年十二月二十六日受嗣享保元年八月廿二日叙任從五位下甲斐守稱長貞寛保元年正月改稱寶曆四甲戌年九月十日卒去六十一歲葬于古心寺

長邦 長貞長子享保七寅年正月十四日生母前同初稱修理元文二巳年十二月十六日叙任從五位下河内守寶曆四戌年十一月十六日受嗣同五年九月五日任甲斐守同十二年二月廿五日卒去四十一歲葬于祥雲寺

長惠 寶曆四戌年十月十五日右同所生幼名豊松同十二年四月十九日受嗣明和七寅年叙任從五位下甲斐守安永三年九月二日卒去廿一歲葬于古心寺治世凡十三年

長堅 德川氏旗下山崎義後第三子明和四年生安永三年十一月十八日入襲天明四年二月四日卒年十八無嗣秘喪至翌年葬江戶祥雲寺

長舒 財部藩主秋月種頼第二子明和三年生天明五年三月十七日入襲封文化四年十月十六日卒年四十二秘喪翌年葬秋月古心寺

長韶 初名長房長舒第二子寛政元年生文化五年四月九日入襲封天保元

年十月六日致仕天保十一年二月二十六日卒年五十二葬秋月古心寺

長元土佐山内豐策第五子文化十一年月生長韶養為嗣天保元年十月六日襲封萬延元年八月二十日致仕慶應三年四月四日卒年五十四葬秋月古心寺

長義長元第四子弘化二年生萬延元年八月二十日襲封文久二年正月二十日卒年十八無嗣秘喪至六月葬江戶祥雲寺

長德長元第五子嘉永元年月生文久二年七月廿五日襲封及明治四年七月十四日朝廷廢藩置縣列華族後授子爵明治二十五年六月十五日卒年四十五葬京都大德寺

### 東蓮寺之部

(直方)

隆政長政四男慶長十七壬午年生母忠之同幼名萬吉後改稱官兵衛元和九癸亥年本州之内四万石分領又改東市正叙從五位下寬永十六卯年十一月十三日江戶

卒去二十八歲于祥雲寺直方雲心寺假墓設崇福寺中心宗菴位牌納

之勝實忠之二男寬永十三丙午年福岡城生母光之同幼名官兵衛隆政為振子寬永十六年遺領東蓮寺之領主成慶安四辛卯年十二月廿八日叙從五位下任右馬頭後東市正改稱寬文三卯年七月廿五日卒去年二十八治世凡廿五年葬于祥雲寺

長清之勝長子寬文七丁未年六月廿六日江戶生父母綱政同幼名平八貞享三丑年十二月廿七日叙任從五位下伊勢守元祿元戊辰年十二月九日光之依願本州之内鞍手遠賀嘉摩三郡之内新田五万石分與故東蓮寺跡直方居享保五子年二月廿三日於江戶卒去五十四歲同人依願嗣不立故五萬石之領本洲還附之命有葬于天眞寺崇福寺假墓有心周菴位牌納

菊千代本州宣政公為繼子本家譜委敷母定香院殿

長和御幼名峯太郎明治十四年二月三十日御誕生御本家長和公御六男明治

因に記す黒田長成侯の畧歴掲載すべき筈の處印刷前取調未済の爲め己むを得老之を省けり

### 有馬家

有馬氏は赤松義祐に出づ義祐は村上天皇十六世の裔にて天皇の第七子を貞平親王と稱す三品に叙し姓源氏を賜ひて中務卿に任す親王顯房を生ひ是れを六條右大臣とす清華の一也顯房雅實を生ひ是を久我大政大臣とす其子雅定孫定房曾孫定忠並顯職たり定忠の子師季源親の謀反に坐し播磨に謫せらる子孫累世播磨權守たり始めて赤松を氏とす源頼朝に歸し北條義時の女を娶る則景久範を生ひ久範茂範を生ひ茂範則村を生ひ削髮して圓必と稱す是の時に當りて後醍醐天皇北條高時を征伐し給はんとす皇子護良親王令旨を圓心の子則祐に賜ふ則祐父に先ちて勤王す皇子兵敗れて吉野に入らせらる則ち則祐を遣歸して父圓心に諭し義兵を起さしむ圓心即ち命を奉し數々賊兵と戰ひ遂に六波羅

に圍む三師北條時益仲時等を走らす既にして高時諫に伏す諸將皆厚賞を受獨圓心其の古邑を保つのみ後本國の守護たりしを無幾て亦た之を罷む仍て大に失望し遂に叛して足利尊氏に従ふ則祐義祐を生ひ出羽守たり攝津國有馬邑を食む因て氏とす義祐持家を生ひ持家元家を生ひ元家則秀を生ひ則秀澄則を生ひ澄則則景を生ひ則景重則を生ひ重則從五位下に叙し筑後守に仕す播磨國三木邑に移轉す是時足利氏政を失ひ海内鼎沸松永久秀將軍足利義輝を弑す重則之に死す重則子則頼とす則頼流離其所有を失ひ或は三好長慶に屬し或は別所長治に隸す豐臣秀吉の毛利氏を征するに及んで則頼嚮導を爲す播磨を徇ふ遂に淡河三千二百石を賜ひ後に一万五千石に増封せらる則頼雉髮刑部卿法印たり秀吉の明智光秀を誅するに際し諸將領と清州に會し信長の繼嗣を定め其遺地を分つ諸將各兼并の志ありて皆秀吉を忌む刑部卿後れて至る門者之を拒みて入れず卿長劍を接し直に入る柴田勝家其顔色常ならざるを視て誰ぞと問ふ秀吉曰く播州勇士有馬中務少輔なり來りて我れに屬す一坐驚きて其宴を罷む時に刑部卿首として秀吉を護る是を以て諸將遂に發することを得ず秀吉出て刑部卿に謂て曰く吾余甲斐會を得たかと長子四郎次郎則氏と名く關白秀次に

任へ天正十二年小坂山の役に戦死せり

。豊氏(春林)

永録十二巳巳年播州三木郡に生る寛永十九年壬午九月晦日久留米城に薨す  
年七十四梅林寺に葬る

文録四年乙未遠江國一郡半を以て食邑をなす而して横須賀城に居す慶長三  
年戊戌丹後半を以て播州有馬郡に易へ倍地と爲す而して福智山城に移す元  
和六年庚申筑後七郡半を以て封地と爲す明年辛酉久留米城に住す

。忠頼(瓊林)

豊氏の第二子慶長八年福智山に生る承應四年三月二十日備前掘田原の船中  
にて逆臣の爲めに刺れて薨す年五十三梅林寺に葬る

寛永十一年大將軍に従ひ京師に朝す  
寛永二十年叙従四位任侍從

寛永二十年久留城外深を鑿つ國の邊境を治むるに功あり  
國慶安二年久留城外深を鑿つ國の邊境を治むるに功あり  
頼利(盤源)

承應元年江戸辰口邸に生れ忠頼の第三子初め松千代寛文八年六月江戸芝赤

羽邸に薨す年十七澁谷祥雲寺に葬る

萬治元年五月公國老有馬右京有馬四郎兵衛陪隨初めて大將軍に謁す時に年

七才

寛文五年二月叙従四位下侍從兼立蕃頭に任す時に年十四才

頼元(慈源)

忠頼の第四子承應三年月に生れ初め源四郎と稱し寶永二年七月廿日江戸赤

羽邸に薨す年五十二澁谷祥雲寺に葬る

寛永八年八月襲封

寛文八年十二月廿七日叙従四位下中務大輔に任す

延寶六年伏見邸成る

天和二年四月祖先の功勞書を幕府へ上進

元録十四年四月祖則頼(法印)以來世々誠忠なりとて國主權の待遇となる

頼旨(昌林)

頼元の第二子貞享三年月に生れ寶永三年四月八日江戸赤羽邸に薨す澁谷祥



雲寺に葬る年三十一  
元録十三年十二月叙従四位下任筑後守

○則維(梅殿)

幕府旗下土石則則員の二子有馬則故の養子頼旨嗣なきを以て封を襲ひ延寶元年月に生れ元文二年四月朔日江戸高輪下邸に薨す年六十五澁谷祥雲寺に葬る

寶永三年十二月叙従四位下任玄蕃頭

享保十三年租税の件に付き農民一大騒動を起る

○頼鐘(大慈)

則維の第五子正徳三年月に生れ天明三年十一月二十三日久留米城に薨す年七十梅林寺に葬る

元録十三年十二月叙従四位

安永元年十二月任少將

○頼貴(大乗)

頼鐘の長男延享二年月に生れ文化九年二月三日江戸赤羽邸に薨す年六十八

澁谷祥雲寺に葬る

寶曆八年十一月叙従四位任上総介に後ち中務大輔に遷る

文化二年任少將

世子頼善を廢し頼瑞を以て世子とす文化元年十二月二十二日赤羽邸に薨す年三十六

○頼徳(大良)

頼貴の孫早世頼瑞の子寛政九年月に生れ弘化元年四月二十三日江戸赤羽邸に薨澁谷祥雲寺に葬る年四十八

天保元年十二月任少將

○頼永(義源)

頼徳の第四子文政五年三月二十三日久留米城に生れ弘化三年七月三日久留米に薨す梅林寺に葬る年二十五天保五年二月叙従四位下

○頼威(對鷗)

頼徳の第七子文政十一年七月十七日久留米城に生れ明治十四年五月二十一日東京蠣殻町の邸に薨す年五十七澁谷祥雲寺に葬る

嘉永二年十二月有栖川詔仁親王の王女精子と婚姻す

嘉永六年十二月任少將

元治元年四月十八日任中將

明治三年六月久留米藩知事

○從三位伯爵有馬頼高略歴

一元治元年六月十五日生

一明治十年三月二十六日相續

一全年四月十六日叙從五位

一全十七年五月六日式部寮御用掛被仰付准奏任

一全年七月七日授伯爵被置式部職

一全年全月全日式部職御用掛被仰付准奏任

一全十八年二月十九日農商務省御用掛兼勤被仰付准奏任書記局事務取扱被命

一全年十一月十七日故從三位有馬頼成公の遺志を継ぎ舊久留米藩士族共同授

産の爲り設立したる筑後國御井郡篠山町赤松社へ金貳万五千圓寄附せし賞

として三重金盃を賜ふ

一全十九年一月十九日農商務省御用掛兼勤被免

一全年二月五日式部職勤務被仰付

一全年八月二十八日依願式部職勤務被免

一全年十月二日歐米諸國遊歴として出發

一全貳拾年十二月五日歸朝

一全年全月二十三日露西亞國皇帝陛下より贈與したる神聖斯多尼士拉斯第三

等勳章土耳其國皇帝陛下より贈與したる美治慈惠第四等勳章伊太利國皇帝

陛下より贈與したる王冠第五等勳章丁抹國皇帝陛下より贈與したる「シニウ

リエドセルドルタチブク」勳章暹羅國王陛下より贈與したる銀製ヤニヒリ

記章を受領し及佩用するを允許せらる

一全貳拾一年六月十九日叙正五位

一全貳拾五年七月五日叙從四位

一全貳拾九年六月廿日叙正四位

一全三十年叙勳四等瑞寶章

二全三十四年六月二十一日叙從三位

立花家

清和天皇の皇子貞純親王の男六孫王經基八代の孫右大將源賴長男大友左近將監能直六代近江守貞宗嫡子左近將監貞載初め筑前國糟屋郡立花城に居す嗣子參河守宗匡立花を氏とす宗匡八代

鑑進 宗匡八代孫 永正十年 月生天正十三年九月十一日卒 年七十三筑前國立花城 葬養孝院法諡道雪

宗茂 高橋主膳兵衛尉大藏鎮種子鑑進養爲嗣享祿四年 月生慶長十一年十一月廿五日 卒年七十六江戸下谷邸下谷葬廣德寺法諡松陰宗茂

忠茂 立花主膳正源直次第四子宗茂養爲嗣慶長十七年七月七日生江戸延寶三年九月十九 日卒年六十四江戸小石川葬德雲寺法諡忠嚴好雪

鑑虎 忠茂第子正保二年十一月十五日生江戸延寶十五年六月廿三日柳川卒年五十八同國 葬雪峯山法諡英山性俊

鑑任 鑑虎第子天和三年正月七日生江戸享保六年五月十三日柳川卒年三十九同國葬雪 峰山法諡常心法鑑

貞叔 立花帶刀源茂高第二子鑑任養爲嗣元祿十一年六月廿三日柳川生延享九年五月廿五 日江戸卒年四十七下谷邸下谷葬廣德寺法諡慈雲紹隆

貞則 貞叔第子京保十年五月十九日柳川生延享三年七月十七日柳川卒年三十二同國葬 福嚴寺法諡廓融性堂

鑑通 貞叔第子貞則之弟享保十四年十二月二日柳川生寛政九年十二月九日柳川卒年六 十九同國葬福嚴寺法諡馨德孔紹

鑑門 鑑道第子寶曆五年九月廿七日柳川生寛政元年八月十八日江戸下谷邸卒年三十三 下谷葬廣德寺法諡空惠紹觀

鑑一 鑑門第子寶曆十二年正月廿五日柳川生寛政五年八月七日江戸下谷邸卒年三十二 下谷葬廣德寺法諡仁峰宗謙

鑑壽 鑑一第子明和六年四月廿五日柳川生文政三年四月廿九日江戸下谷邸卒年五十二 下谷葬廣德寺法諡元剛紹和

鑑賢 鑑一第子寛政元年七月八日柳川生文政十三年四月十一日江戸下谷邸卒年四十六 下谷葬廣德寺法諡博愛元長

鑑備 鑑賢第子文政六年八月廿一日柳川生弘化三年三月廿四日柳川卒年二十四同國葬 福嚴寺法諡寂智紹賢

鑑寛 鑑備之弟文政十二年三月廿四日柳川生

鑑良 鑑寛第子安政四年六月七日柳川生明治六年 月十三日東京下邸卒年十六下谷葬 廣德寺法諡深蘊長發

寛治 鑑寛第子安政四年九月柳川生明治九年立花中務養爲嗣明治六年二月十四日鑑寛 嫡子

從四位伯爵立花寬治君略歴

- 一 安政四年丁巳九月柳川生
- 一 明治元年庚辰立花中務の養子となる同年家督相續
- 一 明治七年二月十四日本家立花鑑寛の嫡子に復讐す
- 一 明治七年四月廿七日被叙從五位
- 一 全年五月一日天皇陛下拜謁賜天盃
- 一 全年十二月廿八日家督相續
- 一 全十二年二月東京下谷區三ノ部區會議員當選
- 一 全十四年七月第十五類族長となる
- 一 全十七年七月授伯爵
- 一 全二十年十二月廿六日被叙正五位
- 一 全二十二年四月十六日福岡縣へ貫風換願濟
- 一 全廿三年伯爵中互選を以て貴族院議員當撰
- 一 全廿四年六月十六日被叙從四位

### 福岡縣管轄地の沿革

現時本縣の管轄に屬する筑前、筑後の二國及び豊前四郡は明治十年の總轄にして、是を明治元年に於ける藩廳區域、及び廢藩置縣以後の概要を記さんに、當時左の八藩各々分立せしを見る

(一) 福岡藩	柳川藩
福岡市 糟屋郡 宗像郡	山門郡 三潞郡の内 八女郡の内
遠賀郡 鞍手郡 元穂波郡	三池郡の内
元坐郡 筑紫郡	三池藩
糸島郡 早良郡	三池郡の内
秋月藩	香春藩
元嘉麻郡 元坐郡	企救郡 田川郡 京都郡
久留米藩	筑上郡の内
久留米市 浮羽郡 三井郡	千束藩
三潞郡の内 八女郡の内	筑上郡の内

以上の諸藩は王政復古の一大維新ありしと雖も、尙ほ舊城主をして藩知事となし其政務を執らしめたり、而して、地方行政の主宰者を新たに任命し之を權令(縣令)と稱せり、然れども其管轄區域は尙ほ以前と異なる處なかりき、只九明治三年中香春藩を改めて豊津藩の名稱となせしのみ

明治四年十一月十四日政府は更に縣の廢合を爲し、左の三縣を存立せしめたり

福岡縣 小倉縣 三潞縣

而して福岡縣へは秋月縣を廢して之を加へ、小倉縣は豊津千束の兩縣を廢合して之を名つけ、又た久留米柳川三池中津の四縣を廢合して三潞縣となせしなり、越へて明治九年四月十八日、小倉縣を廢して之を福岡縣へ合併せしにより、明治四年に於ける八縣は福岡三潞の二縣に屬せしめたり

同年八月廿一日、下毛、宇佐(豊前)の兩郡を割きて大分縣に屬せしめ更に三潞縣を廢し之を福岡縣へ合したるに依り、茲に初めて現時の福岡縣を形成するに至れり

知事 (縣令)知事ノ官名ハ十九年七月以降

任命年月日	罷免年月日	罷免事由	位勳	姓名
明治四年 七月十五日	明治五年 四月五日	轉若松縣令		熾仁親王
全 六年 二月七日	全 六年 六月五日			澤簡德
全 六年 六月廿七日	全 七年 八月三日			立木兼善
全 七年 八月四日	全 七年 九月七日	縣令心得	從五位	渡邊清
全 七年 九月八日	全 十四年 七月廿九日	任元老院議員	全	渡邊清
全 十四年 八月十二日	全 十五年 五月十一日	轉任大藏大書	從五位	渡邊國武
全 十五年 五月十一日	全 十九年 二月廿五日	非職	從五位	岸良俊介
全 十九年 二月廿五日	全 廿五年 七月二十日	任愛知縣知事	勳三等	安場保和
全 廿五年 七月二十日	全 廿六年 五月廿六日	任大分縣知事	正五位	山田爲隆
全 廿六年 五月廿六日	全 廿八年 四月十九日	依願免	正四位	岩崎小二郎
全 廿八年 四月十九日	全 卅一年 五月十四日	任廣島縣知事	從三位勳三等男	岩村高俊
全 卅一年 五月十四日	全 卅二年 四月七日	依願免	從四位	曾我部道夫
全 卅二年 四月七日	全 卅五年 十月四日	任愛知縣知事	從四位勳三等	深野一三

七〇  
河島 醇  
勤四位

全卅五年 十月四日  
書記官 (十年前不詳ニ付略)

任命年月日 罷免年月日 罷免事由 位勳 姓名

明治十年 九月三日 明治十三年 八月一日 不詳 從六位 森 醇

全十三年 八月二日 全十四年 十一月二日 依願免 從六位 赤川 懸助

全十四年 十一月廿四日 全十七年 一月八日 書記官取縣 少書記官 萩原 汎愛

全十七年 一月八日 全十九年 四月十四日 非 職 從六位 渡邊 清

全十九年 四月十四日 全廿一年 十月廿九日 任內務省 從五位勳六等 廣橋 賢光

全廿一年 十月廿九日 全廿二年 十月十一日 任高知縣 書記官 正七位 猪鹿倉 兼文

全廿二年 十月十一日 全廿五年 十一月五日 非 職 正六位 山崎 忠門

全廿五年 十一月五日 全三十年 四月廿六日 非 職 正六位 緒方 道平

全三十年 四月廿六日 全卅二年 四月八日 依願免 從五位 入佐 清靜

全卅二年 四月八日 全卅五年 十二月卅日 任神奈川 縣書記官 從五位 谷口 留五郎

全卅五年 十二月卅日 勤四等 山田 揆一

警 部 長

任命年月日 罷免年月日 罷免事由 位勳 姓名

明治十五年 八月十二日 明治二十年 八月十二日 非 職 正八位 久保村 活三

全廿一年 一月十三日 全廿六年 三月廿一日 全 上 從六位 中原 尙雄

全廿六年 三月廿一日 全廿八年 三月廿六日 任山口縣 警部長 從六位 有田 義資

全廿八年 三月廿六日 全三十年 四月廿六日 任長崎縣 警部長 從六位 安立 綱之

全三十年 四月廿六日 全三十年 十二月九日 任栃木縣 警部長 正七位 有川 貞壽

全三十年 十二月九日 全卅二年 四月八日 任鳥取縣 警部長 從五位 楯石 駿二郎

全卅二年 四月八日 全卅六年 六月十二日 任福岡縣 警部長 正六位 瀧岡 武二

全卅六年 六月十二日 全卅八年 四月十九日 任佐賀縣 警部長 正六位 有川 貞壽

全卅八年 四月十九日 正六位 松本 郁朗

糟 屋 郡 長

任命年月日 罷免年月日 罷免事由 姓名

明治十一年 十月十七日 明治十四年 十一月十四日 宗像郡長ニ任 權藤 貫一

全十四年 十一月十四日 全十四年 十一月廿八日 依願免 矢野 壽六郎

全十四年 十二月三日 全十五年 四月十八日 熊本縣警部ニ任 手塚 弘

全 十五年 四月廿四日 全 十九年 八月廿八日 嘉穗兼鞍手郡長二任 久野 近賢  
 全 十九年 九月四日 全 廿三年 五月廿八日 依願免 小野 隆助  
 全 廿三年 六月六日 全 廿九年 六月十五日 非 職 渡邊 楨  
 全 廿九年 六月十五日 全 卅三年 六月十二日 三井郡長二任 吉田 佐七郎  
 全 卅三年 六月十二日 新納 久

宗像郡長

明治十一年 十月十七日 明治十三年 三月十九日 依願免 奧山 享  
 全 十三年 三月十九日 全 十四年 一月卅一日 六等屬二任 吉田 綱次郎  
 全 十四年 一月卅一日 全 十六年 二月六日 那珂郡長二任 權藤 貫一  
 全 十六年 二月六日 全 十九年 九月四日 非 職 上野 彌太郎  
 全 十九年 九月四日 全 二十年 十二月廿八日 (兼務) 兼務ヲ解 小野 隆助  
 全 二十年 十二月廿八日 全 廿一年 五月廿八日 依願免 矢野 壽六郎  
 全 廿二年 二月七日 全 卅一年 十月十五日 朝倉郡長二任 宮本 保  
 全 卅一年 十月十五日 全 卅七年 四月一日 休 職 大倉 周之助  
 全 卅七年 四月一日 全 卅八年 九月廿三日 糸島郡長二任 原田 種隆

全 卅八年 九月廿三日 本縣屬 岡村 雪三郎

遠賀郡長 依願免 不破 國雄

明治十二年 十月十七日 明治十三年 一月七日 依願免 上野 彌太郎

全 十三年 一月七日 全 十四年 一月卅二日 廢官 久野 近賢

全 十四年 一月卅二日 全 十四年 十二月十四日 鞍手郡長二任 不破 國雄

全 十四年 十一月十四日 全 十八年 二月十八日 那珂郡長二任 谷 直行

不詳 不詳 岩佐 專太郎

全 十九年 九月四日 不詳 榑口 隆範

全 廿二年 七月四日 全 廿五年 十一月十九日 上座 郡長二任 山中 立木

全 廿五年 十一月廿二日 全 廿六年 十一月四日 非 職 中里 文太郎

全 廿六年 十一月八日 全 廿九年 二月七日 非 職 岡田 三吾

全 廿九年 二月七日 全 卅八年 八月十六日 依願免 廣辻 信次郎

全 卅八年 八月十六日 久野 近賢

鞍手郡長 久野 近賢

明治十二年 十月十七日 明治十五年 四月廿四日 糟屋郡長二任

全十五年五月十一日	全十五年十月廿三日	依願免	肥田史
全十五年十一月十三日	全十六年七月六日	依願免	松浦格彌
全十六年七月廿三日	全十九年九月四日	非職	矢野矢
全十九年九月四日	全二十年十二月廿八日	(兼務)依願免	久野近賢
全二十年十二月廿八日	全廿五年十一月十九日	非職	上野彌太郎
全廿五年十一月十九日	全三十年四月廿六日	山形縣警部長任	龍岡篤敬
全三十年五月十四日	全卅四年九月廿八日	依願免	平野萬四郎
全卅四年九月廿八日	全卅八年九月廿三日	福岡市長任	佐藤平太郎
全卅八年九月廿三日			戶田健兒

嘉穂郡長

明治十一年十月十七日	明治十六年七月十八日	依願免	山中立木
全十六年七月廿三日	全十九年九月四日	遠賀郡長任	岩佐專太郎
全十九年九月四日	全廿四年四月廿二日	那珂三笠郡長任	久野近賢
全廿四年四月廿七日	全廿九年二月七日	遠賀郡長任	岡田三吾
全廿九年二月七日	全卅二年四月八日	非職	郡林保宗

朝倉郡長

全卅二年四月廿七日	全卅三年六月十二日	精屋郡長任	新納久
全卅三年六月十二日			鶴田正義

朝倉郡長

明治十一年十月十七日	明治十三年三月十八日	六等屬任	小河久四郎
全十三年三月廿二日	全十六年六月廿八日	依願免	神吉定夫
全十六年七月三日	全十九年八月廿八日	非職	山田正修
全十九年八月廿八日	全廿二年七月四日	糸島郡長任	權藤貫一
全廿二年七月四日	全廿三年十月廿五日	警視任	土方和親
全廿三年十二月廿六日	全廿五年十一月十九日	非職	野田養則
全廿五年十一月十九日	全卅一年八月廿三日	死	樋口競
全卅一年十月十五日	全卅七年六月二日	田川郡長任	宮本保
全卅七年六月二日			高瀬重太郎

筑紫郡長

明治十一年十月十七日	明治十三年六月廿四日	依願免	小野隆助
全十三年六月廿五日	全十三年八月十二日	依願免	南川正雄



全 十三年 八月十三日	全 十六年 二月一日	依願免	小河久四郎
全 十六年 二月六日	全 十八年 三月十八日	屬任	榎藤貫一
全 十八年 二月十八日	全 十九年 八月廿八日	非職	不破國雄
全 十九年 八月廿八日	全 二十年 十二月廿八日	(兼務)依願免	山中立木
全 二十年 十二月廿八日	全 廿四年 四月廿二日	依願免	那保宗
全 廿四年 四月廿二日	全 廿九年 十月廿九日	依願免	久野近賢
全 廿九年 十月廿九日	全 卅八年 八月十六日	遠賀郡長任	廣辻信次郎
全 卅八年 八月十六日			堀善之丞

糸島郡長

明治十一年十一月十七日	明治十二年五月廿三日	福岡區長任	平山能忍
全 十二年 五月廿三日	全 十二年 十二月五日	依願免	中村耕什
全 十二年 十二月五日	全 十六年 二月三日	依願免	西島種美
全 十六年 二月三日	全 廿二年 七月四日	遠賀郡長任	樋口競
全 廿二年 七月四日	全 廿三年 八月五日	依願免	權藤貫一
全 廿三年 八月五日	全 廿九年 八月十日	早良郡長任	土岐小二郎

早良郡長

全 廿九年 八月十日	全 三十年 四月十二日	死亡	手塚弘
全 三十年 四月十二日	全 卅五年 九月十七日	依願免	母里崇
全 卅五年 九月十七日	全 卅八年 九月廿三日	鞍手郡長任	戸田健兒
全 卅八年 九月廿三日			原田種澄

兼務

明治廿九年 四月一日	明治廿九年 八月十日	兼務	土岐小二郎
全 廿九年 八月十日	全 三十年 九月十六日	三淵郡長任	同前
全 三十年 九月十六日			岩崎恭行

浮羽郡長

明治十一年 十月十七日	明治十五年 十月十九日	依願免	中島武洲
全 十五年 十月廿四日	全 廿二年 二月七日	非職	吉田足穂
全 廿二年 二月七日	全 廿五年 三月四日	依願免	中村彦次
全 廿五年 三月四日	全 三十年 十二月十四日	八女郡長任	田中慶介
全 三十年 十二月十四日			川島澄之介

三井郡長

明治十一年十月十七日 明治十三年七月五日 依願免 鶴飼廣登  
 全十三年八月六日 全十四年一月三十日 廢官 宗小二郎  
 全十四年一月卅一日 全十五年六月三十日 依願免 小川源之丞  
 全十五年七月七日 全十五年十月廿四日 生葉郡長任 吉田足穂  
 全十五年十月廿四日 全廿二年二月七日 八女郡長任 川村作磨  
 全廿二年二月七日 全廿六年四月廿七日 死 亡 松本次郎  
 全廿六年五月廿六日 全卅二年四月八日 非職 辻 鎮  
 全卅二年五月五日 全卅三年六月十二日 大分縣直入郡長任 渡邊村男  
 全卅三年六月十二日 全卅五年三月十日 休職 吉田佐七郎  
 全卅五年三月十日 全卅七年八月十八日 休職 福田志平  
 全卅七年八月十八日 左正武  
 三潞郡長  
 明治十一年十月十七日 明治十三年十月廿五日 依願免 姉川行道  
 全十三年十月廿五日 全十四年十二月十四日 御井郡長任 小川源之丞  
 全十四年十二月十四日 全十七年一月十七日 依願免 横枕覺助

全十七年一月廿三日 全十九年四月廿七日 依願免 後藤謙  
 全十九年五月七日 全廿五年十一月十九日 非職 阿川光裕  
 全廿五年十一月十九日 全三十年八月九日 嘉義縣辨務署長任 三夕尻忠吾  
 全三十年九月十六日 全卅二年四月八日 非職 土岐小二郎  
 全卅二年五月十日 瀨高龍人  
 八女郡長  
 明治十一年十月十七日 明治十二年十月六日 依願免 堀江三尙  
 全十二年十月十八日 全十五年一月四日 全上 有馬幸三郎  
 全十五年一月七日 全十九年六月廿八日 死 亡 堀江三尙  
 全十九年八月廿八日 全二十年 月 日 全上 阿川光裕  
 全廿二年二月七日 全廿五年十一月十九日 非職 川村作磨  
 全廿五年十一月十九日 全廿九年十月廿九日 依願免 蒲瀬瀧千  
 全廿九年十月廿九日 全三十年十二月十四日 北海道廳支廳長任 宮本五三郎  
 全三十年十二月十四日 田中慶介

池郡長  
 三潞郡長

明治十一年十月十七日 山門郡長ニ任 吉田孫二郎  
 全 十一年十月廿五日 全 十四年一月卅一日 廢官 杉森憲正  
 全 十四年一月卅一日 全 十四年十二月十四日 兼務 吉田孫二郎  
 全 十四年十一月十四日 全 十五年二月廿一日 山門郡長ニ任 大村務  
 全 十五年二月廿一日 全 十九年九月四日 本縣屬ニ任 由布惟允  
 全 十九年九月四日 全 三十年十二月廿八日 兼務 十時一郎  
 全 二十年十二月廿八日 全 廿三年一月廿二日 八女郡長ニ任 杉森憲正  
 全 廿三年一月廿二日 全 廿九年十月廿九日 岐阜縣吉城郡長ニ任 宮本五三郎  
 全 廿九年十月廿九日 全 卅七年四月一日 岐阜縣吉城郡長ニ任 十時三吉郎  
 全 三十年四月一日 全 三十年四月一日 東喜之介  
 山門郡長  
 明治十一年十月廿四日 明治十五年二月十四日 依願免 吉田孫二郎  
 全 十五年二月廿二日 全 十九年九月四日 全 上郡長代理郡書記 大村務  
 全 十九年九月四日 全 廿三年八月五日 全 上郡長代理郡書記 市時一郎  
 全 廿四年三月廿八日 全 卅三年八月二日 警視 田川誠作

全 卅三年八月二日

坂本久壽

企救郡長

明治十一年十月十八日 明治廿五年十一月十九日 非職 津田維寧  
 全 廿五年十一月十九日 全 三十年十二月十三日 全 上 後藤章臣  
 全 三十年十二月十三日 全 卅四年六月廿六日 依願免職 村岡納章  
 全 卅四年六月廿六日 全 卅四年六月廿六日 依願免職 戶田宣徳

田川郡長

明治十一年十月十八日 明治廿四年二月十三日 依願免職 熊谷直候  
 全 廿四年二月十八日 全 廿九年六月十五日 非職 花迂也  
 全 廿九年六月十五日 全 卅二年四月八日 全 上 長野三恰  
 全 卅二年四月廿七日 全 卅七年六月二日 朝倉郡長ニ轉任 高瀬重太郎  
 全 卅七年六月二日 全 卅七年七月廿九日 死 亡 宮本保  
 全 卅七年八月十八日 全 卅七年八月十八日 津田直次

京都郡長

明治十一年十月十七日 明治十九年八月廿八日 非職 山本重隆

全 十九年 八月廿八日 全 廿一年 七月十六日 清水可正  
 全 廿一年 七月十六日 全 廿六年 十一月八日 依願免 浦野重德  
 全 廿六年 十一月八日 葉山荒太郎

樂上郡長

明治十一年十月十七日 明治十三年九月廿一日 依願免 加藤海藏  
 全 十三年 十月六日 粟屋藤五郎  
 全 十四年 一月卅一日 全 十四年 十一月十一日 兼 務 山本重輝  
 全 十四年 十一月十九日 全 十九年 八月廿八日 非 職 生井清長  
 全 十九年 八月廿八日 全 三十年 十二月廿六日 兼 務 清水可正  
 全 二十年 十二月廿八日 全 廿六年 十一月八日 京都郡長ニ任 葉山荒太郎  
 全 廿六年 十一月八日 全 廿九年 六月十五日 田川郡長ニ任 長野 恰  
 全 廿九年 六月十五日 全 三十年 十二月十三日 企救郡長ニ任 村岡益章  
 全 三十年 十二月十二日 高橋永種

本縣下各警察署長

明治三十九年一月調

福岡警察署長

(○印ハ署長心得△印ハ兼務)

任命年月日	官位等	氏名	任命年月日	官位等	氏名
明治十一年五月十四日	警部	仁尾惟茂	明治廿四年四月四日	警部	山本謙太郎
全 十二年 三月卅一日	全	寺内正員	全 廿六年 十月三十日	全	宮本專一郎
全 十三年 十二月二十日	全	黒岩知新	全 廿八年 七月四日	全	△平野萬四郎
全 十四年 三月廿二日	全	寺内正員	全 年 八月十二日	全	山中清馬
全 年 四月廿一日	全	松田義一	全 廿九年 十二月廿八日	全	新納 久
全 十五年 六月廿一日	全	岩佐專太郎	全 卅二年 五月一日	全	○末永龍吉
全 十六年 七月廿三日	全	山崎精一	全 年 六月十日	全	佐藤平太郎
全 十九年 五月十四日	全	湯地大雄	全 廿四年 九月廿八日	警視	堀 善之丞
全 廿三年 三月廿二日	全	△三ヶ尻忠吾	全 卅八年 八月十六日	全	佐藤壽一郎
全 年 十月卅一日	全	田川誠作			

箱崎警察署長

○印ハ署長心得

明治十五年三月六日 警部補 代理巡査 濱田聖夫 明治十六年二月十日 警部補 代理巡査 森 晴之進

明治十六年九月一日 警部補 津留武三郎  
 全 十八年六月廿九日 全上 待鳥千治  
 全 十九年九月一日 警部 深山 政  
 全 廿一年四月九日 警部補 陣内傳八  
 全 廿一年八月十八日 警部 十時參吉郎  
 全 廿三年三月廿二日 警部補 藤井信幹  
 全 廿六年九月廿七日 警部 爲藤平七  
 明治廿八年十二月三日 警部 藤井吉藏  
 全 卅一年一月十一日 全 熊頭致正  
 全 卅一年一月六日 全 垂見清人  
 全 卅四年一月一日 全 田尻義重  
 全 卅五年十一月十一日 全 小川義郎  
 全 卅六年三月二日 全 廣田熊三郎  
 全 卅九年一月廿七日 全 岩崎樵太郎

赤間警察署長

○印入署長心得 △印入業務

明治十五年三月四日 警部補 樋口利重  
 全 十六年二月廿一日 全 堀尾雪三  
 全 十七年七月廿九日 警部補 衛藤俊武  
 全 十八年四月廿六日 警部補 龜井仁輔  
 全 十九年九月一日 全 ○大倉周之助  
 全 廿一年十一月十六日 警部 大倉周之助  
 全 廿四年三月十三日 警部 陣内傳八  
 明治廿五年十月十日 全 本山 晋  
 全 卅一年十一月卅日 全 佐土原親愛  
 全 卅六年十一月十五日 全 △藏重樵太郎  
 全 卅八年四月十五日 全 島田尙一  
 全 卅九年四月四日 全 渡邊素夫  
 全 卅一年十月十八日 警部 待鳥千治  
 全 卅一年十月十八日 警部 手島猛彦

明治卅四年二月二十日 全 井手嘉平  
 明治卅七年五月廿七日 警部 伊丹 白

福岡警察分署長

明治十五年七月廿九日 警部補 吉田貞偉  
 全 十七年三月十四日 全 山鹿甚吉  
 全 十八年五月八日 全 佐藤虎雄  
 全 十八年六月廿七日 全 末永 環  
 全 十九年五月廿八日 警部 松浦英一郎  
 全 二十年八月八日 全 大町登佐  
 明治廿二年 警部 津田如廣  
 全 廿四年八月十五日 全 藏重樵太郎  
 全 廿八年五月十一日 全 飯田正雄  
 全 卅一年十月卅一日 全 米村右一  
 全 卅六年五月廿八日 全 緒方護先  
 全 卅七年五月廿七日 全 淀川良之助

若松警察署長

明治十五年三月六日 警部補 山脇活一郎  
 全 十五年八月十四日 警部補 仲 直  
 全 十六年八月十九日 警部補 山脇活一郎  
 全 十六年二月廿一日 警部補 東原種成  
 全 十九年九月一日 全 手島猛彦  
 明治廿二年八月十八日 警部補 中村 確  
 明治廿二年二月十六日 警部補 待鳥千治  
 全 卅六年八月卅一日 全 力丸真人  
 全 卅九年五月廿五日 全 △綾部 繁

不詳

高橋行義

明治卅五年七月十一日 警部心得 大西清言

明治廿八年十二月三日 警部

佐藤平太郎

全 卅七年五月廿七日 警部 津田如廣

全 卅二年六月十日 全

東喜之助

全 卅八年八月十九日 全 井上秀吉

全 卅四年十月一日 全

池邊是清

全 卅九年一月廿七日 全 中澤勇雄

藍屋警察分署長

○印ハ署長心得 △印ハ兼務

明治十一年六月十五日 警部 田實秀士

明治廿二年四月八日 警部 矢野武平

全 十二年五月三日 警部補 ○ 山本謹太郎

全 廿二年五月廿四日 全 佐藤虎雄

全 十三年九月十八日 警部 三ノ尻忠五郎

全 廿四年四月四日 全 佐藤平太郎

全 十五年三月四日 全 細井昌太郎

全 年八月十五日 全 島田尙一

全 年八月四日 警部補 ○ 宮川武行

全 廿六年十一月二十日 全 渡邊素夫

全 年八月十四日 警部 馬場孫太郎

全 廿八年四月十五日 全 荒卷鐵之助

全 十六年九月七日 全 龍岡篤敬

全 廿八年七月十二日 全 中村下枝

全 十七年六月廿七日 全 井上 發

全 卅五年十一月十一日 全 末永龍吉

全 十九年四月五日 全 山本謹太郎

全 卅八年八月廿六日 全 松田幸次郎

全 二十年六月二日 全 松大路信充

黑崎警察分署長

○印ハ署長心得

明治十五年三月六日 警部補 ○ 岡 政太郎

明治廿三年七月廿一日 警部 原 安太郎

全 年八月十七日 全 野中健吉

全 廿八年九月廿五日 全 藤森善平

全 十六年二月十四日 全 上 小畑貞惠

全 三十年一月十一日 全 村山長章

全 十七年十月十日 全 上 爲藤平七

全 卅三年二月廿一日 全 江口高義

全 十九年一月八日 警部補 城戸銑之助

全 卅四年二月二十日 全 肥塚岩太郎

全 年九月一日 全

全 卅七年五月廿七日 全 早川千澄

全 二十年一月六日 警部補 白石解三

全 卅八年八月廿六日 全 岩崎高藏

直方警察署長

明治十五年三月四日 警部補 塘 貞範

明治三十年五月廿七日 警部 渡邊素夫

全 十六年七月十七日 全 大倉周之助

全 卅一年十月十八日 全 佐藤壽一郎

全 警部 母里 崇

全 卅四年十月一日 全 橋本文吉

全 廿九年四月四日 全 陣内傳八

全 卅九年一月廿七日 全 廣田熊三郎

飯塚警察署長

○印ハ署長心得 △印ハ他ヨリ兼任ノ時

明治十一年六月十五日 警部補 ○ 石橋 賢路  
 明治十二年九月四日 警部 田中 良平  
 全 十三年九月十八日 全 井上 斗之助  
 全 十四年四月廿六日 全 井上 整  
 全 十六年二月廿一日 全 宮川 芳晴  
 全 十八年六月廿九日 全 龍岡 篤敬  
 全 十九年五月十四日 全 綾部 敦磨  
 全 二十年四月五日 全 龍岡 中和  
 全 二十年十二月十四日 警部 △ 母里 崇  
 大隈警察分署長  
 明治十五年三月十六日 警部補 吉田 平兵衛  
 全 年十二月廿二日 全 上 中尾 義生  
 全 十六年二月二十日 全 上 高城 巽  
 全 年十月廿六日 全 上 長 篤藏  
 全 十八年九月十四日 全 上 金澤 角太郎  
 明治廿二年十二月十二日 警部 内山 田收  
 全 廿三年七月卅一日 全 本山 晋  
 全 廿五年十月十日 全 陣内 傳八  
 全 廿八年八月十九日 全 高木 隆美  
 全 三十年五月廿七日 全 津田 如廣  
 全 卅四年二月二十日 全 荒木 恭  
 全 卅五年十一月十一日 全 心安 大四郎  
 全 卅八年八月十九日 全 池田 王佐  
 全 卅九年一月廿七日 全 井手 嘉平  
 ○印八署長心得  
 明治十九年九月一日 警部補 石田 暢  
 全 二十年一月六日 全 堀尾 雪三  
 全 廿八年六月二日 全 ○ 尾形 到  
 全 卅一年四月十一日 全 佐藤 虎雄  
 全 卅二年五月廿四日 警部 ○ 佐藤 次郎

明治廿四年八月十五日 警部 津田 如廣  
 全 廿六年八月卅一日 全 肥塚 岩太郎  
 全 卅四年二月三日 全 飯島 傳四郎  
 全 卅五年十一月十一日 全 大河内 善太郎

甘木警察署長

明治十一年六月十五日 警部補 ○ 水津 靜世  
 全 年十二月廿五日 警部 大崎 利三郎  
 全 十三年十二月二十日 全 田實 秀士  
 全 十四年八月十五日 全 深見 重助  
 全 十五年三月四日 全 山本 謙太郎  
 全 十八年三月十四日 全 細井 昌太郎  
 全 十九年四月五日 全 松崎 次郎  
 全 年五月十四日 全 加治 木鴻三  
 全 廿一年四月九日 警部 龍岡 篤敬  
 全 廿一年八月十七日 警部 井上 肇

明治卅八年六月十三日 警部 藤森 善平  
 不詳  
 全 卅八年六月廿四日 警部 ○ 石浦 平三郎

○印八署長心得 △印八他日兼務ノ時

明治廿三年三月廿二日 警部 力丸 真人  
 全 廿五年十一月四日 全 内山 田收  
 全 廿八年七月十二日 全 ○ 藤森 善平  
 全 廿八年八月十二日 全 宮崎 義雄  
 全 三十年一月十一日 全 石田 暢  
 全 三十年十月四日 全 井上 秀吉  
 全 卅一年十月卅一日 全 橋本 文吉  
 全 卅四年十月一日 全 津留 正秀  
 全 卅五年五月三十日 全 西 大次郎  
 全 卅六年五月十九日 全 高田 正平

久喜宮警察分署長

明治二十年一月六日 警部補 青木春圭  
 全 廿一年十一月十六日 警部 青木春圭  
 全 廿二年六月廿二日 全心得 菅村久之  
 全 廿五年四月十四日 全 待島千治  
 全 卅七年七月十一日 全 手島猛彦  
 全 卅八年八月十二日 全 澤井大次郎  
 明治廿九年四月四日 警部 垂見清人  
 全 卅一年一月六日 全 大塚万郷  
 全 卅二年二月七日 全 主寺幸徳  
 全 卅四年十月一日 全 岩崎篤藏  
 全 卅七年五月十七日 全 松田幸太郎  
 全 卅八年八月廿六日 全 城 重義

二日市警察署長

明治十九年一月八日 警部補 津川盛太郎  
 全 年九月一日 警部 松崎次郎  
 全 廿一年一月六日 警部補 橋爪慎吾  
 全 廿三年九月一日 全 綾部 繁  
 全 卅四年四月四日 全 佐藤虎雄  
 全 卅五年四月廿二日 全 肥後仲製装  
 明治廿六年十一月廿日 警部 中澤勇雄  
 全 廿八年八月十二日 全 手島猛彦  
 全 卅一年十月十八日 全 高田正平  
 全 卅七年五月廿七日 全 小川義郎  
 全 卅九年一月廿七日 全 幾野武夫

前原警察署長

明治十五年三月六日 警部補 中村龍太郎  
 全 十五年七月六日 全 佐藤虎雄  
 全 十六年六月廿二日 全 原田英三  
 全 年十月廿六日 全 吉田平兵衛  
 全 十八年七月卅一日 警部補 吉田六三  
 全 十九年九月一日 警部補 内山田 收  
 全 二十年八月八日 全 〇 力九真人  
 全 廿三年三月廿二日 警部 石田 暢  
 明治廿五年四月廿二日 警部 乾 正治  
 全 年十二月廿四日 全 手島猛彦  
 全 廿七年七月十一日 全 津田如廣  
 全 廿八年七月四日 全 井上秀吉  
 全 三十年十月四日 全 田尻義重  
 全 卅四年十月一日 全 垂見清人  
 全 卅七年五月廿七日 全 安武定一  
 全 卅九年一月廿七日 警部 木戸道真

西新町警察署長

明治二十年一月六日 警部 富田 實  
 全 年 全心得 藤島熊太郎  
 全 年六月十六日 全 間世田彦三  
 全 廿一年八月十八日 全 山本謹太郎  
 全 年十二月十九日 全 陣内傳八  
 全 廿四年三月十三日 全 肥後仲製装  
 明治廿五年四月廿二日 全 石田 暢  
 全 三十年一月十一日 全 藤森善平  
 全 卅一年十月卅一日 全 伊丹 白  
 全 卅七年五月廿七日 全 樋口 淳義  
 全 卅八年八月廿六日 全 早川 千澄



久留米警察署長

明治十一年六月十五日 警部 寺内正員  
 全 年十一月廿五日 全 豐永高義  
 全 十二年三月卅一日 全 松田義一  
 全 十三年九月十八日 全 寺内正員  
 全 年十二月廿七日 全 手塚 弘  
 全 十四年十一月七日 全 山崎精一  
 全 十六年七月廿三日 全 朝長洗吉  
 全 十九年五月十四日 全 立原甚藏

明治廿三年七月廿一日 警部 山中清馬  
 全 廿八年八月十二日 全 母里 宗  
 全 卅一年十月卅一日 警長心得 王寺幸徳  
 不詳 綾部 繁  
 全 卅二年二月七日 全 中澤勇雄  
 全 卅二年六月廿二日 全 竹田 定  
 全 卅三年八月二日 任警視 全 久保田 俊

松崎警察署長

明治十五年三月六日 警部補 藤井小助  
 全 十六年二月廿七日 全 上 長 篤藏  
 全 年九月七日 警部補 大森 到  
 全 十九年九月一日 全 尾形 到  
 全 二十年六月二日 全 梶尾雪三

明治廿一年十二月十六日 警部 梶尾雪三  
 全 廿二年十一月十二日 全 龍崎中和  
 全 年十二月廿一日 全 乾 正治  
 全 廿五年四月廿二日 全 高木隆美  
 全 廿六年九月廿七日 全 猪俣雄三

明治廿七年二月十二日 警部 橋本文吾  
 全 年二月二十日 全 河波順三郎  
 全 卅八年五月十二日 全 藏重樵太郎  
 全 卅一年十月卅二日 全 井手 嘉平  
 全 卅四年十月一日 全 小川義郎  
 全 卅五年十一月十一日 全 岩橋植太郎

明治卅六年三月二日 警部 松井辰三郎  
 全 年九月十二日 全 高田正平  
 全 卅七年四月七日 全 高田正平  
 全 年五月廿七日 全 肥塚岩太郎  
 全 卅九年一月廿七日 全 大西正言

吉井警察署長

明治十五年三月四日 警部補 吉田貞條  
 全 年七月廿九日 全 松見安太郎  
 全 十八年三月十四日 全 末永 環  
 全 年六月廿九日 全 妹川將雄  
 全 廿二年六月廿日 警部 細井昌太郎  
 全 卅四年八月十五日 全 佐藤二郎  
 全 廿六年八月卅一日 全 塘 貞範  
 全 廿八年八月十二日 全 中澤勇雄

明治三十年一月十一日 警部 清松盤之助  
 全 卅一年十月卅一日 全 津留正留  
 全 卅四年十月一日 全 大塚万綱  
 全 卅七年四月七日 全 梶原保民  
 全 年四月十九日 全 船越岡次郎  
 全 卅八年七月十九日 全 王寺幸武

田主丸警察分署長

○印ハ署長心得

九四

明治十五年三月六日 警部補 松村覺藏  
 明治廿一年一月六日 警部補 城戸銳之助  
 全 年八月廿九日 全 上 高取猛彦  
 全 廿三年七月八日 全 草野種業  
 全 年八月卅一日 全 上 松村圓  
 全 廿七年七月十一日 警部 待島千治  
 全 十八年二月十九日 全 上 吉田六三  
 全 廿九年四月四日 全 井手嘉平  
 全 年八月一日 全 上 浦上源十郎  
 全 卅一年十月卅一日 全 吉武覺藏  
 全 年九月十四日 全 上 三島殿  
 全 卅四年十月一日 全 大河内善太郎  
 全 十九年九月一日 警部補 白石解三  
 全 卅五年十一月十一日 全 敵島傳四郎  
 全 二十年一月六日 警部補 橋爪眞吾  
 全 卅七年五月廿七日 全 下郡虎太  
 ○印ハ署長心得 △印ハ他ヨリ兼務ノ時

福島警察署長

明治十五年三月四日 警部補 石田精一  
 明治廿一年四月三十日 警部 田川誠作  
 全 年九月廿二日 全 柴田嬌  
 全 廿三年十一月十二日 全 石島精一  
 全 十六年二月十三日 全 川島卯太郎  
 全 廿六年八月卅一日 全 矢野武平  
 全 十八年六月廿七日 全 佐藤虎雄  
 全 廿九年四月四日 全 大倉周之助  
 全 十九年九月一日 警部 三野實秀  
 全 三十年一月十二日 全 中澤勇雄

黒木警察分署長

明治十五年三月六日 警部補 池水貞彦  
 明治廿四年三月十三日 警部 渡邊素夫  
 全 年八月廿九日 全 上 寺井市太郎  
 全 廿六年十一月二十日 全 中間大一郎  
 全 十六年三月十二日 全 上 神谷義治  
 全 廿九年十一月二日 全 小川義郎  
 全 十八年七月十三日 全 上 古賀仁三郎  
 全 卅四年十月一日 全 吉武覺藏  
 全 十九年五月廿八日 警部補 末永環  
 全 卅七年五月廿七日 全 大西正言  
 全 二十年一月六日 全 草野種業  
 全 卅九年一月廿七日 全 △ 小川義郎  
 全 廿三年七月八日 全 大町登佐

大牟田警察署長

明治十九年九月一日 警部 矢野武平  
 明治廿五年十一月四日 警部 力丸眞人  
 全 廿一年八月十七日 全 細井昌太郎  
 全 廿六年八月卅一日 全 飯田權二  
 全 廿二年六月二十日 全 山本謙太郎  
 全 二十九年 全 新納久  
 全 廿四年四月四日 全 綾部繁  
 全 廿九年十二月廿八日 全 心得 村山長章

九五

明治三十年一月十一日 警部 宮崎義雄  
 明治廿二年二月七日 警部 池邊是清  
 全 卅一年十月卅一日 全 高木隆美  
 全 卅四年十月一日 全 佐藤壽二郎  
 全 卅二年一月十六日 全 渡邊素夫  
 全 卅七年四月七日 全 井上秀吉  
 不詳 全 東喜之助  
 全 卅八年八月十九日 全 藤森善平

柳川警察署長

○印ハ署長心得 △印ハ他ヨリ兼務ノ時  
 不詳 警部 母里 崇

明治十一年六月十五日 警部 綾部敦磨  
 明治廿八年八月十二日 全 橋爪慎吾  
 全 十二年五月三日 全 古賀庸三  
 明治三十年五月廿七日 全 陣内傳八  
 全 十三年五月十日 全 片山良藏  
 全 卅一年十月十八日 全 渡邊素夫  
 全 十四年一月廿五日 全 横山政輔  
 全 卅二年二月七日 全 泉 研介  
 全 十五年三月四日 全 秋永蘭次郎  
 全 卅三年五月廿三日 全 △大塚万郷  
 全 十六年六月九日 全 朝永銳吉  
 不詳 全 池田王佐  
 全 十九年五月十四日 全 田川誠作  
 全 卅八年八月十九日 全 樋口淳義  
 全 廿一年四月四日 全 鈴木弘一  
 全 卅九年一月廿七日 全 平方清旭  
 全 廿二年四月八日 全 龍岡篤敬

瀨高警察分署長

○印ハ署長心得

明治十五年三月六日 警部補 吉田六造  
 明治二十年一月六日 警部補 石田 暢  
 全 十六年二月二十日 警部補 成富鶴吉郎  
 全 廿二年六月二十日 全 ○佐座 積  
 全 十六年三月八日 全 藤井 寛  
 全 廿六年九月廿七日 警部 井上秀吉  
 全 十七年六月十二日 全 上 濱田福太郎  
 全 廿八年七月四日 全 田尻義重  
 全 十七年二月十九日 警部補代 松下 續  
 全 三十年十月四日 全 伊丹 白  
 全 十八年十一月六日 警部補 谷 裕啓  
 全 卅一年十月卅一日 全 早川千澄  
 全 十九年三月五日 警部補代 久富文治  
 全 卅七年五月廿七日 全 飯島傳四郎  
 全 十九年九月一日 警部補 堀尾雪三

若津警察署長

明治十九年九月一日 警部 飯田權二  
 明治卅二年二月七日 全 大塚万郷  
 全 廿六年八月卅一日 全 石島精一  
 全 卅四年十月一日 全 江口高義  
 全 年十一月十六日 全 心得 井手貞吉  
 全 全 年十一月廿七日 全 肥塚岩太郎

城島警察分署長

九六

明治十五年三月六日 警部補 村上義治 明治廿五年四月十四日 警部 中澤勇雄  
 全 年八月廿九日 全 上 藤川玲介 全 廿六年八月卅一日 全 津田如廣  
 全 十九年一月八日 警部補 平野 傳 全 廿七年七月十一日 全 佐座 積  
 全 年九月一日 全 乾 正治 全 廿四年十月一日 全 大河内善太郎  
 全 二十年一月六日 全 大町登佐 全 廿六年五月廿八日 全 中村荒太  
 全 年八月八日 全 佐藤虎雄 全 卅九年一月廿七日 全 △ 肥塚岩太郎  
 全 廿二年五月廿四日 全 待島千治 全 卅九年一月廿七日 全 △ 肥塚岩太郎

小倉警察署長  
 ○印ハ署長心得 △印ハ他ヨリ兼務ノ時  
 明治十一年六月十五日 警部 松田義一 明治三十年一月六日 警部 三ヶ尻忠吉  
 全 十二年二月廿七日 全 黒岩知新 全 井上 發  
 全 年六月廿八日 全 辻 淡 全 廿五年十一月四日 全 綾部 繁  
 全 十三年十二月二十日 全 田川誠作 全 廿九年六月二十日 全 母里 崇  
 全 十四年十二月九日 全 横山政輔 全 三十年二月十一日 全 大倉周之助  
 全 十八年五月十四日 全 山崎精一 全 卅一年十月十八日 全 陣内傳八

門司警察署長

明治卅三年八月二日 警視 堀 善之丞  
 全 卅四年九月廿八日 全 正七位 陣内傳八

明治卅八年八月十六日 警視 堀見金之丞  
 正七位

明治廿九年十二月一日 警部 大倉周之助 明治卅二年二月七日 警部 渡邊素夫  
 全 廿九年四月四日 全 阪本 到 全 卅三年八月二日 警視 永田亭藏  
 全 三十年五月廿七日 全 高木隆美 全 卅六年九月十二日 全 堀見金之丞  
 全 卅一年十月卅一日 全 中澤勇雄 全 卅八年八月十六日 全 陣内傳八

水上署  
 明治卅四年三月三十日 警視兼 水田定藏 明治卅八年八月十九日 警部 田尻義重  
 全 卅八年六月十六日 警部 柏木彌太郎

行事警察署長

○印ハ署長心得

明治十五年三月六日 警部補 綾部敦磨 明治廿一年十二月十六日 警部 平野貞次郎  
 全 年六月九日 警部 河原正路 全 廿三年三月廿五日 全 山本景直  
 全 十六年二月廿一日 全 田中良平 全 廿六年八月卅一日 全 中島彦太郎  
 全 十九年五月十四日 全 朝長陸吉 全 廿八年五月十一日 全 川浪順三郎  
 全 廿一年四月十一日 警部補心得 平野貞次郎 全 年八月十八日 全 陣内傳八

九九

明治廿九年四月四日 警部 渡邊素夫  
 全 卅一年十月十八日 全 待島千治  
 全 卅六年五月五日 全 ○大藪龍太郎  
 明治廿六年五月十九日 警部 西 大次郎  
 全 動入等 津留正秀

豐津警察分署長

○印 署長心得

明治十五年三月六日 警部補 藤川玲介  
 全 年七月七日 全 上 福浦保真  
 全 十六年二月廿二日 警部補 荻原實喜  
 全 年十月廿六日 全 上 寺島德雄  
 全 二十年一月六日 警部補 城石銳之助  
 全 卅一年一月六日 全 上 塘 貞範  
 明治廿五年十一月四日 監督 猪俣雄二  
 全 廿六年九月廿七日 警部 原 榮四郎  
 全 廿九年四月四日 全 久野荒三郎  
 全 卅一年十月卅一日 全 兼務 待島千治  
 全 卅三年十二月六日 警部 大藪龍太郎  
 全 卅七年五月廿七日 全 高岡三郎

八屋警察署長

○印 署長心得 △印 兼務ノ時

明治十一年六月十五日 警部 高山 泉  
 全 十四年三月一日 全 綾部敦磨  
 全 十五年三月四日 警部補 藤島熊太郎  
 全 十五年三月四日 全 矢野武平  
 明治十七年三月十四日 警部補 陣内傳八  
 全 二十一年 全 山中清馬  
 全 廿三年七月廿一日 警部 内山田 收  
 全 廿五年十一月四日 全 塘 貞範

明治廿六年八月卅一日 警部 宗 眞彦  
 全 年 全 日 全 高木隆美  
 全 廿八年七月四日 全 津田如廣  
 全 三十年五月廿七日 全 橋本文吉  
 明治卅一年十月卅一日 警部 廣田熊三郎  
 全 廿五年三月三日 全 松井辰三郎  
 全 廿六年三月二日 全 田尻義重  
 全 廿八年八月十九日 全 安田勝實

椎田分警察署長

明治十五年三月六日 警部補 野原應二  
 全 十六年二月廿七日 全 上 國弘 保  
 全 十八年八月十二日 警部補 佐藤二郎  
 全 二十年一月六日 全 心得 肥後仲製淡  
 全 廿一年十一月十六日 警部 肥後仲製淡  
 全 廿四年三月十三日 全 堀尾雪三  
 明治廿九年四月四日 全 清松盤之助  
 全 三十年一月十一日 全 鮫島傳四郎  
 全 卅四年二月二十日 全 江藤潤太  
 全 卅七年五月廿七日 全 石内 悌一  
 全 卅八年十月十九日 全 心得 森田健次郎

香春警察署長

明治十五年三月六日 警部補 藤 三喜術  
 全 年四月十七日 全 上 堀尾雪三  
 全 年十月三日 全 上 龜井仁輔  
 明治十六年二月廿一日 警部補 乾 正治  
 全 十九年九月一日 警部 原田勘次郎  
 全 廿二年六月二十日 全 小西恭助

明治廿四年八月十五日 警部 佐藤平太郎  
 明治廿四年二月二十日 警部 井上秀吉  
 全 廿八年十二月三日 全 爲藤平七  
 全 廿七年四月七日 全 平方清旭  
 全 廿一年十月卅一日 全 藤森善平  
 全 廿九年一月廿七日 全 橋本文吉

現今廢署以下十九ヶ所

荒戸警察分署長

任命年月日	位階	氏名	任命年月日	位階	氏名
明治十五年九月廿五日	警部補	城戸銳之助	明治十七年三月十四日	警部補	十時參吉郎
全 十六年九月七日	警部	宮川武行	全 年十月二十日	全	菅原實喜

福丸警察分署長

明治十五年三月六日	警部補	久米恒吉	明治十六年十月廿六日	警部補	鳥田太吉
全 年十二月廿二日	全	吉田平兵衛			

秋月警察分署長

明治十五年三月六日	警部補	馬場忠吉	明治十五年七月七日	警部補	井上善太
全 年三月十五日	全	福浦保真	全 十六年二月廿四日	全	福浦保真

三奈木警察署長

明治十六年六月廿二日	警部補	福井順平	明治十七年四月十八日	全	上 岩橋佐吉
全 十六年八月廿五日	警部補	日高吉三郎	全 十八年五月十二日	警部補	術藤俊武
明治二十年一月六日	警部	加治木鴻三	明治廿三年三月廿二日	警部心得	廣田健太郎
全 廿一年四月十一日	全	補 永野立太郎	全 年六月三日	全	兼任 力丸真人
全 年十月十二日	警部	井上 發	全 廿五年十一月七日	全	上 内山田 牧
全 廿二年六月二十日	全	心得 石田 暢			

雜餉限警察分署長

明治十五年三月六日	警部補	青木春圭	明治廿三年七月廿一日	警部心得	長野解三
全 年八月十日	全	上 高橋住江	全 廿一年十一月十六日	警部	本山 晋
全 十六年二月廿七日	全	上 白石盛之助	全 廿六年十一月十六日	全	兼務 宮本專一郎
全 二十年一月六日	警部補	○ 本山 晋			

姪ノ濱警察分署長

明治十五年三月六日	警部補	佐々木大四郎	明治十七年三月一日	警部補	福島則憲
全 十六年二月十日	全	上 爲藤平七	全 十八年六月廿七日	全	上 金子茂人

深江警察分署長

○印ノ署長心得

明治十五年三月六日 警部補 高田和門 明治十九年五月廿四日 警部補 ○ 草野權種  
 全 年四月四日 全 上 山路小三郎 全 年九月一日 全 草野權種  
 全 十六年二月十日 全 上 岩橋佐吉 全 二十年一月六日 全 ○ 島田義太郎  
 全 十七年四月十八日 全 上 日高吉三郎 全 二十二年 警部 ○ 手嶋猛彦  
 全 年六月六日 全 上 江上 純 全 廿五年十二月廿四日 全 肥塚岩太郎  
 全 十八年三月十日 全 上 高橋住江 全 廿六年八月廿一日 全 清松盤之助  
 全 十八年九月十八日 全 上 清松盤之助

平尾警察署長

明治二十年一月六日 警部補 本山 晋 警部 長野解三

原町警察分署長

明治十五年三月六日 警部補 藥丸勇吾 全 十六年二月二十日 警部補 浦川真澄  
 代理巡查 全 年九月十三日 全 上 野中健吉 全 年三月八日 全 上 廣瀬常一

水田警察分署長

明治二十年一月六日 警部補 乾 正治 明治廿一年十二月十六日 警部 乾 正治  
 署長心得

明治廿二年十二月廿一日 警部補 林 鷄太 明治廿五年四月廿二日 警部 石島精一  
 署長心得 全 廿四年三月十三日 警部 高木隆美 全 廿六年八月△一日 全 矢野武平

草野警察分署長

明治十五年三月六日 警部補 江口銀三郎 明治十六年十月廿六日 警部補 野中健吉  
 代理巡查 全 年八月三十日 全 上 池永興三郎 全 十七年九月廿六日 全 上 古賀仁三郎  
 全 十六年二月十九日 全 上 神谷義治 全 十八年七月十三日 全 上 田中徳植  
 全 年三月十二日 全 上 松下 績

羽犬塚警察分署長

明治十五年三月六日 警部補 原田英三 明治十七年四月九日 警部補 中尾義生  
 代理巡查 全 十六年三月七日 全 上 田尻弘道 全 十八年三月五日 全 上 大町登佐

榎津警察分署長

明治十五年三月六日 警部補 野中健吉 明治十五年八月十七日 警部補 三浦太吉  
 代理巡查

江ノ浦警察分署長

明治十五年三月六日 警部補 山林藤一 明治十六年三月八日 警部補 立川峯太郎  
 代理巡查 全 年十月六日 全 上 金子茂人 全 年六月十二日 全 上 藤井 寛

池田警察分署長

明治十五年三月六日 警部補 爲藤平七 明治十六年八月廿五日 警部補 高田正雄  
 全 年八月五日 全 上 本木熊五郎 全 年十月廿六日 全 上 古賀仁三郎  
 全 年八月廿六日 全 上 神山義夫 全 年九月廿六日 全 上 野中健吉  
 全 年十二月廿二日 全 上 日高吉三郎

飯田警察署長

明治二十年一月六日 警部補 妹川將雄 明治廿四年四月四日 警部 中間大一郎  
 全 年六月十六日 全 上 片岡信義 全 廿六年十一月十六日 全 草野種業  
 全 廿三年四月四日 全 上 佐藤平太郎

大里警察分署長

明治十五年三月六日 警部補 津留武三郎 明治十六年七月七日 警部補 神山義夫  
 代理巡查 全 十六年二月二十日 全 上 莊原 簡 全 年十月三日 全 上 萩原有作

曾根警察分署長

明治十五年三月六日 警部補 白石保衛 明治十五年七月廿四日 警部補 龜井仁輔  
 代理巡查 全 年五月八日 全 上 進 重貴 全 年十月三日 全 上 萩原有作

明治十六年三月廿九日 警部補 野原鷹二 明治十八年七月四日 警部補 金澤角太郎  
 代理巡查 全 年十月十六日 全 上 橋爪慎吾 全 年八月一日 警部補 白石解三  
 全 十八年二月十九日 全 上 佐藤二郎 全 年八月三日 警部補 金澤角太郎  
 代理巡查 全 年三月十日 全 上 草場寛之 全 十九年五月十八日 警部補 島村勇雄

添田警察分署長

明治十五年三月六日 警部補 術藤俊武 明治十六年十月廿六日 警部補 龜井仁輔  
 代理巡查 全 年四月四日 全 上 吉田介章 全 十八年三月十日 全 上 原田英三  
 全 年八月十四日 全 上 古賀仁三郎

本縣貴族院多額納稅議員資格者 (一) 明治二十三年四月

直接納稅額	現住所	身分	職業	姓名	生年月
二六三三	三池郡三池町	士族	庶業	小野隆基	天保八年十二月
一〇四六五	御笠郡二日市町	平民	商業	谷彦市	安政元年二月
九五三五	三池郡城島村	全	農業	富安市太郎	天保四年十一月
九〇〇三	京郡郡行橋町	全	雜業	草野圓治	嘉永三年十二月



九三六六	仲津郡今元村	平民	農業	陣山律藏	天保十二年十月
八九三〇六	生葉郡吉井町	全	全	鳥越貞敏	天保四年七月
八九七〇番	御井郡金島村	士族	全	鹿毛崎太郎	嘉永三年一月
八〇三八五	早良郡山門村	平民	農業	土斐崎三右衛門	安政四年一月
七九五〇番	竹野郡竹野村	全	全	吉村五郎雄	文政十二年九月
七八二六〇七	糟屋郡宇美村	全	商業	小林作五郎	安政三年四月
七三三九七	鞍手郡新入村	全	農業	青柳次郎	萬延元年四月
七五九三三	久留米市	全	商業	大藪萬藏	文政二年一月
七五三二〇四	穂波郡飯塚町	全	全	藤井善作	天保十三年三月
七三三三九	鞍手郡福地村	全	農業	舌間喜七郎	嘉永三年四月
七三三〇八	山本郡草野村	全	全	上野作太郎	天保十一年五月

當選 鹿毛崎 太郎 (後改名信盛)

全 上 (二) 明治三十年 月

直接國稅納額	現住所	身分	職業	姓名	生年月
一七六〇六	山門郡城内村	華族	無職業	立花寬治	
一三三三三	京都郡今元村	平民	農業	陣山律藏	天保十二年十月
一三六七〇	早良郡壹岐村	全	全	土斐崎三右衛門	安政四年一月
一二五七一	早良郡西新町	全	酒造業	高山徳右衛門	
一二〇三三	三潁郡城島村	士族	農業	富安重行	
一二三二四	三池郡三池町	全	無職業	小野隆基	天保八年十二月
一〇七九六	浮羽郡竹野村	平民	農業	吉村五郎雄	文政十二年九月
一〇〇九八	浮羽郡吉井町	全	農業	鳥越貞敏	天保四年七月
一〇四七五	浮羽郡吉井町	全	全	原吉長	
一〇三二四	三井郡草野町	全	全	上野作太郎	天保十一年五月
一〇三三〇〇	三井郡金島村	士族	全	鹿毛信盛	嘉永三年一月
九九七三	筑紫郡二日市町	平民	製造業	谷彦一	安政元年二月
九九三〇七	遠賀郡洞南村	全	農業	堺吉次郎	
九九〇三三	三池郡二川村	士族	全	河野修造	

空二三番 嘉穂郡飯塚町 平民 藤井善作 天保十三年三月

當選 鳥越 貞敏

全上 (三)

明治三十七年四月一日

直接國稅納額	現住所	身分	職業	姓名	生年月日
三三〇三三	嘉穂郡笠松村	平民	鑛業	麻生太吉	安政四年七月七日
二二三〇八一	早良郡登岐村	平民	農業	土壁崎三右衛門(舊)	安政四年一月十七日
二〇七〇六一	門司市	全	受負業	磯部松藏	安政元年八月十五日
二〇四〇〇五	京都郡今元村	全	農業	陣山律藏(舊)	天保三年十月廿五日
二〇四〇四八	山門郡城内村	華族	無職業	立花寛治(舊)	安政四年九月五日
二〇〇〇三〇〇	遠賀郡若松町	士族	鑛業	安川敬一郎	嘉永二年四月十八日
一六七三三三	福岡市	平民	商業	野村久次	安政四年六月一日
一七三三六	三瀬郡城島村	士族	全	富安重行(舊)	元治元年一月十一日
一七三三三	鞍手郡直方町	平民	鑛業	貝島太助	弘化元年正月十一日

一六八二五九	浮羽郡田主丸町	全	農業	林田守隆	嘉永元年十一月十七日
一五六三三三	浮羽郡吉井町	全	全	原吉徳	文久元年二月十六日
一五〇六〇四	全	全	無職業	鳥越貞敏(舊)	慶應三年三月十三日
一四八二七三	福岡市	全	鑛業	平岡浩太郎	嘉永四年六月廿日
一四八〇四五	浮羽郡竹野村	全	農業	吉村五郎雄(舊)	文政三年九月廿一日
一四七六七一	遠賀郡洞南村	全	全	堺吉次郎(舊)	安政六年一月廿五日
以上互選資格ヲ有スル者					
一四四九三〇	三池郡三池町	士族	無職業	小野隆基(舊)	天保八年十二月日
一四四四二〇	門司市	全	自念	金藏	
一三七二六四	三井郡草野町	平民	農業	上野作太郎(舊)	天保十一年五月日
一三五五七〇	嘉穂郡飯塚町	全	製造業	藤井善作(舊)	天保十三年三月日

明治三十七年六月十日

當選 鳥越 貞敏

本縣選出衆議院議員

第一議會

明治廿三年三月廿五日開會日數三ヶ月九日

內閣總理大臣伯爵 山縣有朋  
衆議院議長 中島信行

佐々木正藏

津田守彦

小野隆助

末松謙澄

堤獻久

香月恕經

權藤貫一

岡田孤鹿

十時一郎

小野隆助

末松謙澄

堤獻久

香月恕經

權藤貫一

第二議會(解散)

明治廿四年十二月廿六日開會日數三十日

內閣總理大臣伯爵 松方正義  
衆議院議長 中島信行

佐々木正藏

津田守彦

十時一郎

末松謙澄

堤獻久

香月恕經

岡田孤鹿

郡保宗

中村彦次

第三議會(臨時)

明治廿五年五月十六日開會日數四十日

內閣總理大臣伯爵 松方正義  
衆議院議長 星亨

佐々木正藏

津田守彦

小野隆助

第四議會

明治廿六年三月廿九日開會日數三ヶ月二日

內閣總理大臣伯爵 伊藤博文  
衆議院議長 星亨

佐々木正藏

津田守彦

小野隆助

末松謙澄

堤獻久

香月恕經

岡田孤鹿

郡保宗

中村彦次

明治廿六年十一月廿八日開會日數三十三日

二四

第五議會 (解散)

內閣總理大臣伯爵 伊藤博文

衆議院議長 星亨

全 楠本正隆

佐々木正藏

津田守彦

小野隆助

第六議會 (臨時)

內閣總理大臣伯爵 伊藤博文

衆議院議長 楠本正隆

佐々木正藏

津田守彦

末松謙澄

明治廿七年五月二十五日開會日數十九日

立花親信

福江角太郎

多田作兵衛

武内美代吉

藤金作

征矢野半彌

第七議會 (臨時)

內閣總理大臣伯爵 伊藤博文

衆議院議長 楠本正隆

佐々木正藏

堤猷久

權藤貫一

第八議會

內閣總理大臣伯爵 伊藤博文

衆議院議長 楠本正隆

佐々木正藏

堤猷久

權藤貫一

第九議會

明治廿八年三月廿八日開會日數三夕月二日

二五

明治廿七年三月廿四日開會日數三夕月三日

中村彦次

立花親信

福江角太郎

多田作兵衛

藤金作

平岡浩太郎

内閣總理大臣伯爵 伊藤博文  
衆議院議長 楠本正隆

中村彦次  
立花親信

佐々木正藏

福江角太郎  
多田作兵衛

堤猷久

藤金作

第十議會

明治廿九年三月廿五日開會日數三ヶ月

内閣總理大臣伯爵 松方正義  
衆議院議長 鳩山和夫

中村彦次  
立花親信

佐々木正藏

福江角太郎  
多田作兵衛

堤猷久

藤金作

第十一議會 (解散)

明治卅一年十二月廿四日開會日數二日

内閣總理大臣伯爵 松方正義

衆議院議長 鳩山和夫

佐々木正藏

福江角太郎

堤猷久

多田作兵衛

權藤貫一

藤金作

中村彦次

平岡浩太郎

立花親信

平岡浩太郎

第十二議會 (臨時)

明治卅一年五月十九日開會日數二十三日

内閣總理大臣伯爵 伊藤博文  
衆議院議長 片岡健吉

藤金作  
征矢野半彌

佐々木正藏

平岡浩太郎

小野隆助

久良知寅次郎

多田作兵衛

永江純一

第十三議會

明治卅二年三月三十日開會日數三ヶ月七日

内閣總理大臣伯爵 山縣有朋  
衆議院議長 片岡健吉

佐々木正藏  
多田作兵衛

藤 金 作  
征矢野 半 彌  
平岡 浩 太郎  
永江 純 一

第十四議會

內閣總理大臣侯爵 山 縣 有 朋  
衆議院議長 片岡 健 吉

佐々木 正 藏  
多田 作 兵 衛  
藤 金 作

第十五議會

內閣總理大臣侯爵 伊 藤 博 文  
衆議院議長 片岡 健 吉

征矢野 半 彌  
平岡 浩 太郎  
永江 純 一

第十六議會

內閣總理大臣侯爵 桂 太 郎  
衆議院議長 片岡 健 吉

佐々木 正 藏  
多田 作 兵 衛  
藤 金 作

第十七議會 (解散)

內閣總理大臣侯爵 桂 太 郎  
衆議院議長 片岡 健 吉

佐々木 正 藏

野田 卯 太郎  
山本 貴 三 郎  
許 斐 鷹 助  
青 柳 四 郎

征矢野 半 彌  
平岡 浩 太郎  
永江 純 一

野田 卯 太郎  
麻 生 太 吉  
青 柳 四 郎

明治卅三年十二月廿五日開會日數三ヶ月十五日

佐々木 正 藏  
多田 作 兵 衛  
藤 金 作

野田 卯 太郎  
麻 生 太 吉  
青 柳 四 郎

明治卅四年十二月十日開會日數三ヶ月

征矢野 半 彌  
平岡 浩 太郎  
永江 純 一

野田 卯 太郎  
麻 生 太 吉  
青 柳 四 郎

明治卅五年十二月廿九日開會日數二十日

堤 猷 久  
多田 作 兵 衛  
藤 金 作  
征矢野 半 彌

平岡浩太郎  
野田卯太郎  
青柳四郎  
中野徳次郎  
松村雄之進

大原義剛  
田中秀次郎  
由布惟義  
毛里保太郎

第十八議會 (臨時)

明治廿六年五月十二日開會日數二十四日

內閣總理大臣伯爵 桂 太郎  
衆議院議長 片岡健吉

佐々木正藏  
堤 猷久  
多田作兵衛  
武内美代吉  
藤 金作  
征矢野半彌

平岡浩太郎  
野田卯太郎  
青柳四郎  
由布惟義  
内藤新吾  
菊池武徳  
伊藤傳右衛門  
木下學而

第十九議會 (解散)

明治廿六年十二月十二日開會日數二日

內閣總理大臣伯爵 桂 太郎  
衆議院議長 河野廣中

佐々木正藏  
堤 猷久  
多田作兵衛  
武内美代吉  
藤 金作  
征矢野半彌

平岡浩太郎  
野田卯太郎  
青柳四郎  
由布惟義  
内藤新吾  
菊池武徳  
伊藤傳右衛門  
木下學而

第二十議會

明治廿七年三月三十日開會日數十一日

內閣總理大臣伯爵 桂 太郎  
衆議院議長 松田正久

平岡浩太郎

毛里保太郎  
藤 金作  
多田作兵衛  
井手武右衛門

佐々木正藏  
淺野陽吉  
古賀庸造  
野田卯太郎

伊藤傳右工門  
征矢野半彌  
由布惟義  
中村雄造

第二十一議會

明治卅七年十二月三十日開會日數二月廿九日

內閣總理大臣伯爵 桂 太 郎  
衆議院議長 松 田 正 久

佐々木正造  
中村雄造  
淺野陽吉  
古賀庸造

平岡浩太郎  
毛里保太郎  
藤金作  
多田作兵衛  
井手武右衛門

野田卯太郎  
伊藤傳右工門  
征矢野半彌  
由布惟義

內閣總理大臣 (伯爵) 桂 太 郎  
第二十二議會  
西園寺 公 望

明治三十八年十二月廿五日開會

衆議院議長

杉 田 定 一

現 住 所	族 籍 職 掌	氏 名	生 年 月 日
福岡市下對馬小路町	平民鑛業	平岡浩太郎	嘉永四年六月二十日生
久田米市莊島町	士族無職	淺野陽吉	明治元年三月三日生
門司市門司	平民新聞記者	毛里保太郎	元治元年二月六日生
小倉市榮町	士族辨護士	古賀庸造	嘉永六年二月一日生
粕屋郡篠栗村	平民農業	藤 金 作	弘化元年九月廿四日生
三池郡岩田村	平民商業	野田卯太郎	嘉永六年十一月廿一日生
朝倉郡栗田村	平民農業	多田作兵衛	天保十四年九月廿三日生
嘉穂郡大谷村	平民鑛業	伊藤傳右工門	萬永元年十一月廿六日生
筑紫郡筑紫村	平民農業	井手武右衛門	安政五年十月廿四日生
築上郡下城井村	士族農業	征矢野半彌	安政四年八月五日生
三井郡味坂村	士族農業	正五位佐々木正藏	安政二年十月廿一日生
山門郡城内村	士族酒造株式會社社長	由布惟義	嘉永二年十一月廿六日生



入女郡岡山村 平民無職 從七位中村雄造 慶應三年四月十五日生

福岡縣會議長

當選年月日	氏名	當選年月日	氏名
明治十二年三月以降	中村耕介	明治廿七年五月以降	庄野金十郎
全 廿三年二月以降	吉田朝次郎	全 卅一年十月以降	加藤新次郎
全 廿五年十月以降	立花親信	全 卅六年九月以降	富安太郎保

縣會議員

(三十八年末調)

明治十二年三月

郡區	現在員	郡區	現在員	郡區	現在員
福岡區	熊谷又七	郡區	石松要一	郡區	多田純一
柏屋郡	長津三九	郡區	伊豆折	郡區	土生純一
遠賀郡	毛利與八	郡區	占部三	郡區	安部安
	佐藤十郎	郡區	那珂夜須	郡區	宮崎安
	三輪久壯	郡區	福間賀純	郡區	岩崎一
		郡區	嘉波	郡區	野崎三
		郡區	三浦郡	郡區	安永三
		郡區	御笠郡	郡區	野崎三
		郡區	三浦郡	郡區	野崎三
		郡區	三浦郡	郡區	野崎三

郡區	現在員	郡區	現在員	郡區	現在員
早良郡	堤村耕三	郡區	早川龍藏	郡區	井口真幸
志摩郡	元塚又三	郡區	林盛隆	郡區	木下武八
企救郡	植木治三	郡區	古賀悠厚	郡區	本庄武八
仲津郡	入江精一	郡區	樋口四郎	郡區	大村盛一
築城郡	井上完治	郡區	早川四郎	郡區	武島盛一
上毛郡	高橋庄治	郡區	堤川一彦	郡區	武島盛一
	末松玄洞	郡區	内藤半次	郡區	梶山二
		郡區	熊田梅次郎	郡區	山布村
		郡區	北原範一	郡區	山布村
		郡區	横田徹	郡區	山布村
		郡區	三浦郡	郡區	山布村
		郡區	三浦郡	郡區	山布村
		郡區	三浦郡	郡區	山布村

附記

郡區	更迭年	退任	補欠	郡區	更迭年	退任	補欠
上妻郡	明治十二年	樋口真幸	平米平	郡區		黑瀬純貞	麻生多次郎
下妻郡	以下明治十三年中	長三九郎	藤野鐵之助	郡區		安部庄作	岡部啓五郎
柏屋郡		長津磯夫	矢野鐵之助	郡區		宮崎安意	萩谷宗一郎
鞍手郡		白水致	古野惣五郎	郡區		守田精一	福井半三郎
嘉麻郡		福間賀四郎	安田耕作	郡區			

築城郡

井上完治  
高橋庄藏  
末松玄洞

松尾文三郎  
野依純二  
友枝猛

石松要一

倉田津九郎

生葉郡

林田盛隆  
古賀悠吉

杉本敬之  
光山正登

野崎察造

萩尾四郎  
森新三

御井郡

樋口胖四郎  
早川盾彦

三谷有信  
里村植衛

元岡敏三  
鬼塚又三郎

津田武右工門  
名古屋敬吾

山門郡

堀山二郎

岡田孤鹿

堤 恕一

山鹿甚吾

三池郡

由布惟義

推崎千之

井手參十郎

諸富杏平

明治拾四年一月

福岡區

現在員

郡區

現在員

郡區

現在員

柏屋郡

藤縣郡  
長崎與平次

宗像郡  
遠賀郡

谷口津九郎  
末利與一  
三輪十久壯

鞍手郡  
嘉麻郡

青柳俊折  
占部三折  
安田耕作

上座郡

多田作兵衛  
土生一兵衛  
岡部宗一郎

上座郡

小松文三郎  
友枝猛二

下妻郡

平富杏平  
本庄武八郎

那珂郡

宮崎一太郎  
萩尾新三

田川郡

早川則親  
香月龍藏

山門郡

大時一  
武島盛美

怡土郡

堤村小七郎  
中田武右工門

生葉郡

松本敬之  
倉山正登

三池郡

津村宣哲

志摩郡

津田武右工門  
名古屋敬吾

御井郡

三池郡

山門郡

岡田盛美

企救郡

福江角太郎  
植村治三郎

御原郡

山門郡

三池郡

津村宣哲

京都郡

入江半三郎  
福井貫三郎

三池郡

山門郡

三池郡

津村宣哲

附記

郡區 更迭年 退任 補欠

福岡區 十四年中 縣郡 運利 堀尾彦六郎 大野未來 怡土郡 更迭年 退任 補欠 津田武右工門 梅津 愨

一三七

生葉郡 竹野郡 三洲郡  
 光山正登 倉富胤厚 尾關武人 倉富恒三郎 山門郡 十時一郎 森 信夫  
 枅網浪江 近藤真郷 三池郡 稚崎千之 渡邊純一

明治十四年二月

備考 十三年太政官公布第十五号府縣會規則  
 改正ニヨリ各固有郡區ヨリノ増員改選

郡區	現在員	郡區	現在員	郡區	現在員
福岡區	堀尾彦六郎 大野未七郎 熊谷又七郎	嘉麻郡	白土正尚 有松伴六郎	席田郡	西島 乾
粕屋郡	田代卷次郎 藤代金十郎 小堀安十郎	穗波郡	大谷朱一郎 安田耕一郎	怡土郡	堤 小七郎
宗像郡	石松新一郎 安部新三郎 谷口庄助	上座郡	古賀健一郎 土生純一郎	志摩郡	名古屋敬吾 南川正雄
遠賀郡	毛利與八郎 赤松貫一郎 有吉長平	夜須郡	岡部啓五郎 多田作兵衛	早良郡	梅津耕介 中村耕介
鞍手郡	青柳俊三郎 勝木昌折	御笠郡	岩崎一太郎	企救郡	福江角太郎 三宅道助 原田松之助
		那珂郡	森上新三郎	京都郡	村上貫一郎
				仲津郡	入江精一 守田淡

築城郡	松尾文三郎	御原郡	下坂邦太郎	山門郡	古賀小太郎 武島盛美 森島信夫 岡田誠
上毛郡	中枝村猛二	山本郡	山鹿甚吾	下妻郡	立岡花通 岡田誠
田川郡	安永則勝 香川龍藏 早川親藏	三洲郡	北原實維 綿貫實維 横田梅太郎 澁田梅太郎	三池郡	三池親義 由布九郎 渡邊純一
生葉郡	尾關武吉人 古賀悠吉	上妻郡	諸富進平 師富進杏太郎 本庄武八郎 川口茂三郎 内藤茂三郎		
竹野郡	梅野多喜藏 内藤半三郎 三藤有信				
御井郡	鏡三郎 山谷直次				

附記

郡區	更迭年	退任	補欠	郡區	更迭年	退任	補欠
福岡區	以下明治十四年中	熊谷又七	郡利	志摩郡		名古屋敬吾	八木大六
粕屋郡		小堀安十郎	郡利	生葉郡		古賀悠吉	上田 東
下座郡		萩谷宗二郎	江藤明良				

御井郡	内藤半次郎	堀江三尚	企救郡	原田松之助	植村治三郎
御原郡	鏡山直次	田中新吾	田川郡	安中岩勝	香月昭三
山門郡	下坂邦太郎	佐々木正藏	生葉郡	早川龍藏	荒卷悦次郎
三淵郡	立花通誠	荒卷篤衛	御井郡	尾關武人	紅山市造
志摩郡	北原範一	立花親信	上妻郡	梅野多喜藏	古賀悠吉
築上郡	綿貫寅雄	藤田菊彌	下妻郡	堀江三尚	本田初之丞
上毛郡	濱田梅太郎	淺川保二	三池郡	諸岡杏平	三谷有信
山門郡	八木大六	蒲池見	靴手郡	平井慎藏	牛島正九郎
宗像郡	松尾文三郎	龜井雋永	靴手郡	田代卷次郎	古賀倫太郎
山門郡	友枝猛二	毛利載一	靴手郡	以下明治十五年	原田三郎
宗像郡	武島盛美	水落潔	靴手郡	勝木昌一郎	吉川正每
遠賀郡	森信夫	風斗實	靴手郡	福間賀四郎	福光寅七
那珂郡	谷口庄介	由布惟義	靴手郡	大谷朱一郎	大庭正藏
	末松貫一郎	中野塵一	靴手郡	土生純一郎	
	末松貫一郎	岡有昌	靴手郡	西島乾	小川源八
	末松貫一郎	岡有昌	靴手郡		

志摩郡	龜井雋永	八木大六	宗像郡	安部新三郎	中野貞五郎
靴手郡	吉川正每	武谷次郎	遠賀郡	毛利與八郎	毛利晋一郎
三淵郡	近藤真郷	鳥居秀作	御笠郡	岩崎一太郎	小松宥八
福岡區	蒲池見	朽網波江	怡土郡	堤小七郎	津田武右門
	利	木山喜八			

明治十五年九月

備考人口増加ニ付御笠企救郡ニ各壹名ヲ増員ス

現在員	兒島義來郎	青柳俊作	現在員	岡部啓五郎
大野嘉八	吉部正折	多田作兵衛		
木山嘉三郎	梅光寅六	小松宥吉		
原田金三郎	有松伴六	杉村俊吉		
藤田金三郎	安庭耕作	高野逸磨		
谷口正助	大庭耕作	小川源八		
中野貞五郎	調宜八郎	津田武右門		
毛利晋一郎	調宜八郎	津田武右門		
岡吉長	加藤新次郎	志摩郡		

二三

二三〇

早良郡	梅津村 耕介	生葉郡	古賀郡 東吉	師富進太郎
中津郡	福江角太郎	竹野郡	倉富恒二郎	牛島正八郎
企救郡	植村武三郎	御井郡	本初之助	川口茂三郎
京都郡	村上貫一郎	御原郡	杉本新藏	内藤茂三郎
仲津郡	入江精一	山本郡	佐々木正藏	古賀倫太郎
築城郡	毛利載一	荒卷篤術	山門郡	古賀小太郎
上毛郡	中村傳治	山鹿甚吾	三池郡	古賀小太郎
田川郡	野依範治	鳥居秀作	三池郡	古賀小太郎
福岡區	安中悦次郎	鏡野次郎	志摩郡	永江猪十郎
福岡區	大野未來	武谷次郎	八木大六	佐々木七五三
	木山喜八	柏尾郡	瀧田堅盤	渡邊純一

附記

早良郡	梅津 懋	戶川 直	席田郡	小川源八	西島 乾
仲津郡	入江 淡	長野 盛徳	上妻郡	内藤茂三郎	松延忠次
山本郡	山鹿 甚吾	中牟田直三	柏屋郡	小林作五郎	田代卷次郎
宗像郡	谷口 庄助	安部嘉三郎	遠賀郡	毛利晋一郎	楠本耕作
那珂郡	高野 逸磨	小河久四郎	穂波郡	大庭正藏	清水涼平
怡土郡	津田武右工門	庄崎彌七郎	上座郡	牧 宣八郎	古賀茂七郎
生葉郡	古賀 悠吉	石井 連藏	御笠郡	杉村 俊吉	
上妻郡	牛島正九郎	仁田原市三郎	仲津郡	長野盛徳	平松榮藏
福岡區	武谷次郎	野村 秀	御井郡	太田初之丞	吉田健助
宗像郡	中野 塵一	石村三太郎	三池郡	鳥居 秀作	平木廉藏
御笠郡	小松 宥八	森山 庄太	山門郡	水落 潔	境六郎
那珂郡	小河久四郎	末松勘次郎		朽網 浪江	赤司民也
				古賀小太郎	渡邊村男

明治十八年三月

現在員 郡區 現在員 郡區 現在員

備考人口増加ニ付遠賀郡上毛御笠郡ニ

上座郡	穂波郡	嘉麻郡	鞍手郡	遠賀郡	宗像郡	粕尾郡	福岡區
調古賀圓三郎	清川波平三郎	有松生多六郎	占吉部川柳三折	松有岡本久曆	石中安野嘉三郎	藤代金次郎	藤大兒井孫次郎
京都郡	企救郡	早良郡	志摩郡	怡土郡	那珂郡	御笠郡	下座郡
村上貫一郎	河植三福江村宅角太郎	中森村耕介	南鎌川正三郎	庄崎彌七郎	西島	萩野金十郎	加藤新次郎
山本郡	御原郡	御井郡	竹野郡	生葉郡	田川郡	上毛郡	仲津郡
中牟田直藏	荒卷篤術	田佐田杉小倉	倉富恒次郎	上石井連東	安早香川龍三	吉野村利平	井田謙吉
		田村々木新藏	杉本川敬守	石井連東	早川龍三	野村利平	筒井省吾
		田村々木新藏	杉本川敬守	石井連東	早川龍三	野村利平	筒井省吾

一三四

上妻郡	三洲郡
松隈本仁師赤鏡小境鹿	松隈本仁師赤鏡小境鹿
延要武市三郎	延要武市三郎
山門郡	下妻郡
立岡武風渡	立岡武風渡
花田島斗邊	花田島斗邊
親孤盛村	親孤盛村
信鹿美實男	信鹿美實男
三洲郡	三洲郡
津村宜哲	津村宜哲
永江猪千之	永江猪千之

附記

郡區	更迭年	退任	補欠	郡區	更迭年	退任	補欠
粕尾郡	以下明治十八年中	田代卷次郎	矢野尋十郎	遠賀郡		芳賀與八郎	副田一定
遠賀郡		有吉長平	芳賀與八郎	仲津郡		筒井省吾	中川三郎
鞍手郡		占部三折	小田甚作	生葉郡		菊池賢五郎	矢野良一
企救郡		三宅道俞	青柳四郎	三洲郡		竹内美代吉	綿貫寅雄
上妻郡		師富進太郎	牛島榮次郎	古賀朝徹		岩瀬元太郎	御舟八百重
三洲郡		推崎千之	足達熊彦	山門郡		渡邊村男	由布惟義

一三五

福岡區

肥田史  
青柳俊作

吉田鶴二郎  
後藤健作  
那珂郡

川波半三郎  
石田暢  
篠原和惣次  
淵上貫之

郡區

現在員

郡區

現在員

郡區

現在員

福岡區

吉田輛次郎  
大庭孫次郎

嘉麻郡

野上善兵衛  
麻生多次郎

席田郡

大神輔義  
津田守彦

箱田郡

藤井重三郎

穗波郡

清水涼平  
篠原和惣次

怡土郡

津田守彦

船越郡

藤越權之助

上座郡

古賀茂七郎  
調圓三郎

志摩郡

南山正雄  
南川正雄

宗像郡

德重正雄  
岡田道雄

下座郡

加藤新次郎

早良郡

森村耕介  
中村耕介

遠賀郡

岡本有耕  
添田久一

夜須郡

岡部兵衛  
多田作兵衛

企救郡

植村治三郎  
青柳四郎

鞍手郡

吉賀惣五郎  
小川正作

御笠郡

井手武右門  
庄野金十郎

京郡

狹間畏三  
平川榮藏

築城郡

井田謙吉  
中村傳太

御井郡

堤中  
田中真五郎

下妻郡

古賀倫太郎

上毛郡

野依範治  
常賀速水

御井郡

近藤真五郎  
佐藤木正

山門郡

岡布孤  
武島盛親

田川郡

桑野里七郎  
林芳太

三淵郡

鹿野寅二  
綿貫寅二

山門郡

武島盛親  
立花盛親

生葉郡

石井長一  
矢野長一

三淵郡

赤司八百重  
岩瀬元太郎

三淵郡

野田卯太郎  
足田卯太郎

竹野郡

倉富恒二郎  
荒卷篤衛

上妻郡

中川耕一  
松川耕一

三淵郡

野田卯太郎  
足田卯太郎

御笠郡

森山佳二  
杉村俊吉

谷武右門  
井手武右門

遠賀郡

岡田有昌  
副田一定

毛利晋一郎  
村田一郎

怡土郡

堤小七郎

津田守彦

志摩郡

山中茂

大神輔義  
坂倉謙次郎

一三七

明治十九年二月

附記

郡區 更迭年 退任 補欠 郡區 更迭年 退任 補欠

箱田重三 遠賀郡 岡田有昌 補欠

箱田重三 遠賀郡 副田一定 補欠

井手武右門 志摩郡 大神輔義 補欠

津田守彦 志摩郡 坂倉謙次郎 補欠

御笠郡	那珂郡	席田郡	怡土郡	志摩郡	早良郡	企救郡	京都郡	仲津郡
大谷好彦一	庄野金十郎	坂倉謙次郎	有富義雄	濱地新三郎	森田耕介	河内武之助	廣瀬正平	中宮川三郎
築城郡	上毛郡	田川郡	生葉郡	竹野郡	御井郡	御原郡	山本郡	
征矢野半彌	中枝村速水	園田熊太郎	佐林木正三	栗田代三	倉富恒次郎	堤中木正	荒卷篤衛	中牟田直藏
三洲郡	山門郡	三池郡	上妻郡	下妻郡				
宮崎民次	赤船八百重	御船八百重	岡田布孤	由布惟義	森花親	立花親	風斗親	野田卯太郎
藤岡敏章	宮崎民次	熊本壽人	赤船八百重	赤船八百重	赤船八百重	赤船八百重	赤船八百重	赤船八百重

明治廿年十一月

宗像郡	粕屋郡	福岡區	郡區	宗像郡	三池郡	三洲郡	生葉郡	田川郡	上毛郡	仲津郡
平安田道見	石松三郎	國崎三平	藤田金三	箱田重三	門司本	吉田次郎	吉田次郎	吉田次郎	吉田次郎	吉田次郎
嘉麻郡	遠賀郡	鞍手郡	郡區	宗像郡	三池郡	三洲郡	生葉郡	田川郡	上毛郡	仲津郡
野上善兵衛	松本久磨	毛田吉郎	栗田安壯	吉田正每	古野惣五郎	古野惣五郎	古野惣五郎	古野惣五郎	古野惣五郎	古野惣五郎
夜須郡	下座郡	上座郡	穗波郡	郡區	宗像郡	三池郡	三洲郡	生葉郡	田川郡	上毛郡
岡田作兵衛	加藤新次郎	調賀三郎	古賀三郎	古賀三郎	古賀三郎	古賀三郎	古賀三郎	古賀三郎	古賀三郎	古賀三郎



附記

郡區	更迭年	退任	補欠	郡區	更迭年	退任	補欠
那珂郡	以下明治廿年中	篠原和惣次	城石彌一郎	三瀨郡	以下明治廿年中	山崎辨之	境六郎
那珂郡		淵上貫之	梅野義郎	三瀨郡		藤金作	
早良郡		中村耕介	柏屋郡	遠賀郡		松本久磨	
上毛郡		中村傳太	原口大成	遠賀郡		吉川正每	
三瀨郡		赤司民也	山崎辨之	遠賀郡		吉川正每	
福岡區	以下明治廿一年中	門司 軋	大庭 弘	遠賀郡		尾崎 孫	
怡土郡		有田 懋	有田治三郎	遠賀郡		尾崎 孫	
早良郡		尾崎 孫	尾崎 孫	遠賀郡		尾崎 孫	
上毛郡		友枝速水	別府又十郎	遠賀郡		尾崎 孫	
福岡區				遠賀郡		尾崎 孫	
福岡區				遠賀郡		尾崎 孫	

明治二十三年二月

郡區	現在員	郡區	現在員	郡區	現在員
遠賀郡	村田 景吉	宗像郡	林 芳太郎	宗像郡	宮崎 克次郎
遠賀郡	末松 貫一	宗像郡	宮崎 克次郎	宗像郡	宮崎 克次郎
遠賀郡	望月 養平	宗像郡	宮崎 克次郎	宗像郡	宮崎 克次郎
遠賀郡	高崎 健助	宗像郡	宮崎 克次郎	宗像郡	宮崎 克次郎
遠賀郡	栗田 安壯	宗像郡	宮崎 克次郎	宗像郡	宮崎 克次郎
遠賀郡	加藤 周作	宗像郡	宮崎 克次郎	宗像郡	宮崎 克次郎
遠賀郡	後藤 健助	宗像郡	宮崎 克次郎	宗像郡	宮崎 克次郎
遠賀郡	麻生 次郎	宗像郡	宮崎 克次郎	宗像郡	宮崎 克次郎
遠賀郡	西田 彌四郎	宗像郡	宮崎 克次郎	宗像郡	宮崎 克次郎
遠賀郡	城石 彌一	宗像郡	宮崎 克次郎	宗像郡	宮崎 克次郎
遠賀郡	安田 耕一郎	宗像郡	宮崎 克次郎	宗像郡	宮崎 克次郎
遠賀郡	熊谷 藤三郎	宗像郡	宮崎 克次郎	宗像郡	宮崎 克次郎
遠賀郡	調谷 藤三郎	宗像郡	宮崎 克次郎	宗像郡	宮崎 克次郎
遠賀郡	上座郡	宗像郡	宮崎 克次郎	宗像郡	宮崎 克次郎
遠賀郡	下座郡	宗像郡	宮崎 克次郎	宗像郡	宮崎 克次郎
遠賀郡	夜須郡	宗像郡	宮崎 克次郎	宗像郡	宮崎 克次郎
遠賀郡	御笠郡	宗像郡	宮崎 克次郎	宗像郡	宮崎 克次郎
遠賀郡	那珂郡	宗像郡	宮崎 克次郎	宗像郡	宮崎 克次郎

三池郡 永江純千之 上妻郡 大内精一郎 下妻郡 大田黒子之吉

附記

郡區	更迭年	退任	補欠	郡區	更迭年	退任	補欠
下妻郡	以下明治廿三年中	古賀倫太郎	大田黒子之吉	三池郡		藤岡民治	朽網浪江
夜須郡		多田作兵衛	山田正修	志摩郡		名古屋敬吾	松隈利助
宗像郡		阿部真鐵	深川榮次郎	竹野郡		倉富恒二郎	本庄權之丞
三池郡		椎崎千之	松岡進士	下座郡		調圓三郎	
山門郡		岡田孤鹿	立花寛正	那珂郡		吉田朝二郎	
怡土郡		吉田孫一郎	風斗實	山門郡		風斗實	
御井郡		津山守彦	納富義雄	怡土郡		納富義雄	藤田藤太
宗像郡		佐々木正藏	近藤新次郎	加藤周助	以下明治廿五年中	加藤周助	古野惣五郎
鞍手郡		平田道見	占部文藏	上座郡		熊谷藤五郎	熊谷藤五郎
上妻郡	以下明治十四年中	加藤周助	加藤周助	御笠郡		大藪好太郎	高原謙三郎
		川口東	中村東藏				

明治二十五年十月

生葉郡	石井隆甫	石井連藏	山門郡	大村 務	三池親義
上毛郡	原口大成	渡邊 薫			
郡區	現在員	郡區	現在員	郡區	現在員
不破郡	不破國路	嘉麻郡	麻生多次郎	席田郡	津田蝶三郎
小野郡	小野重種	穂波郡	西田彌四郎	怡土郡	藤田武雄
山崎郡	山崎三平	上座郡	安田彌一	志摩郡	兒玉武雄
箱崎郡	箱崎重三	熊谷藤五郎	城石彌一	早良郡	鎌田利介
石松郡	石松要一	加藤新次郎	熊谷藤五郎	生葉郡	松田利介
中村郡	中村文太	鶴沼正見	加藤新次郎	竹野郡	森田正介
高月郡	高月敬平	山沼正見	鶴沼正見	御井郡	石賀俊藏
岡崎郡	岡崎有朋	谷原謙二	山沼正見	竹野郡	石賀俊藏
村田郡	村田吉景	高野金十郎	谷原謙二	御井郡	石賀俊藏
後藤郡	後藤健五郎	庄野金十郎	高野金十郎	御井郡	石賀俊藏
古野郡	古野惣五郎	濱野金十郎	庄野金十郎	御井郡	石賀俊藏
栗田郡	栗田伴藏	濱野金十郎	庄野金十郎	御井郡	石賀俊藏

明治廿七年五月

備考人口増加ニ付福岡鞍手御井郡ニ各役名ヲ増員ス

郡區	現在員	郡區	現在員	郡區	現在員
福園區	山野路重種	下座郡	加藤新次郎	早良郡	森田正路介
粕屋郡	大野村久未	嘉麻郡	坂口嘉一郎	島谷利貞郎	
宗像郡	中村竹太郎	夜須郡	高瀬彌十郎	京都郡	安野信吉
遠賀郡	岡田吉景	御笠郡	井手武右門	仲津郡	村上保之藏
鞍手郡	栗原伴藏	那珂郡	津田蝶三郎	築城郡	大原彦太郎
上座郡	熊田中久造	怡土郡	兒玉武雄	上毛郡	新貝芳三郎
		志摩郡	鎌田三郎助	田川郡	早川龍太郎

郡區	更迭年	退任	補欠	郡區	更迭年	退任	補欠
御原郡	熊手嘉久平			仲津郡	村上保又藏		
山本郡	鏡山直次			宮崎郡	宮崎克吉		
三潯郡	小野彦次郎			園田郡	園田熊太郎		
	熊本六人			宮崎郡	宮崎克吉		
上妻郡	中村武東藏			鶴田郡	鶴田厚治		
	本庄武八郎			大原郡	大原彦太郎		
下妻郡	江口正九郎			大森郡	大森武雄		
	牛島榮次郎			渡司掛鐵平			
郡區	更迭年	退任	補欠	郡區	更迭年	退任	補欠
夜須郡	山田正修			古野郡	古野惣五郎		
	以下明治廿六年中			有吉又作			
生葉郡	石井連藏			谷産一			
竹野郡	中島修治郎			井手武右門			
三潯郡	宮崎敏章			武內美代吉			
				江口正九郎			

生葉郡	古賀俊敏	三瀨郡	大網江	山門郡	森軍治
竹野郡	三浦恒太	横境田	川卯太郎	富安保太	由布惟義
御井郡	堤谷和五郎	上野榮次郎	御原郡	熊手嘉平	立竹花正
田川郡	早川龍藏	京都郡	草野信吉	林田六郎	林主稅
宗像郡	平田道見	京都郡	村上保之	林田六郎	林主稅
福岡區	小野新路	京都郡	田中久造	古林與六	香月耕作
上座郡	熊谷藤五郎	京都郡	加藤周助	香月耕作	香月耕作
竹野郡	三浦恒太郎	京都郡	本庄權之丞	原常藏	原常藏
上妻郡	坂本九郎	京都郡	渡邊 薫	恒遠清太郎	恒遠清太郎
江口正九郎	近藤好吉	京都郡	上野百次	上野百次	上野百次

附記

明治二十九年十月

山門郡	森軍治	石橋又一	
郡區	現在員	郡區	現在員
福岡市	小野村祐雄	三井郡	田中新一郎
粕屋郡	神武啓藏	山門郡	由布惟義
陵手郡	高倉房次	富安郡	富安保太
嘉穂郡	白石正一	近藤好吉	近藤好吉
朝倉郡	古藤新次郎	上野純一	上野純一
筑紫郡	谷田又十郎	浮羽郡	永松角三郎
糸島郡	鎌田三郎	宗像郡	古賀俊藏
早良郡	戸川直	三瀨郡	堀部文藏
京都郡	安田雲齋	山門郡	富安保太

附記

郡區	更迭年	退任	補欠	郡區	更迭年	退任	補欠
田川郡	以下明治廿九年中	高瀬九三治	植田與六	三池郡	以下明治廿一年中	永江純一	佐々木高
三瀨郡	以下明治三十年中	朽網浪江	溝田精一	安中岩勝		石井房次	栗田伴藏
田川郡		日高民藏	安中岩勝				

明治三十一年十月

郡區	現在員	郡區	現在員	郡區	現在員
福岡市	野村祐雄	京都郡	安部熊之輔	嘉穂郡	白石正尚
粕屋郡	神武啓藏	安田郡	田雲齋	朝倉郡	古林與六
宗像郡	倉田津九郎	大森郡	馬場昌夫	筑紫郡	井手武右門
鞍手郡	高倉伴藏	馬場郡	馬場昌夫	糸島郡	柴田又十郎
遠賀郡	楠野西貞	高橋郡	高橋與六	早良郡	鎌田三郎
					田中秀次郎
					青木基親

久留米市	岩谷胃四郎	山門郡	富安保太郎	八女郡	師富進太郎
浮羽郡	古賀俊藏	石川郡	石橋又一	近藤好吉	横溝宗吉
三井郡	棚町正九郎	溝田敬一	溝田敬一	板井真澄	近藤好吉
	田中新吾	三瀨郡	三瀨郡	佐々木高	佐々木高

附記

郡區 更迭年 退任 補欠

久留米市 以下明治廿二年中 岩谷胃四郎

明治三十二年九月

郡區	現在員	郡區	現在員	郡區	現在員
福岡市	林寬一郎	遠賀郡	加藤新次郎	筑紫郡	柴田又十郎
久留米市	岡茂平	鞍手郡	小方管之助	糸島郡	鎌田三郎
門司市	中山鹿雄	嘉穂郡	大石彌一	早良郡	有田次三郎
粕屋郡	神武啓藏	高瀬郡	高瀬彌十郎	三井郡	戸川直
宗像郡	古野孫太郎	朝倉郡	今村萬藏		中村新吾

浮羽郡	永松角三郎	築上郡	別府又十郎	山門郡	石橋又一郎
企救郡	中柳四利貞	三潞郡	溝田敬一	三池郡	河野修造
田川郡	林芳太郎	八女郡	深堀倉治		佐野修高
京都郡	長谷川鐵二		矢賀部恒雄		
	安田嚴治		横溝常而		

附記

郡區	更迭年	退任	補欠	郡區	更迭年	退任	補欠
三井郡	以下明治 廿三年中	中村茂	田中浩	福岡市	以下明治 廿四年中	小野隆太郎	野村祐雄
嘉穂郡		大屋久	入江進吉	八女郡		矢賀部恒雄	平島純一
企救郡		青柳四郎	神崎慶次郎	八女郡	以下明治 廿六年中	木下學而	隈本哲太郎
門司市		中村鹿雄	中村爲弘	粕屋郡		神武啓藏	神武啓藏
福岡市		石村寅吉	久留米市	大石健太郎		門司市	中村爲弘

明治三十六年九月

小倉市	古賀庸三	筑紫郡	川波荒次郎	山門郡	富安保太郎
粕屋郡	黒瀬才二郎	糸島郡	小島尙吾	三池郡	河野修造
早良郡	樋口彌十郎	浮羽郡	佐藤列城	田川郡	伊藤万太郎
宗像郡	古野孫太郎	三井郡	井手忠次郎	京都郡	安田福市
遠賀郡	金子勝太郎	三潞郡	溝田敬一	築城郡	大森武雄
鞍手郡	栗田伴吉	八女郡	隈本哲太郎	企救郡	松下武雄
嘉穂郡	城石彌三郎		牛島榮次郎		安部熊之輔
朝倉郡	多田申五郎		牛島精一		

附記

郡區	更迭年	退任	補欠	郡區	更迭年	退任	補欠
嘉穂郡	以下明治 廿七年中	城石彌一郎	坂口榮	京都郡		園田福市	佐々角太郎
小倉市		古賀庸三	松井辰三郎	八女郡		牛島榮次郎	延万青

福岡縣會議員

席順	族籍	職業	現住所	氏名	生年月日
一	平民	商業	福岡市下堅町	遠藤甚藏	嘉永六年二月十九日生
二	平民	農業	嘉穗郡千手村	坂口榮	
三	士族	村長	浮羽郡水繩村	小野列城	安政六年五月廿七日生
四	平民	醫士	京都郡	安田雲齋	天保七年十二月廿七日生
五	士族	銀行重役	朝倉郡金川村	鬼木中五郎	万永元年正月廿八日生
六	士族	辨護士	小倉市船頭町	松井辰三郎	嘉永六年二月一日生
七	平民	農業	三潞郡西牟田村	深堀倉治	弘化四年五月生
八	平民	農業	遠賀郡香月村	金子勝太郎	元治元年十月十二日生
九	平民	農業	筑紫郡山家村	都島茂七	嘉永元年十月二十日生
十	平民	公吏	浮羽郡千年村	佐藤準藏	安政三年四月十二日生
十一	平民	農業	田川郡安真木村	伊藤萬太郎	明治元年二月一日生
十二	平民	銀行重役	朝倉郡栗田村	多田勇	安政四年五月九日生
十三	士族	縣會議員	山門郡川北村	議長富安保太郎	元治元年五月生

十四	士族	村長	糸島郡一貴山村	松尾伊和治	慶應二年二月二日生
十五	平民	商業	福岡市上市小路町	石村虎吉	明治二年五月十五日生
十六	平民	農業	企救郡西谷村	安部熊之助	文久元年十二月生
十七	平民	農業	筑紫郡大野村	河波荒次郎	慶應元年八月十八日生
十八	平民	農業	鞍手郡劍村	栗田伴造	文久元年十月廿三日生
十九	平民	農業	田川郡津野村	園田熊太郎	安政六年十二月廿八日生
二十	平民	農業	築上郡友枝村	副議長大森武雄	嘉永六年十二月廿八日生
廿一	平民	農業	鞍手郡日吉村	毛利蘭吉	明治二年正月五日生
廿二	士族	辨護士	久留米櫛原町	大石健太郎	元治元年五月七日生
廿三	平民	雜業	糸島郡前原村	小島尙吾	明治二年七月十九日生
廿四	平民	農業	遠賀郡洞南村	佐藤實	文久二年十二月廿七日生
廿五	士族	農業	三潞郡久間田村	江上敏雄	嘉永四年六月生
廿六	平民	農業	粕屋郡勢戸村	黒瀬才二郎	明治二年十月生
廿七	平民	商業	三井郡大刀洗村	井平忠次郎	安政四年三月十四日生
廿八	平民	銀行重役	三井郡山川村	赤司勝太	文久二年四月廿九日生

廿九	士族	縣會議員	三池郡三川村	河野修造	文久二年五月十一日生
三十	士族	村長	山門郡鷹尾村	藤木精吉	慶應元年十一月生
卅一	平民	公吏	八女郡下妻村	尋木精一	嘉永四年八月生
卅二	平民	農業	宗像郡河東村	古野孫太郎	文久二年正月二日生
卅三	平民	村長	三池郡銀水村	千田精二	万延元年二月廿八日生
卅四	士族	村長	京都郡豐津村	佐々木角太郎	慶應二年十月七日生
卅六	平民	農業	嘉穂郡庄内村	有松滋三郎	万延元年正月十一日生
卅七	平民	雜業	門司市本町	中村爲弘	文久二年二月一日生
卅八	平民	農業	八女郡八幡村	本哲太郎	万延元年十一月生
卅九	士族	工業	八女郡岡山村	延万吉	
四十	平民	商業	早良郡入部村	樋口彌十郎	明治五年三月生
四十一	士族	農業	築上郡土城井村	松下次郎	嘉永五年十月二日生

福岡市長  
 上任年月日 退任年月日 位勳 氏名

明治廿二年五月廿七日	山中立木
明治廿六年一月十日	磯野七平
明治廿八年五月廿八日	奥山享
明治卅二年八月廿一日	正七位 松直美
明治卅八年八月廿三日	正七位 佐藤平太郎

福岡市助役

上任年月日	退任年月日	氏名
明治廿二年五月廿八日	明治廿七年八月廿四日	應取甚橋
明治廿七年八月廿四日	明治廿九年三月中	濱田九郎
明治廿九年四月廿七日		小野直路

全名譽參事會員

- 有吉七郎
- 堀尾彦六郎
- 林爲次郎
- 岡部覺



不破國雄

太田清藏

一五六

市會議員

長尾太平次

遠山克良

高島習

末次吉松

柴田良之助

竹田勘太郎

吉貝甚右衛門

岩隈久兵衛

原田善右

社家間善次郎

有吉久兵衛

五十嵐圓助

藤崎強太郎

古森真太郎

湯下壽

深川奎三郎

納屋羊吉

武藤勝平

大隈壯太郎

倉成久米吉

石藏利助

遠藤甚藏

高須徳次

太田太兵衛

中野和四郎

梶原景克

香江誠

門司儀莊

横田正次郎

福田惇

原田到

竹内與七郎

中原太三郎

山崎宗三郎

右田惣次郎

久留米市長

明治三十八年十二月調

任命年月日

罷免年月日

氏名

明治廿二年五月七日

明治廿七年四月九日

内藤新吾

明治二十七年五月廿一日

明治卅一年十月廿五日

田中順信

明治卅一年十二月十五日

明治卅七年十二月十四日

石田瑞穂

明治卅八年九月九日

現

吉田惟清

一五七

久留米市助役

任命年月日

罷免年月日

氏名

明治廿二年五月三十日

明治廿七年五月廿日

田中順信

明治廿七年六月一日

明治卅一年十二月十四日

石田瑞穂

明治卅一年十二月廿四日

現今

惠利千次郎

全市名譽參事會員

後藤謙

大藪房次郎

三谷有信

本村庄平

日高常次郎

松田正定

全市會議員

豐田四郎

水田常三郎

橋本猪之吉

佐々木高

菊竹熊太郎

福島透平

弓削岩次郎

阿部竹次郎

伊藤重光

三原亘

岡野藏吉

永田衍三郎

青木茂三郎

松村圓

寺崎久次郎

永尾萬吉

土肥生

三安宗太郎

村上善太

中原安次郎

古賀與三郎

國武喜市

佐藤正範

石田守之助

飯田榮次郎

伊藤米吉

前田米助

本田啓太郎

本村利兵衛

高原昌治

門司市長

三十八年十二月調

任命年月日

罷免年月日

氏名

明治卅二年八月十日

明治卅五年二月廿二日

廣澤哲郎

明治卅五年六月廿四日

田代郁彦

### 門司市助役

任命年月日

罷免年月日

氏名

明治廿二年八月廿八日

明治三十五年二月三日

梅月瀨太郎

明治卅五年七月廿五日

佐藤喜佐吉

### 全名譽參事會員

大橋淡

中原實三郎

隅田廣吉

松田辰治

磯部松藏

内野慶太郎

### 全市會議員

吉田清一郎

西田彦助

中村爲弘

堤勲吉

井手茂三郎

若木榮助

柴崎二三郎

大久保利吉

隅田五郎吉

石原雅一

作中大八郎

隅田廣吉

藤井高文

中原實三郎

西川勝太郎

大橋淡

佐々木富樫

磯部松藏

前田久太郎

岸耕三郎

小川重兵衛

北中百合吉

工藤國太郎

松尾大吉

長野怡

平岡常次郎

平田三代藏

石田玉吉

司城 一 義

小倉市長

三十八年十二月調

任命年月日

罷免年月日

氏名

明治卅三年七月

明治卅四年二月

吉澤直行

明治卅四年七月

現今

村岡益章

小倉市助役

任命年月日

罷免年月日

氏名

明治卅三年八月

現今

大塚源三郎

全名譽參事會員

上村延壽  
海保芳吉  
齋藤美知彦

土方兵次郎  
飯森辰次郎  
原口大成

全市會議員

築田榮太郎  
杉山正義  
藤本松次郎  
海津嘉吉  
飯田藤吉  
釜田嘉會助  
神崎坦三郎  
小林芳植  
二村嘯奄  
廣田久太郎  
關權兵衛  
松井辰三郎  
小林庄三郎  
岸本周助  
西元朴

井生大吉  
秋吉彌平  
利邊龜太郎  
島田源二  
飯森辰次郎  
坂本治三郎  
井澤元兵衛  
新安左衛門  
川上長三郎  
妹尾万次郎  
西村善造  
大日方要助  
井上秀吉  
海保芳吉

郡會議員

精屋郡 定員廿二人

箱崎町 清水與三 明治廿六年九月卅日 當選

全 黒木太郎 全 上

志免村 清原徳郎 全 明治廿八年三月十四日 當選

宇美村 神武啓造 全 明治廿六年九月三十日 當選

全 小林作五郎 全 上

須惠村 田原精一 全 上

仲原村 原田三郎 全 上

大川村 山野八平 全 上

勢門村 合屋又治 當選ノ旨廿八年六月五日 報告

篠栗村 藤淺次郎 全 明治廿六年九月三十日 當選

久原村 安河内庄介 全 上

山田村 國崎三平 全 上

多々良村 安部藤太 全 上

三十八年十一月調

香推村 中村安太郎 明治廿六年九月三十日 當選

立花村 吉田忠三郎 全 上

青柳村 清水喜一郎 全 上

小野村 吉住吉郎 全 上

席内村 三輪健太郎 全 明治廿八年三月十四日 當選

新宮村 安武敬一郎 全 明治廿六年九月三十日 當選

全 森幸助 全 上

和白村 小金九六郎 全 上

志賀島村 庵原秋太郎 全 上

宗 像郡 定員十九人

吉武村 立石準二 明治廿六年九月三十日 當選

赤間町 林彌平 全 上

全 吉田六兵衛 全 上

河東村 花田庄三郎 全 上

宮田村 眞武徳太郎 全 上

野坂村 中村武雄 全 上

東郷村 川島田造 全 上

上西郷村 伊藤哲夫 全 上

下西郷村 廣渡實一 全 明治廿七年三月十四日 當選

津屋崎町 占部文造 全 明治廿六年九月三十日 當選

全 高山鏡夫 全 明治廿七年六月廿五日 當選

宮地村 阿部圓 全 明治廿六年九月三十日 當選

勝浦村 花田孫作 全 上

田島村 安永威積 全 上

池野村 網脇木一郎 全 上

岬村 大久保清十郎 全 上

神港村 磯部正助 全 上

大島村 河野幸作 全 上

遠 賀郡 定員二十人

岡縣村 長畑佐一郎 全 明治廿六年九月三十日 當選

矢矧村 小野八三 全 上

淺木村 筋田精一 全 上

島門村 矢野與壯 全 上

底井野村 小田爲次郎 全 上

水巻村 白石兵次郎 全 上

長津村 高野梅吉 全 上

香月村 金子大次郎 全 上

上津役村 秋吉初太郎 全 上

洞南村 佐藤實 全 上

黒崎町 望月藏平 全 上

八幡町 芳賀種義 全 上

若松町 能美清次 全 上

全 石崎敏行 全 上

洞北村 品川豊吉 全 上

石峰村	高崎 義雄 全	廿六年九月三十日
江川村	山崎 廷太郎 全	上
蘆屋町	小野 貞次郎 全	上
鞍手郡	定員廿四人	
直方町	岡田 源吾 全	廿六年九月三十日
全	重松 英二郎 全	上
勝野村	原田 專三郎 全	上
全	原 讓造 全	上
頓野村	帆足 勝彦 全	上
全	香月 悦造 全	上
木屋瀬町	仲西 信次郎 全	上
全	吉田 素夫 全	上
西川村	櫻井 源三郎 全	上
全	上田 梅次郎 全	上
新入村	青柳 修一 全	上
香井田村	酒井 運 全	廿六年九月三十日
宮田村	吉柳 彌三郎 全	上
福地村	古田 浩介 全	上
下境村	重松 昌樹 全	上
植木町	阿部 卯之助 全	上
劔村	栗田 嘉作 全	上
古月村	入江 新吉 全	上
笠松村	光安 與三郎 全	上
山口村	荒卷 定吉 全	廿八年二月廿五日
中村	安永 一郎 全	廿六年九月三十日
若宮村	蘆川 善兵衛 全	上
日吉村	萱島 藤太郎 全	上
吉川村	秋子 勇生 全	上
嘉穂郡	定員二十七人	
飯塚町	新開 富三郎 全	廿六年九月三十日

全	高野 辰次郎 全	上
穂波村	合屋 利吉 全	上
大分村	野中 次吉 全	上
全	入江 源吾 全	上
千手村	大屋 久 全	上
稚井村	佐谷 道哉 全	上
全	福田 喬任 全	上
笠松村	麻生 惣兵衛 全	上
黒田村	白土 宗次郎 全	上
二瀬村	林田 德三郎 全	上
鎮西村	赤間 茂七郎 全	上
桂川村	瓜生 和五郎 全	上
上穂波村	大塚 新次郎 全	上
内野村	藤井 松次郎 全	上
足白村	入江 準吉 全	上
宮野村	梅根 專三郎 全	廿六年九月三十日
熊田村	金崎 米吉 全	上
大隈町	田生 正次 全	上
稻月村	福光 太三郎 全	上
庄内村	上野 彌一郎 全	上
朝倉郡	定員二十八人	
小石原村	高倉 正利 全	廿六年九月三十日
寶珠山村	片岡 望作 全	廿七年四月十二日
松末村	熊谷 藤五郎 全	廿七年九月三十日
杷木村	井手 辰次郎 全	上
久喜宮村	都合 徳太郎 全	廿七年六月十五日
志波村	橋本 綱吉 全	廿六年九月三十日
高木村	淵上 惣次郎 全	上
朝倉村	古林 三五郎 全	廿八年五月十二日
宮野村	田中 八十八 全	廿七年九月三十日

福成村	森部隆三	全	廿七年九月三十日
大庭村	調圓吾	全	上
三奈木村	加藤新次郎	全	上
全	田中仔助	全	上
立石村	橋本郁太郎	全	上
蟠城村	岸元規	全	上
福田村	桑野芳助	全	上
金川村	大林健太郎	全	上
上秋月村	大倉喜太郎	全	上
秋月町	平江實	全	上
安川村	芳野千足	全	上
甘木町	藤井久兵衛	全	上
全	上野奎次	全	上
馬田村	綿貫治郎兵衛	全	上
大三輪村	内藤政太郎	全	上
栗田村	高瀬彌十郎	全	廿六年九月三十日
中津屋村	平島覺三郎	全	上
三根村	浦山卯八	全	上
安野村	北原孫一郎	全	上
筑	紫郡	定員廿六人	
大野村	原久吉	全	廿六年九月三十日
全	高原善三	全	上
永城村	陶山巍	全	上
大宰府町	齋藤壽七	全	上
全	大野宗策	全	上
御笠村	平島惣五郎	全	上
山家村	山田禮三郎	全	上
筑紫村	山内範藏	全	上
山口村	高原萬平	全	上
二日市町	佐藤峰次郎	全	上

春日村	武末甚太郎	全	上
安徳村	柴田又十郎	全	上
南畑村	山下文七	全	上
岩戸村	日下部音次郎	全	上
三宅村	貞方淺次郎	全	上
臼佐村	淵上貫之	全	上
那珂村	川邊精五郎	全	上
八幡村	箕原莊作	全	上
警固村	庄野金十郎	全	上
住吉村	濱地禎造	全	上
全	古森藤次郎	全	廿八年九月三十日
堅粕村	大熊淺次郎	全	廿六年九月三十日
全	水津謙夫	全	上
豊平村	梅津榮次郎	全	上
千代村	村田時吉	全	上
席田村	小方寅吉	全	廿六年九月三十日
糸	島郡	定員二十三人	
前原町	小島尙吾	全	廿六年九月三十日
全	谷口大音	全	廿八年六月廿七日
加布里村	檜崎顯三	全	廿六年九月三十日
深江村	坂本健之助	全	上
福吉村	檜崎小助	全	上
全	山崎巍	全	上
一貴山村	古川清太郎	全	上
長糸村	谷口福太郎	全	上
雷山村	有田武一	全	上
波多江村	中村六郎	全	上
怡土村	八木敬賢	全	上
全	山崎猿太郎	全	上
周船寺村	谷浦太郎	全	上

今宿村	西村長三郎	全	廿七年十二月廿三日
元岡村	富永英助	全	廿六年九月三十日
今津村	笠富吉	全	上
北崎村	宗九八郎	全	上
全	中村惣三郎	全	上
櫻井村	山本收太	全	上
野北村	鬼塚岡太郎	全	上
芥屋村	吉村茂三郎	全	上
小富士村	大櫛仁八郎	全	上
可也村	松尾五右工門	全	上
早	長郡	定員十九人	
鳥飼村	濱秀軌	全	廿六年九月三十日
樋井川村	西島連	全	上
全	白水璣	全	上
原村	守田資作	全	上

原村	藤井次三郎	全	廿六年九月三十日
田隈村	月川直	全	上
全	石橋光次郎	全	上
入部村	樋口彌十郎	全	上
内野村	友納千代吉	全	上
全	平川仁七	全	上
脇山村	馬男木次一郎	全	上
姪濱町	高木善次郎	全	上
全	柴藤善造	全	上
殘島村	前田次右衛門	全	上
金武村	鍋山伊左基	全	上
壹岐村	青木真五郎	全	上
全	土斐崎三右工門	全	上
西新町	伊佐右平	全	上
全	松田平三郎	全	上

浮

吉井町	羽郡	矢野友吉	全	廿六年九月三十日
姫治村	佐藤隆夫	全	上	
山春村	河北芳太郎	全	上	
全	津田藤四郎	全	上	
大石村	杉藤七	全	上	
浮羽村	佐藤養太	全	上	
椿子村	山崎又敬	全	上	
千年村	國武彌平	全	上	
全	久保田惠三郎	全	上	
福富村	大石文助	全	上	
水繩村	矢野得太郎	全	上	
船越村	倉富強五郎	全	上	
全	三浦麟之助	全	上	
水分村	田中長次郎	全	上	

田主丸町

田主丸町	鹿毛久次郎	全	廿六年九月三十日
全	今村藤助	全	上
柴蒔村	空閑庄五郎	全	上
全	高山重次郎	全	上
川會村	古賀直三郎	全	上
竹野村	野口紋四郎	全	上
江南村	栗林龜次郎	全	上
三	井郡	定員廿二人	
節原村	權藤喜三太	全	廿六年九月三十日
合川村	西村延次郎	全	上
國分村	内藤半次郎	全	上
全	眞藤榮	全	上
上津荒木村	中村壽太郎	全	上
高長内村	丸山與助	全	上
御井町	厨良秀	全	上



山川村	富安猪三郎	全	廿六年九月三十日
弓削村	小柳政五郎	全	上
宮ノ陣村	石橋 襄	全	上
味坂村	永利伊次郎	全	上
北野町	松隈平造	全	上
大城村	重富 一	全	上
金島村	大久保損造	全	上
大堰村	高松直之	全	上
太刀洗村	堀内 請吾	全	上
本郷村	江下 寅彦	全	上
立石村	樋口陽太郎	全	上
三國村	高松 吉平	全	上
小郡村	河原 嘉助	全	上
山本村	赤司藤太郎	全	上
御原村	高松宗八郎	全	上

草野町	上野 寛造	全	廿六年九月三十日
大橋村	宮原卯次郎	全	上
善導寺村	大久保遠太	全	上
三	三 游 那	定員廿三人	上
鳥飼村	熊九嘉次郎	全	廿六年九月三十日
安武村	原口 健造	全	上
西牟田村	深堀 倉次	全	上
荒木村	近藤 宗夫	全	上
大善寺村	武田 藤吉	全	上
犬塚村	森山 嘉吉	全	上
三瀬村	堤 友 助	全	廿七年五月十日
城島町	小野喜久治	全	上
田口村	鶴 周 一	全	上
青木村	徳永仙之助	全	上
大澤村	池田 藤治	全	上

木佐木村	北 島 利	全	廿六年七月三十日
木室村	境 卯三郎	全	上
三叉村	塩川 萬	全	上
大川町	深町岩太郎	全	上
全	石橋彌三郎	全	上
大野島村	武下彌平次	全	上
江上村	島 敬之	全	上
蒲地村	近藤善太郎	全	上
大莞村	木村千代松	全	上
浪武村	大津 留菰	全	上
久間田村	江上 敬雄	全	廿七年九月三十日
川口村	石川 水速	全	上
八	女 郡	定員三十人	上
八幡村	平 米 作	全	廿七年九月三十日
川崎村	田村順造	全	上

中廣川村	丸山 爲吉	全	廿七年九月三十日
下廣川村	今戸芳太郎	全	上
忠見村	松 延 茂	全	上
黒木町	隈本勝三郎	全	上
岡山村	松 延 青	全	上
水町村	野田岩太郎	全	上
羽犬塚村	田中之生	全	上
横山村	川口 小市	全	上
白木村	高橋 祐吉	全	上
北川内村	木下長太郎	全	上
光友村	玉井 十郎	全	上
長畧村	堤 保	全	上
下妻村	大田黒俊一郎	全	上
北山村	立花 茂義	全	上
福島町	室園 十藏	全	廿七年十一月廿二日

串毛村	堤 伴七	全	廿七年九月三十日
邊春村	大石 琢磨	全	上
二川村	清水 真全	全	上
三河村	樋口 正作	全	上
豊岡村	橋本 嘉助	全	上
上廣川村	萩尾 民治	全	上
大淵村	岸川 理一	全	上
木屋村	仁田原團九郎	全	上
笠原村	松尾 安平	全	上
矢部村	隈本 哲太郎	全	上
上妻村	武藤 重次郎	全	上
星野村	江頭 彌一郎	全	上
山	門 郡	定員二十九人	
柳川町	高棕 金次郎	全	廿七年九月三十日
全	松永 新二	全	上
柳河町	中村 靜郷	全	廿七年九月三十日
有明村	平河 平作	全	上
全	沖 靜茂	全	上
沖端村	古賀 久三郎	全	上
沖端村	山本 安次郎	全	上
沖端村	今山 真清	全	上
瀬高町	阿部 一太郎	全	上
全	川島 章平	全	上
城內村	山崎 斷	全	上
西宮永村	梶山 信	全	上
東宮永村	内山 養民	全	上
而開村	山口 米太郎	全	上
鷹尾村	益子 鶴三郎	全	上
藪塚村	伊藤 雅	全	上
宮內村	東原 拓造	全	上

川邊村	目野 忠吉	全	廿七年九月三十日
川北村	甲斐原 道庵	全	上
垂草村	綿貫 洋二郎	全	上
小川村	成清 博愛	全	上
川沿村	馬場 義勝	全	上
木郷村	檀 彦次郎	全	上
水上村	沖 健雄	全	上
清水村	清水 實佐喜	全	上
綠村	樺島 益隆	全	上
富原村	檀 歡造	全	上
萬里小路村	荒井 信彦	全	上
三	池 郡	定員十七人	
飯江村	渡邊 純一	全	廿七年九月三十日
岩戸村	松尾 喜久藏	全	上
江浦村	浦家 淑全	全	上
二川村	南部 忠文	全	廿七年九月三十日
開村	坂口 廉太郎	全	上
倉永村	松岡 進士	全	上
上內村	上原 真吉郎	全	上
銀水村	清水 岩造	全	上
三池町	増町 千太郎	全	上
手鎌村	岩井 芳三郎	全	上
大牟田町	福井 福太郎	全	上
全	阪井 眞澄	全	上
全	森 時三郎	全	上
全	藤本 俊策	全	上
三川村	北原 久米三郎	全	上
馬馬村	辻 嘉七	全	上
玉川村	墨田 嘉七	全	上
企	救 郡	定員二十一人	

板橋村	中村種之助	全	廿七年九月三十日
全	柳瀬儀二郎	全	上
東郷村	濱井房吉	全	上
全	森川房吉	全	廿八年八月四日
松夕枝村	友石類次郎	全	廿七年九月四日
全	山口亨一	全	上
足立村	白石茂二郎	全	上
全	砂本定助	全	上
會根村	畠中靜雄	全	上
全	古海舖之助	全	上
東紫村	山本春洞	全	上
全	藤井義則	全	廿七年八月四日
柳浦村	渡邊五平	全	上
鷺岳村	松本彦次郎	全	上
新綱村	井上徳之丞	全	上

芝津村	宮崎林右工門	全	廿七年四月八日
城野村	豐田多賀次郎	全	上
西紫村	古谷勇太	全	上
西谷村	香春哲之助	全	上
中谷村	中野萬次郎	全	上
東谷村	山家榮三郎	全	上
田	川郡	定員二十五人	
弓削田村	平岡儀平	全	廿七年九月三十日
全	福田定次	全	上
赤村	安中岩勝	全	上
全	小川禮太郎	全	上
彦山村	黒崎延次郎	全	上
全	野北幸七	全	上
上野村	長谷川庫次	全	上
全	皆川繁太郎	全	上

方城村	田中也造	全	上
採銅所村	原田式部	全	上
香春町	小倉助吉	全	上
勾金村	浦野市太郎	全	上
津野村	小野勘三郎	全	上
添田村	宮崎芳太郎	全	上
大任村	中村彦太郎	全	上
伊田村	藤井淳一	全	上
中元寺村	伊藤平	全	上
安真木村	柳武勝太郎	全	上
川崎村	有吉房太郎	全	上
位猪金村	中村武文	全	上
原田村	二田水庄造	全	上
神田村	島津勝太郎	全	上
金川村	藤堂愿哉	全	上

京	都	郡	定員二十四人
荻田村	和田又八郎	全	廿七年九月三十日
小波瀬村	玉井奔知徳	全	上
白川村	森本市五郎	全	上
椿市村	松本定之	全	廿八年八月十二日
諫山村	長野米太郎	全	廿七年九月三十日
久保村	木村松次郎	全	上
黒田村	木村藤太郎	全	上
稗田村	村上欽次郎	全	上
延永村	古川右衛	全	上
行橋町	長野盛徳	全	上
全	柏木守三	全	上
今川村	小熊惣太郎	全	上
今元村	村上榮續	全	上
養原村	磯村保平	全	上

仲津村	城戸	巖次	全	廿七年九月三十日	推田町	平塚	又太郎	全	廿七年九月三十日
穉郷村	進	古太郎	全	上	西角田村	井上	青太郎	全	上
豐津村	宮下	賢造	全	上	角田村	淺尾	三保吉	全	上
犀川村	宇野	寅彦	全	上	山田村	長谷川	曆三	全	上
全	高田	常松	全	上	八屋町	浦野	岩吉	全	上
全	中村	大三郎	全	上	全	友枝	猛三	全	上
節丸村	進	宗太郎	全	上	千束村	筧	彦九郎	全	上
城井村	藤川	長治	全	上	宇島町	半田	友治	全	上
伊良原村	小野	定次郎	全	上	三毛門村	尾家	悦造	全	上
築	上	郡	定員二十六人		榎武村	恒遠	清太郎	全	上
上城井村	鶴田	常三郎	全	廿七年九月三十日	合河村	恒成	常五郎	全	上
下城井村	石川	熊太郎	全	上	岩尾村	渡邊	勘三郎	全	上
築上村	福田	重德	全	上	西吉富村	鶴田	正夫	全	上
全	永尾	治身	全	上	友枝村	吉村	治善	全	上
八津田村	原	彌三郎	全	上	全	高野	興見	全	上

唐原村 百留 國司 全 上  
南吉富村 秋吉 實造 全 上  
東吉富村 小田 榮十郎 全 廿七年九月三十日  
今吉 陸造 全 上

本縣下各町村長氏名

三十八年十月調

箱崎町	阿部	包保	立花村	森	紋吉	河東村	薄	知行
志免村	稻永	勝次郎	青柳村	安部	定望	池野村	網脇	太一郎
須惠村	吉村	魁三	小野村	飯尾	助十	神港村	堀	桂太郎
宇美村	小林	唯次郎	席田村	小田	泰	田島村	中野	貞五郎
多々良村	藤野	清三郎	新宮村	安武	永太郎	岬村	石橋	太之助
篠栗村	藤	喜八郎	和白村	堺	千代吉	東郷村	中山	吉太郎
仲原村	菊地	理走	志賀島村	石川	九郎	宮田村	中村	保三
勢川村	高橋	勝兵衛	久原村	木村	義夫	野坂村	中村	武雄
大川村	井上	次蒼	●宗	●像	郡	神興村	倉田	主米造
山田村	鮎川	貞治	吉武村	高山	傳吾	上西郷村	水	上利平